男女共同参画に関する世論調査
（令和元年度）

愛媛県県民環境部県民生活局男女参画・県民協働課

目　次

Ⅰ　調査の概要　1
Ⅱ　調査結果の概要　4
Ⅲ　調査の結果　14
問1　男女共同参画に関する認知度　14
問2　男女の地位の平等感　17
問3　性別を理由に人権が守られていないと思う事項　20
問4　女性に対する暴力をなくすための方策　22
問5　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無　25
問6　暴力を受けた場合の相談先　28
問7　メディアにおける性や暴力の表現　30
問8　行政が力を入れるべき事項　32
問9　結婚、家庭、離婚についての意見　36
問10　子どもに受けさせたい教育　41
問11　教育に対する意識　43
問12　女性がもっとついた方がよい役職や公職　46
問13　女性リーダーを増やすときの障がい　48
問14　ポジティブ・アクションに対する考え方　50
問15　地域の防災活動における男女の活動　51
問16　家庭での役割分担　52
問17　家事・育児・介護の分担等　61
問18　家庭での役割分担の現状　64
問19　家庭での役割分担の現状に対する満足度　66
問20　本県における女性の労働条件　68
問21　出産後働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこと　70
問22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ　72
問23　男性の家事等への参加に必要な条件　74
問24　生活の中での優先順　77
問25　今後女性の活躍が重要となる分野　81
問26　男女共同参画社会の実現に向け、県が実施すべき事業　82
問27　行政への要望事項　90
Ⅳ　国の調査との比較　96
調査票　104

Ⅰ　調査の概要

1　調査概要

・調　査　名：令和元年度男女共同参画に関する世論調査
・目　　的：男女共同参画の視点から県民の日常生活における性別役割分担等の意識や実態等を把握し、今後の男女共同参画の施策の基礎データとする。
・調 査 期 間：令和元年 10 月～11 月
・調査対象者：18 歳以上の県内在住者
・標　本　数：2,000 人
・抽 出 方 法：選挙人名簿から 2 段無作為抽出
・配 布 方 法：郵送方式

調査対象者	調査対象者数（標本数）	有効回収数	有効回収率
18 歳以上の県内在住者	2,000	908	45.4%
（参考）前回調査（平成 26 年度）	2,000	903	45.2%

2　報告書の見方について

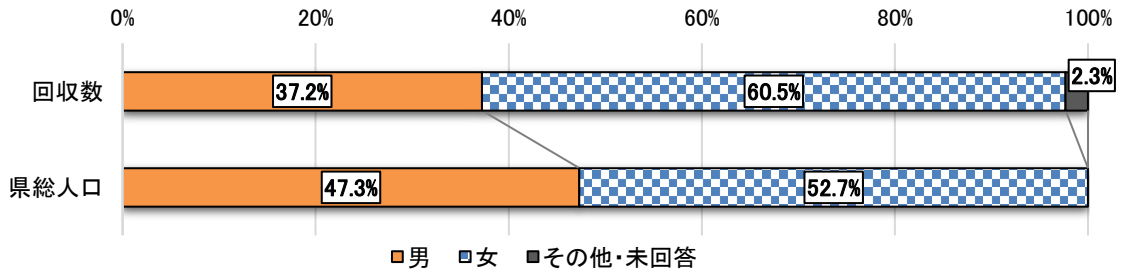
・回答結果の割合「%」は、回答者数（n）に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100%にならない場合があります。
・複数回答(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数（n）に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、「%」合計が 100%を超える場合があります。
・複数回答(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、クロス集計では、回答者数（n）は、無回答を除いた数となっています。
・グラフ及び表中に「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答条件に沿っていないものを含んでいます。
・グラフ及び表中の n（number of case）は、集計対象者総数です。

3　性別・年齢別・職業別回収結果

		全体			内訳							
					男性			女性			その他	無回答
		配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)	回収数(人)	回収数(人)
		2,000	908	45.4%	947	338	35.7%	1,053	549	52.1%	2	19
年齢	18～20歳	34	14	41.2%	16	6	37.5%	18	8	44.4%	0	0
	20～29歳	202	58	28.7%	101	24	23.8%	101	33	32.7%	1	0
	30～39歳	251	109	43.4%	131	37	28.2%	120	72	60.0%	0	0
	40～49歳	334	144	43.1%	180	57	31.7%	154	87	56.5%	0	0
	50～59歳	312	170	54.5%	157	65	41.4%	155	105	67.7%	0	0
	60～69歳	322	178	55.3%	150	74	49.3%	172	104	60.5%	0	0
	70～79歳	299	142	47.5%	131	52	39.7%	168	90	53.6%	0	0
	80歳以上	246	73	29.7%	81	22	27.2%	165	50	30.3%	0	1
	無回答	－	20	－	－	1	－	－	0	－	1	18
職業	農林漁業	－	27	－	－	18	－	－	9	－	0	0
	自営業	－	65	－	－	39	－	－	26	－	0	0
	勤め人(常勤等)	－	320	－	－	174	－	－	146	－	0	0
	勤め人(パート等)	－	157	－	－	29	－	－	128	－	0	0
	主婦・主夫	－	229	－	－	24	－	－	204	－	1	0
	その他(学生等)	－	79	－	－	47	－	－	31	－	1	0
	無回答	－	31	－	－	7	－	－	5	－	0	19

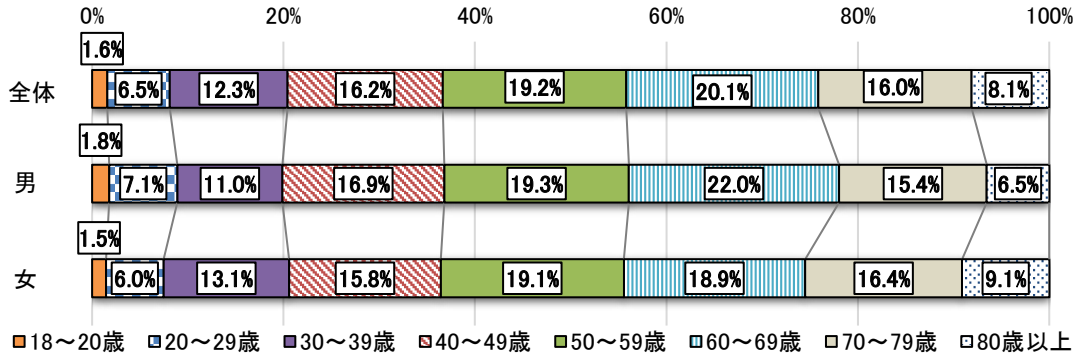
※「その他」及び「無回答」に関しては、回収数のみの記載としています。

■県総人口と回収数での男女比率の比較

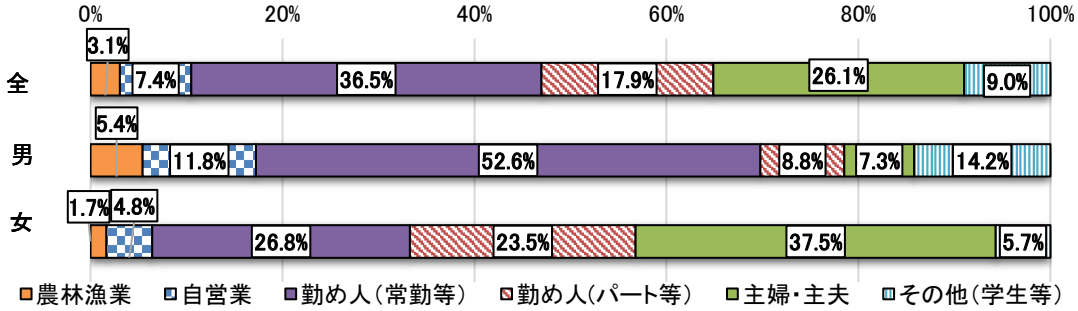


※県総人口：令和元年 10 月現在

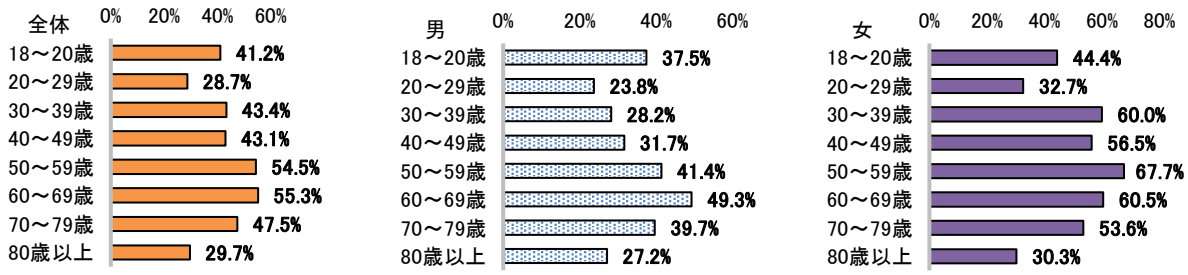
■回答者の性別による年齢別構成比



■回答者の性別による職業別構成比

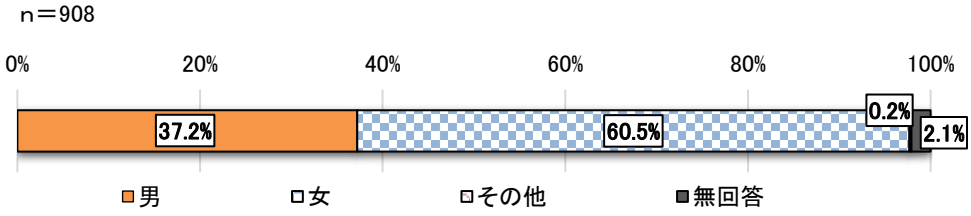


■年齢・性別ごとの回収状況

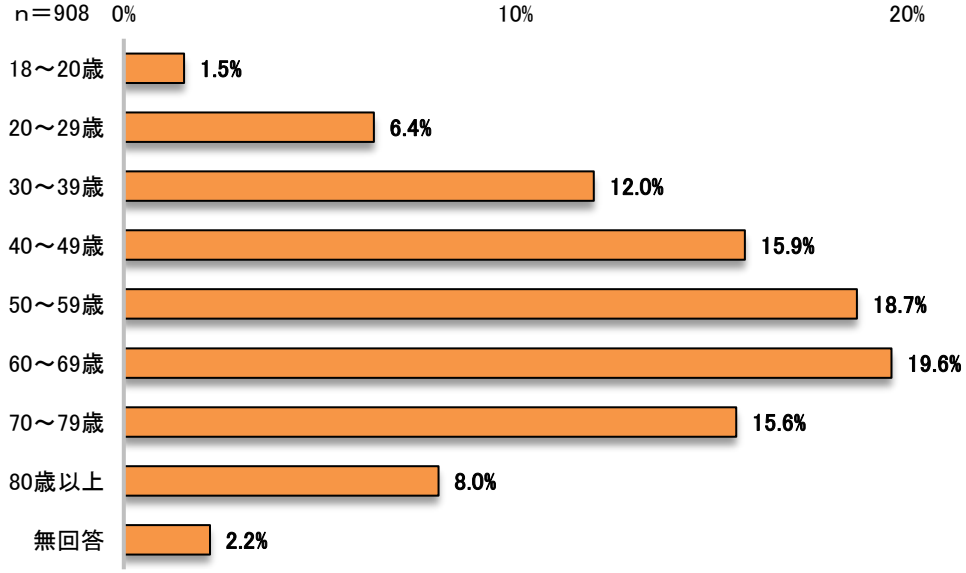


4　回答者属性

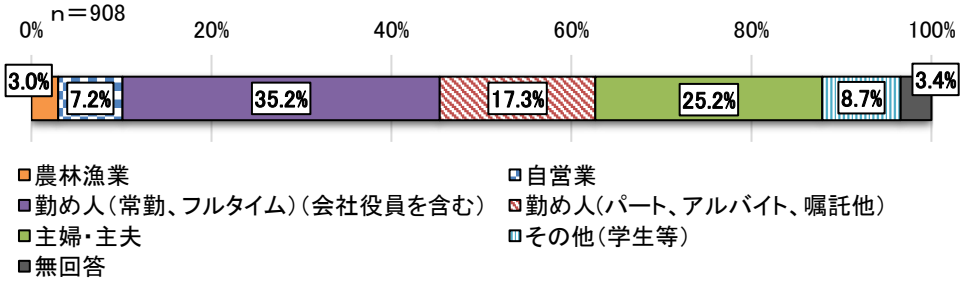
（１）性別



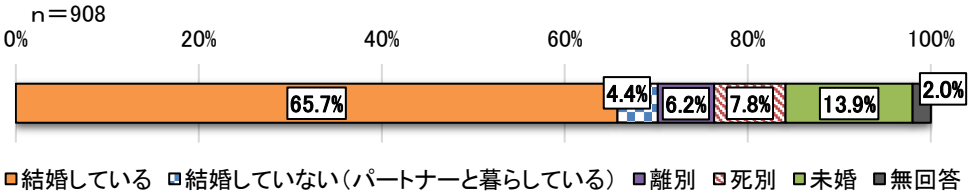
（２）年齢



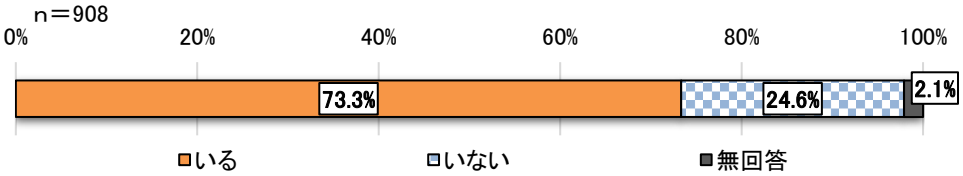
（３）職業



（４）婚姻



（５）子ども



Ⅱ 調査結果の概要

問１　男女共同参画に関する認知度

男女共同参画に関する用語について「知っている」(「よく知っている」と「知っている」、「言葉くらいは聞いたことがある」の合計(以下同じ))と回答した者の割合は、「男女共同参画社会」75.0%(前回調査 69.4%)、「ワーク・ライフ・バランス」57.2%（同 47.3%）となっている。今回の調査から追加した「女性活躍推進法」は、56.1%となっている。

本県施策関連の用語について「知っている」と回答した者の割合は、「愛媛県男女共同参画推進条例」36.9%（同 35.5%)、「愛媛県男女共同参画推進委員制度・苦情処理機関」24.7%（同 24.3%）となっている。今回の調査から追加した「愛媛県男女共同参画センター」は、46.7%となっている。

その他の用語について「知っている」と回答した者の割合は、「配偶者暴力相談支援センター」54.8%（同 60.1%)、「ドメスティック・バイオレンス（DV)」91.5%（同 89.0%)、「デート DV（交際相手からの DV)」77.7%（同 72.2%）となっている。今回の調査から追加した「えひめ性暴力被害者支援センター」は、49.5%となっている。

過去の調査（平成 26 年度・平成 21 年度（以下同じ)）からの推移をみると、「男女共同参画社会」、「愛媛県男女共同参画推進条例」、「ワーク・ライフ・バランス」、「ドメスティック・バイオレンス（DV)」、「デート DV（交際相手からの DV)」の認知の割合が毎回高くなっており、中でも、「ドメスティック・バイオレンス（DV)」と「デート DV（交際相手からの DV)」は、認知の割合が高く関心が高いことが分かる。

問２　男女の地位の平等感

社会の各分野における男女の地位の平等感については、「平等」と回答した者の割合は、高い順に「学校教育」46.1%（前回調査 52.5%)、「法律や制度」30.8%（同 33.0%)、「家庭」29.1%（同 31.5%)、「地域社会」20.4%（同 25.2%)、「職場」19.7%（同 14.7%)、「政治」12.7%（同 11.8%)、「社会通念や慣習やしきたりなど」10.4%（同 10.2%）となっている。

また、「男性の方が優遇されている」と回答した者（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計（以下同じ)）の割合は、「家庭」55.4%（同 53.5%)、「職場」58.6%（同 63.5%)、「地域社会」55.1%（同 51.7%)、「社会通念や慣習やしきたりなど」73.0%（同 71.7%)、「政治」69.9%（同 68.8%）となっており、「法律や制度」45.0%（同 39.9%)、「学校教育」の 29.3%（同 22.8%）を除き、いずれも半数以上の割合となっている。

分野別にみると、「社会通念や慣習やしきたりなど」「政治」の分野では、「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合が７割程度となっており、他の分野と比較して高くなっている。

性別にみると、全ての分野で「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合は、女性の方が男性より高くなっている。全ての分野で「平等」と回答した者の割合は、男性の方が女性より高くなっている。

問３　性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別を理由に人権が守られていないと思うことについて複数回答により聞いたところ、「就職先の制限や職場での待遇の違い」51.8%と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「男女の固定的な役割分担意識を他の人に押しつけること」51.5%、「職場でのセクシュアル・ハラスメント」32.6%、「ドメスティック・バイオレンス」26.6%、「ヌード写真など、「性」を商品化した雑誌や広告などが使われる」18.3%、「売春、買春」18.0%、「ミス・コンテストなど外見や若さのみで評価される」14.1%、「「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する」13.7%の順になっている。

性別にみると、「男女の固定的な役割分担意識を他の人に押しつけること」は 7.8 ポイント（女性 54.7%、男性 46.9%)、女性の方が男性より高くなっている。それ以外では、あまり変化は見られない。

問４　女性に対する暴力をなくすための方策

女性に対する暴力をなくすための方策について複数回答により聞いたところ、「法律・制度の制定や見直しを行う」39.5%（前回調査 29.6%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「犯罪の取締りを強化する」37.4%（同 35.3%）、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」37.1%（同 40.5%）、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする」36.6%（同 36.8%）、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」31.8%（同 26.2%）の順になっている。

性別にみると、男性で最も回答した者の割合が高かった方策は、「法律・制度の制定や見直しを行う」であり、女性では「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」となっている。

問５　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力について、「経験がある」と回答した者（「何度もあった」と「１、２度あった」の合計（以下同じ））は、183 人（20.2%）となっている。

性別にみると、「経験がある」と回答した者の割合は、「身体的暴行」（男性 14.2%、女性 15.1%）、「心理的攻撃」（男性 18.3%、女性 19.7%）、「経済的圧迫」（男性 6.5%、女性 11.0%）、「性的強要」（男性 3.2%、女性 9.0%）となっている。

問６　暴力を受けた場合の相談先

暴力をうけた場合の相談先について複数回答により聞いたところ、「どこ（だれ）にも相談しなかった」45.5%（前回調査 42.9%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「友人･知人に相談した」39.3%（同 28.3%）、「家族に相談した」28.1%（同 23.3%）、の順になっている。公的機関では「その他の公的な機関に相談した」2.8%（同 0.4%）、「警察に連絡・相談した」2.2%（同 0.8%）の順となっている。

性別にみると、女性は「友人・知人に相談した」（47.0%）と回答した者の割合が最も高くなっており、男性との差は 22.9 ポイントとなっている。男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」（58.6%）と回答した者の割合が最も高くなっており、女性との差は 20.1 ポイントとなっている。

問７　メディアにおける性や暴力の表現

新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアにおける性や暴力の表現について複数回答により聞いたところ、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」（37.2%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（32.9%）、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（25.6%）、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」（20.5%）、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」（17.8%）の順になっている。「特に問題はない」と回答した者の割合は、12.4%となっており、前回調査時（9.6%）より高くなっている。

性別にみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」は 9.7 ポイント（女性 40.8%、男性 31.1%）、女性の方が男性より高くなっている。「特に問題はない」は 8.6 ポイント（男性 18.0%、女性 9.4%）、男性の方が女性より高くなっている。

問８　行政が力を入れるべき事項

男女共同参画社会を形成していくために今後行政が力を入れるべきと思われる方策等について複数回答により聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（38.0%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（30.9%）、「子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（28.1%）、「男女平等をめざした法律・制度の制定や見直しを行う」（27.7%）、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」（26.8%）、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」（24.4%）、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」（20.2%）、の順になっている。

性別にみると、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」7.8ポイント（女性41.1%、男性33.3%）、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」13.9ポイント（女性36.2%、男性22.3%）、「子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」7.5ポイント（女性30.7%、男性23.2%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女平等をめざした法律・制度の制定や見直しを行う」は10.3ポイント（男性34.5%、女性24.2%）、男性の方が女性より高くなっている。

問９　結婚、家庭、離婚についての意見

（ア）結婚について

「結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について、「そう思う」66.6%（性別では女性 72.4%、男性 60.5%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」13.9%（性別では女性 11.9%、男性 18.3%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「10 歳代～30 歳代」が高く、以降年齢が上がると低くなる傾向にある。

前回調査では、「そう思う」57.6%、「そう思わない」22.2%であった。

（イ）夫婦別性について

「夫婦が別性を名乗るのを認めた方がよい」という考え方について、「そう思う」30.9%（性別では女性 35.0%、男性 27.9%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合と「そう思わない」30.6%（性別では女性 30.1%、男性 33.9%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）の合計（以下同じ））の割合がほぼ同じであった。なお、「どちらともいえない」と回答した者の割合は、35.5%（性別では女性 35.0%、男性 38.1%）であった。

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「20 歳代」を除き年齢が上がると低くなる傾向にある。

前回調査では、「そう思う」24.1%、「そう思わない」35.5%、「どちらともいえない」36.7%であった。

（ウ）性別役割分担意識について①

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「そう思う」9.6%（性別では女性 7.1%、男性 14.4%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」62.1%（性別では女性 70.5%、男性 53.1%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）の合計（以下同じ））の割合を下回っている。

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、年齢が上がると高くなる傾向にある。

前回調査では、「そう思わない」55.4%、「そう思う」12.9%であった。

（エ）性別役割分担意識について②

「仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい」という考え方について、「そう思う」12.2%（性別では女性 8.6%、男性 18.4%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」64.5%（性別では女性 73.5%、男性 54.9%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）の合計（以下同じ））の割合を下回っている。

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「70 歳代以上」が高くなっている。

前回調査では、「そう思わない」58.3%、「そう思う」15.5%であった。

（オ）離婚について

「一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である」という考え方について、「そう思う」55.1%（性別では女性 62.2%、男性 48.5%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」16.6%（性別では女性 13.8%、男性 21.9%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「40 歳代」が高くなっている。

前回調査では、「そう思う」52.3%、「そう思わない」16.9%であった。

問 10　子どもに受けさせたい教育

子どもに受けさせたい教育については、「男の子の場合」、「女の子の場合」いずれも「子ども次第」と回答した者の割合が最も高く、「男の子の場合」（45.7%）、「女の子の場合」（46.8%）となっている。次に回答した者の割合が高い順に、「男の子の場合」は、「四年制大学まで（六年制を含む）」（40.9%）、「大学院まで」（3.2%）であり、「女の子の場合」は、「四年制大学まで（六年制を含む）」（33.6%）、「短大・高等専門学校」（6.7%）となっている。「女の子の場合」では、「男の子の場合」と比較して、「四年制大学まで（六年制を含む）」と回答した者の割合が低くなっている。

問 11　教育に対する意識

（ア）男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけるのがよい」という考え方について、「そう思う」44.5%（性別では女性 39.1%、男性 56.9%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」25.8%（性別では女性 32.6%、男性 17.1%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

前回調査では、「そう思う」52.3%、「そう思わない」15.0%であった。

（イ）性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす

「性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい」という考え方について、「そう思う」89.8%（性別では女性 94.3%、男性 88.5%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」2.2%（性別では女性 1.1%、男性 3.9%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

前回調査では、「そう思う」88.8%、「そう思わない」2.0%であった。

（ウ）出席簿の順番など

「学校で出席簿の順番など「男子が先」という習慣をなくした方がよい」という考え方について、「そう思う」35.9%（性別では女性 36.1%、男性 39.8%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」16.5%（性別では女性 18.2%、男性 15.5%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））の割合を上回っている。ただし、「どちらともいえない」と回答した者の割合が 43.8%（性別では女性 45.7%、男性 44.7%）となっている。

前回調査では、「そう思う」32.8%、「そう思わない」19.5%、「どちらともいえない」43.4%であった。

（エ）女性は文系、男性は理系

「女性は文系、男性は理系の分野が向いている」という考え方について、「そう思う」3.9%（性別では女性 3.0%、男性 5.7%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」60.7%（性別では女性 66.3%、男性 57.1%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））の割合を下回っている。ただし、「どちらともいえない」と回答した者の割合が 31.9%（性別では女性 30.6%、男性 37.2%）となっている。

前回調査では、「そう思う」4.3%、「そう思わない」56.0%、「どちらともいえない」35.8%であった。

（オ）知的な能力

「知的な能力は、性別による差よりも個人差が大きい」という考え方について、「そう思う」82.1%（性別では女性 87.8%、男性 82.5%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」4.4%（性別では女性 4.3%、男性 4.9%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

前回調査では、「そう思う」80.4%、「そう思わない」4.7%であった。

問 12　女性がもっとついた方がよい役職や公職

女性が役職や公職にもっとついたほうがよいかという問いについては、全ての役職や公職において、「そう思う」と回答した者の割合が、「そう思わない」と回答した者の割合を上回っている。特に、「国、県、市町の議会議員」(63.２%)、「職場の管理職」(59.3%)、「県や市町の審議会委員」(59.3%)、「知事や市町長」(55.2%)では、「そう思う」と回答した者の割合が高くなっている。

性別にみると、すべての役職や公職において、「そう思う」と回答した者の割合は、男性の方が女性より高くなっている。特に「町内会長、自治会長」17.0 ポイント（男性 54.2%、女性 37.2%)、「PTA 会長」15.8 ポイント（男性 57.8%、女性 42.0%、）の差が出ている。

問 13　女性リーダーを増やすときの障がい（新設）

政治・経済・地域・家庭などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障がいになるものについて、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(42.1%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(34.1%)、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(31.7%)、「長時間労働の改善が十分ではないこと」(25.0%）の順になっている。

性別にみると、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」において、女性の方が男性より割合が高くなっている。一方で、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」、「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」において、男性の方が女性より割合が高くなっている。

問 14　ポジティブ・アクションに対する考え方

ポジティブ・アクションという考え方について、「そう思う」(67.7%）と回答した者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」(6.4%）と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下同じ））の割合を上回っている。なお、「どちらともいえない」と回答した者の割合は、24.1%となっている。

前回調査では、「そう思う」64.7%、「そう思わない」6.8%であった。

問 15　地域の防災活動における男女の活動（新設）

自治会、町内会など地域の防災活動における男女の活動について、「わからない」（37.4%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「男女の仕事の分担が偏っている」（29.4%）、「女性の参加が少ない」（24.8%）、「現状で特に問題はない」（18.1%）、「女性の意見が反映される場が少ない」（17.7%）の順になっている。

問 16　家庭での役割分担

（ア）掃除

「掃除をする」は、「主に女性の役割」（43.4%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（17.8%）、「主に男性の役割」（3.3%）と回答した者の割合を上回っている。

性別にみると、「主に女性の役割」は 23.2 ポイント（女性 73.2%、男性は 50.0%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」は 11.4 ポイント（男性は 33.6%、女性 22.2%）、男性の方が女性より高くなっている。

（イ）洗濯

「洗濯をする」は、「主に女性の役割」（51.9%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（11.7%）、「主に男性の役割」（2.1%）と回答した者の割合を上回っている。

性別にみると、「主に女性の役割」は 14.1 ポイント（女性 82.5%、男性は 68.4%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」は 6.3 ポイント（男性は 21.1%、女性 14.8%）、男性の方が女性より高くなっている。

（ウ）食事の支度

「食事の支度をする」は、「主に女性の役割」（57.9%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（7.4%）、「主に男性の役割」（1.2%）と回答した者の割合を上回っている。

性別にみると、「主に女性の役割」は 8.7 ポイント（女性 88.4%、男性は 79.7%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」は 4.7 ポイント（男性は 13.9%、女性 9.2%）、男性の方が女性より高くなっている。

（エ）食事の後片付け

「食事の後片付けをする」は、「主に女性の役割」（43.5%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（16.3%）、「主に男性の役割」（5.3%）と回答した者の割合を上回っている。

性別にみると、「主に女性の役割」は 23.8 ポイント（女性 74.0%、男性は 50.2%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」は 11.8 ポイント（男性は 31.2%、女性 19.4%）、男性の方が女性より高くなっている。

（オ）日常の家計の管理

「日常の家計の管理をする」は、「主に女性の役割」（47.6%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（11.9%）、「主に男性の役割」（5.5%）と回答した者の割合を上回っている。

性別にみると、「主に女性の役割」は 12.6 ポイント（女性 75.5%、男性 62.9%）、女性の方が男性より高くなっている。

（カ）育児

「育児をする」は、「主に女性の割合」（40.6%）と回答した者の役割が、「男女とも同程度」（15.3%）、「主に男性の役割」（0.3%）と回答した者の役割を上回っている。また、「主に男性の役割」と回答した者の割合が 1%に満たず、他の項目と比較して低くなっている。

性別にみると、「主に女性の役割」は 23.4 ポイント（女性 72.7%、男性 49.3%）、女性の方が男性より高くなっている。

（キ）地域活動

「地域活動をする」は、「主に女性の役割」（23.2%）と回答した者の割合が最も高くなっているが、（ア）～（ク）の他の項目と比較すると、「主に女性の役割」と回答した者の割合が最も低く、「主に男性の役割」と回答した者の割合が最も高くなっている。

性別にみると、女性では「主に女性の役割」（44.8%）と回答した者の割合が最も高くなっているのに対して、男性では「主に男性の役割」（35.9%）と回答した者の割合が最も高くなっている。

（ク）介護

「介護をする」は、「主に女性の役割」（25.2%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」（22.2%）、「男女とも同程度」（16.0%）、「主に男性の役割」（1.9%）の順になっている。

性別にみると、「主に女性の役割」は 21.4 ポイント（女性 47.4%、男性 26.0%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女とも同程度」は 7.7 ポイント（男性 29.0%、女性 21.3%）、男性の方が女性より高くなっている。

※（ア）～（ク）の回答では、「無回答」（現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む）が 32.0%～35.8%となっています。

問 17　家事・育児・介護の分担等

（1）家庭内の家事・育児・介護の分担

家事・育児・介護の家庭内での分担について、「男女が共同して分担する方がよい」（76.2%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「主として女性が受け持つほうがよい」（10.6%）となっている。

性別にみると、「主として女性が受け持つほうがよい」は 5.4 ポイント（男性 14.2%、女性 8.8%）、男性の方が女性より高くなっている。「男女が共同して分担する方がよい」は 14.3 ポイント（女性 85.9%、男性 71.6%）、女性の方が男性より高くなっている。

年齢別にみると、「主として女性が受け持つほうがよい」と回答した者の割合は、「40 歳代」以上になると 1 割を超えている。

過去の調査と比較すると、「主として女性が受け持つほうがよい」と回答した者の割合は減少傾向になっている。

（2）育児・介護に対する社会支援

育児・介護に対する社会支援について、「女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である（以下「社会による積極的な支援が必要である」とする）」（66.6%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「基本的に家族が行うべきである」（20.6%）となっている。

性別にみると、「社会による積極的な支援が必要である」は 15.8 ポイント（女性 75.8%、男性 60.0%）、女性の方が男性より高くなっている。「基本的に家族が行うべきである」は 13.9 ポイント（男性 30.5%、女性 16.6%）、男性の方が女性より高くなっている。

年齢別にみると、「社会による積極的な支援が必要である」と回答した者の割合は、「30 歳代～60 歳代」が 7 割を超えている。

問 18　家庭での役割分担の現状

家庭での役割分担の現状については、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」（27.0%）と回答した者の割合がもっとも高くなっており、次いで「男性は仕事、女性は家事、育児、介護（以下家事等と表現する）を担当している」（20.3%）と「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」（20.3%）の割合が同じで、次いで「男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている」（20.1%）の順になっている。

性別にみると、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」は 6.4 ポイント（女性 29.6%、男性 23.2%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」は 10.5 ポイント（男性 26.5%、女性 16.0%）、男性の方が女性より高くなっている。

年齢別にみると、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」と回答した者の割合は、全ての年代で高くなっている。中でも、「20 歳代」（41.4%）で一番高くなっている。

問 19　家庭での役割分担の現状に対する満足度

家庭での役割分担の現状に対する満足度については、「満足している」（78.3%）と回答した者（「十分満足している」と「ある程度満足している」の合計（以下同じ））の割合が、「満足していない」（16.5%）と回答した者の割合を上回っている。

性別にみると、「満足している」は 15.1 ポイント（男性 91.7%、女性 76.6%）、男性の方が女性より高くなっている。「満足していない」は 15.3 ポイント（女性 23.5%、男性 8.2%）、女性の方が男性より高くなっている。

年齢別にみると、「十分満足している」と回答した者の割合は、「20 歳代」が最も高くなっている。

前回の調査では、「満足している」（79.3%）、「満足していない」（16.6%）であった。

問 20　本県における女性の労働条件

本県における女性の労働条件の整備状況については、「整っていない」（55.5%）と回答した者（「整っていない」と「あまり整っていない」の合計（以下同じ））の割合が、「整っている」（40.1%）と回答した者（「十分整っている」と「ある程度整っている」の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

年齢別にみると、「整っていない」と回答した者の割合は、「40 歳代」が最も高くなっている。

また、前回調査では、「整っている」（32.6%）「整っていない」（61.3%）であった。

問 21　出産後働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこと（新設）

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」（68.8%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「女性が働き続けることへの上司や同僚など職場の理解・意識改革」（32.8%）、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」（29.9%）、「女性が働き続けることへの夫や家族など周囲の理解・意識改革」（29.7%）の順になっている。

性別にみると、回答の差が 5.0 ポイントを超えるもののうち、女性の方が男性より高くなっているのは「男性の家事参加への理解・意識改革」8.6 ポイント（女性 29.9%、男性 21.3%）、「女性が働き続けることへの夫や家族など周囲の理解・意識改革」7.0 ポイント（女性 32.5%、男性 25.5%）。一方で、男性の方が女性より高くなっているのは「家事・育児支援サービスの充実」は 9.1 ポイント（男性 22.5%、女性 13.4%）となっている。

問 22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ（新設）

男性が家事・育児を行うことへのイメージは、「子どもにいい影響を与える」（65.5%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「男性も家事、育児を行うことは当然である」（62.2%）、「仕事と両立させることは、現実として難しい」（32.1%）、「男性自身も充実感が得られる」（31.6%）、「家事、育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」（30.1%）の順になっている。

性別にみると、「子どもにいい影響を与える」12.0 ポイント（女性 70.4%、男性 58.4%）、「家事、育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」11.6 ポイント（女性 34.4%、男性 22.8%）、女性の方が男性より高くなっている。「家事、育児は女性のほうが向いている」は 11.4 ポイント（男性 21.6%、女性 10.2%）、男性の方が女性より高くなっている。

問 23　男性の家事等への参加に必要な条件

男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要な条件は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（55.3%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（49.3%）、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（42.6%）の順になっている。

性別にみると、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」は 17.4 ポイント（女性 38.7%、男性 21.3%）、女性の方が男性より高くなっている。

問 24　生活の中での優先順（新設）

（1）希望に最も近いもの

希望として生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先順は、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」（38.4%）と回答した者の割合が最も高くなっている。次いで「「家庭生活」を優先したい」（20.3%）、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」（12.2%）の順になっている。

性別にみると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」は 10.9 ポイント（男性 45.9%、女性 35.0%）、男性の方が女性より高くなっている。「「家庭生活」を優先したい」7.6 ポイント（女性 23.5%、男性 15.9%）、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」7.6 ポイント（女性 15.4%、男性 7.8%）、女性の方が男性より高くなっている。

（2）現実・現状に最も近いもの

現実として生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先順は、希望と同じく、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」（27.9%）と回答した者の割合が最も高くなっている。次いで「「家庭生活」を優先したい」（20.3%）、「「仕事」を優先したい」（17.1%）の順になっている。

性別にみると、「「仕事」を優先したい」は 16.1 ポイント（男性 27.5%、女性 11.4%）、男性の方が女性より高くなっている。「「家庭生活」を優先したい」は 16.9 ポイント（女性 27.3%、男性 10.4%）、女性の方が男性より高くなっている。

＜希望と現状の比較＞

希望と現状を比較すると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と回答した者の割合で、希望より現状が 10.5 ポイント下回っている。「「仕事」を優先したい」と回答した者の割合で、希望より現状が 13.0 ポイント上回っている。

問 25　今後女性の活躍が重要となる分野（新設）

今後の女性活躍が重要な分野では、「政治」(59.7%)と回答した者の割合が最も高く、次いで「行政」(57.6%)、「雇用（民間企業)」(56.3%)、「教育・研究」(52.3%）の順になっている。

性別にみると、「教育・研究」は 7.5 ポイント（女性 55.2%、男性 47.7%)、女性の方が男性より高くなっている。

問 26　男女共同参画社会の実現に向け、県が実施すべき事業（新設）

P82～P89 に記載。

問 27　行政への要望事項

P90～P96 に記載。

Ⅲ 調査の結果

問１　男女共同参画に関する認知度

あなたは、これらの言葉を御存知ですか。アからコのそれぞれの言葉について、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

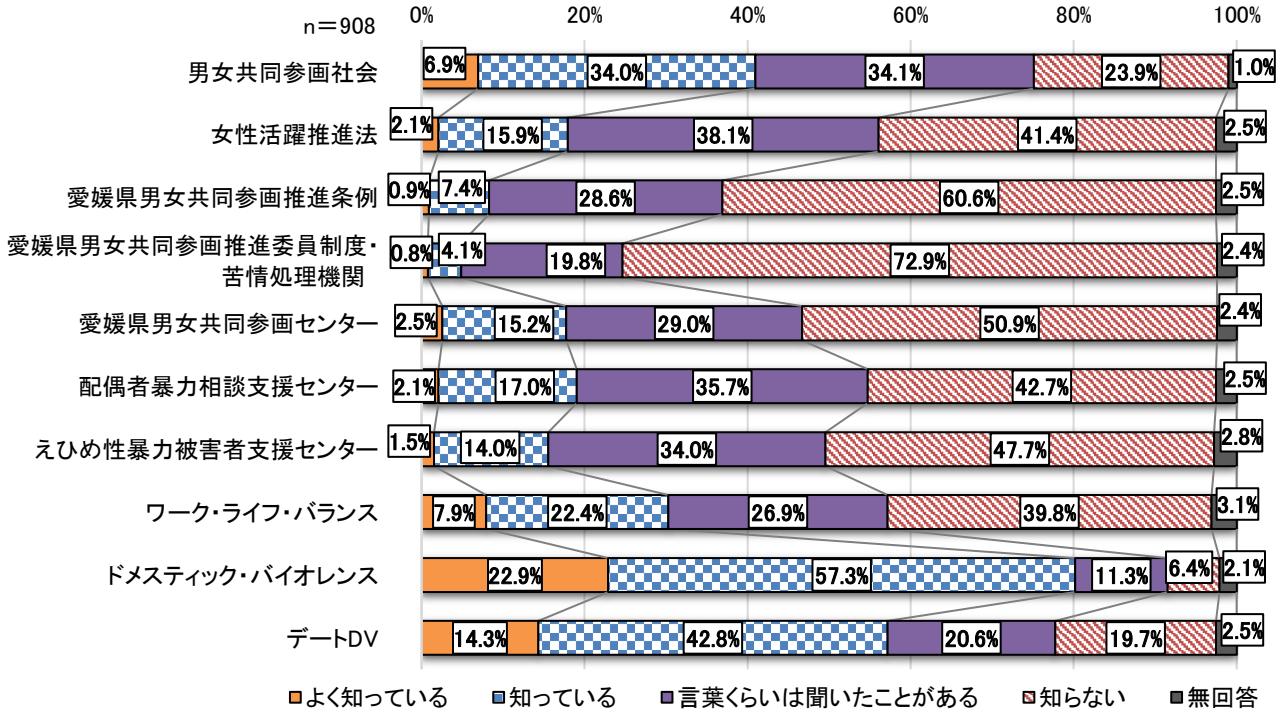
言　葉	よく知っている	知っている	言葉くらいは聞いたことがある	知らない	無回答
ア　男女共同参画社会	6.9%	34.0%	34.1%	23.9%	1.0%
イ　女性活躍推進法	2.1%	15.9%	38.1%	41.4%	2.5%
ウ　愛媛県男女共同参画推進条例	0.9%	7.4%	28.6%	60.6%	2.5%
エ　愛媛県男女共同参画推進委員制度・苦情処理機関	0.8%	4.1%	19.8%	72.9%	2.4%
オ　愛媛県男女共同参画センター	2.5%	15.2%	29.0%	50.9%	2.4%
カ　配偶者暴力相談支援センター	2.1%	17.0%	35.7%	42.7%	2.5%
キ　えひめ性暴力被害者支援センター	1.5%	14.0%	34.0%	47.7%	2.8%
ク　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	7.9%	22.4%	26.9%	39.8%	3.1%
ケ　ドメスティック・バイオレンス（DV）	22.9%	57.3%	11.3%	6.4%	2.1%
コ　デート DV（交際相手からの DV）	14.3%	42.8%	20.6%	19.7%	2.5%

【全体】問１　男女共同参画に関する認知度

男女共同参画に関する用語のうち、「男女共同参画社会」を「知っている」と回答した者（「よく知っている」（6.9%）と「知っている」（34.0%）、「言葉くらいは聞いたことがある」（34.1%）の合計（以下同じ））の割合は 75.0%、「女性活躍推進法」を「知っている」と回答した者の割合は 56.1%、「ワーク・ライフ・バランス」を「知っている」と回答した者の割合は 57.2%となっている。

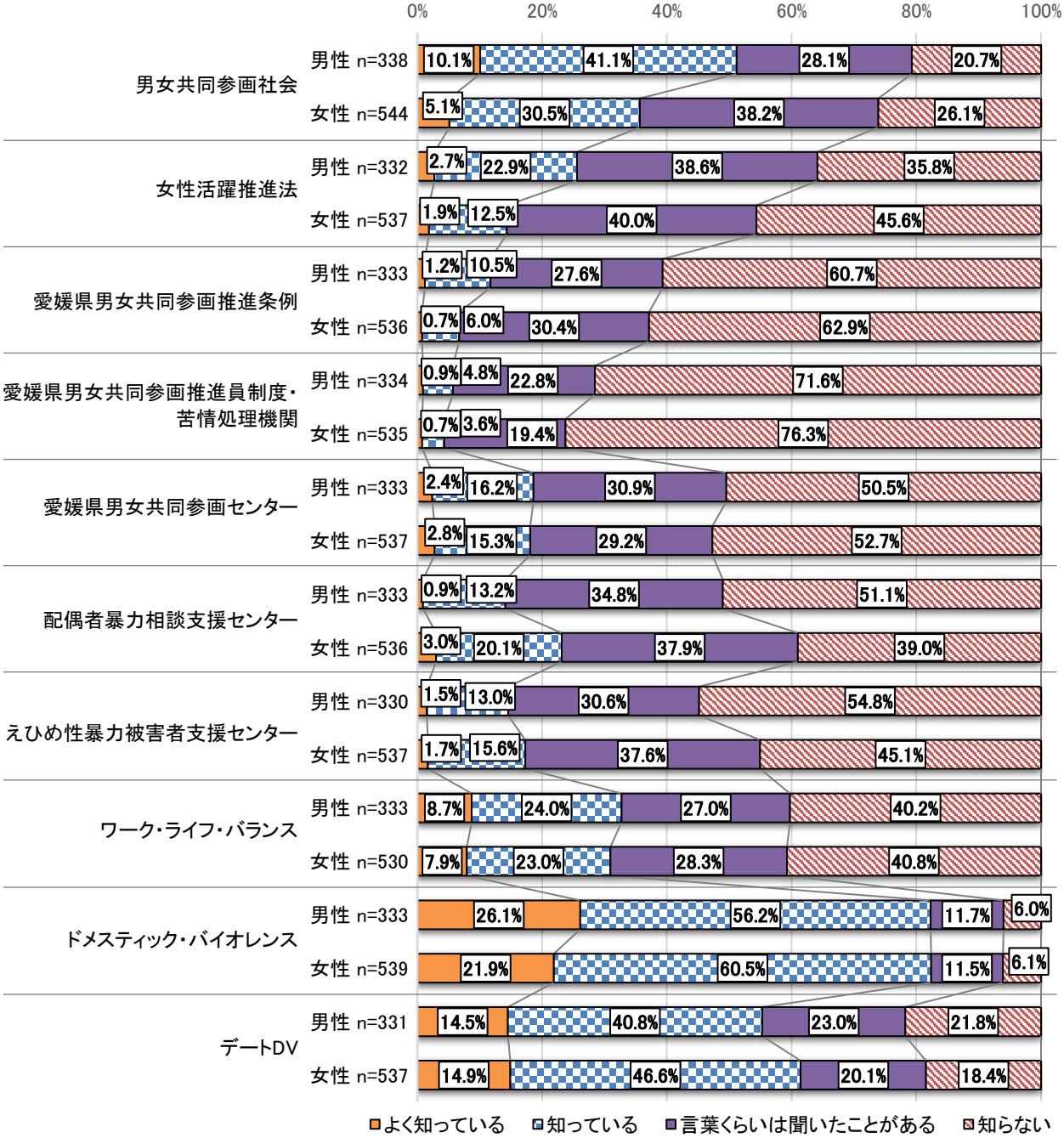
本県施策関連の用語では、「愛媛県男女共同参画推進条例」を「知っている」と回答した者の割合は 36.9%、「愛媛県男女共同参画推進委員制度・苦情処理機関」を「知っている」と回答した者の割合は 24.7%、「愛媛県男女共同参画センター」を「知っている」と回答した者の割合は 46.7%となっている。

その他の用語では、「配偶者暴力相談支援センター」を「知っている」と回答した者の割合は 54.8%、「えひめ性暴力被害者支援センター」を「知っている」と回答した者の割合は 49.5%、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」を「知っている」と回答した者の割合は 91.5%、「デート DV（交際相手からの DV）」を「知っている」と回答した者の割合は 77.7%となっている。



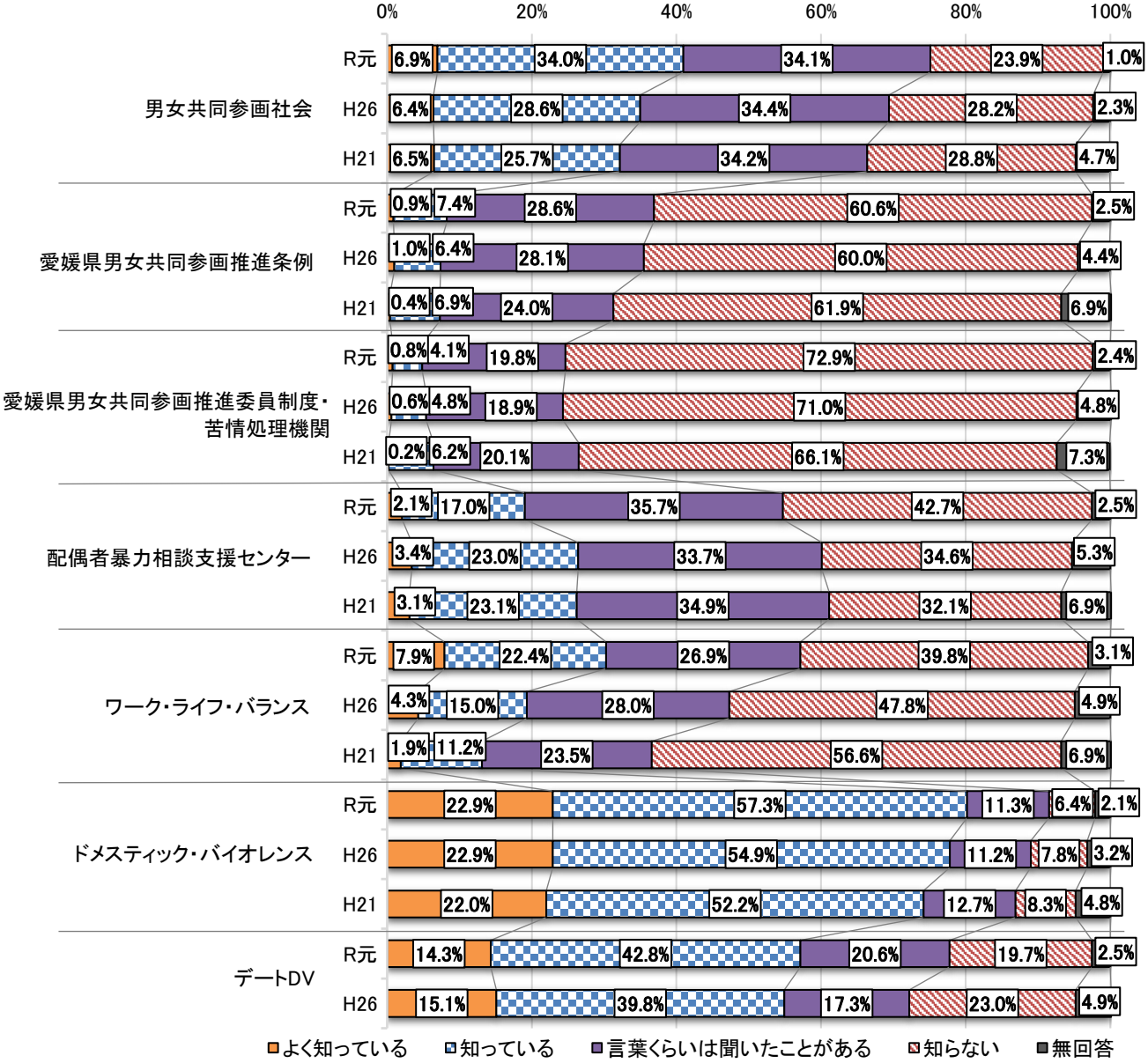
【性別】問１　男女共同参画に関する認知度

性別にみると、「知っている」と回答した者の割合は「女性活躍推進法」9.8 ポイント（男性 64.2%、女性 54.4%）、「男女共同参画社会」5.0 ポイント（男性 79.3%、女性 73.8%）、男性の方が女性より高くなっている。「配偶者暴力相談支援センター」12.1 ポイント（女性 61.0%、男性 48.9%）、「えひめ性暴力被害者支援センター」9.8 ポイント（女性 54.9%、男性 45.1%）、女性の方が男性より高くなっている。



【過去との比較】問１　男女共同参画に関する認知度

過去の調査と比較すると、「男女共同参画社会」、「愛媛県男女共同参画推進条例」、「ワーク・ライフ・バランス」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」、「デート DV（交際相手からの DV）」は、「知っている」と回答した者の割合が増えている。「配偶者暴力相談支援センター」は、「知っている」と回答した者の割合が減っている。



（注）R 元年度から、「愛媛県男女共同参画計画」「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」を削除し、「女性活躍推進法」「愛媛県男女共同参画センター」「えひめ性暴力被害者支援センター」を追加。

問２　男女の地位の平等感

あなたは、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。アからキのそれぞれの分野について、該当するものを一つ選んで番号を〇で囲んでください。

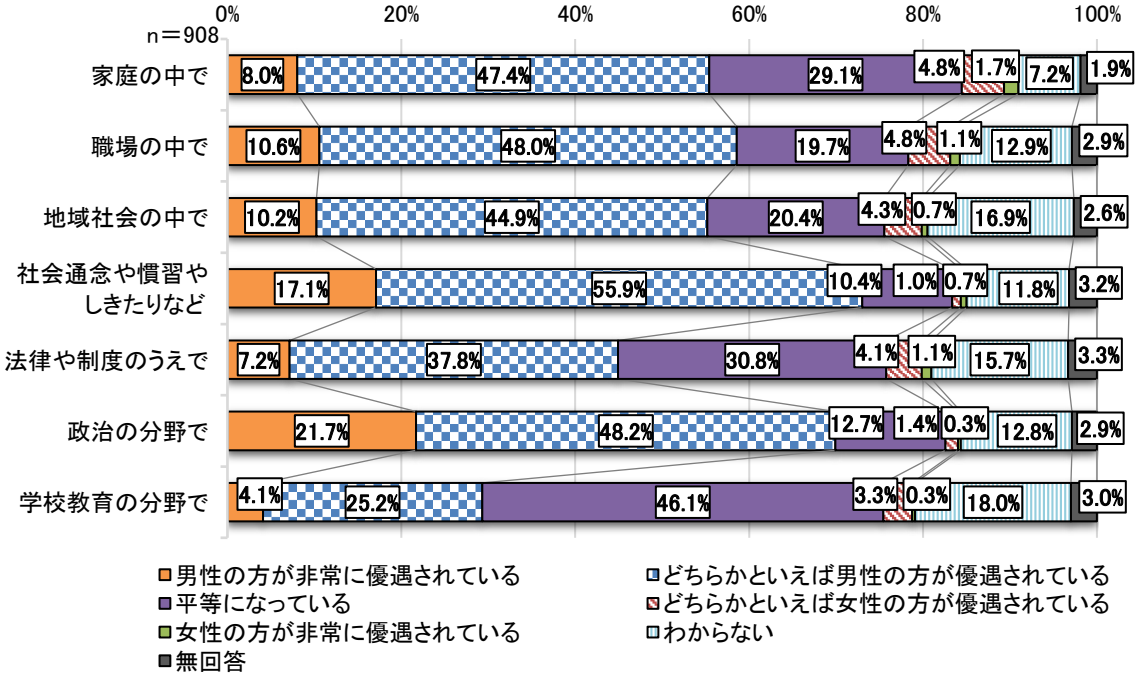
	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
ア　家庭の中で	8.0%	47.4%	29.1%	4.8%	1.7%	7.2%	1.9%
イ　職場の中で	10.6%	48.0%	19.7%	4.8%	1.1%	12.9%	2.9%
ウ　地域社会の中で（町内会、自治会など）	10.2%	44.9%	20.4%	4.3%	0.7%	16.9%	2.6%
エ　社会通念や慣習やしきたりなど	17.1%	55.9%	10.4%	1.0%	0.7%	11.8%	3.2%
オ　法律や制度のうえで	7.2%	37.8%	30.8%	4.1%	1.1%	15.7%	3.3%
カ　政治の分野で	21.7%	48.2%	12.7%	1.4%	0.3%	12.8%	2.9%
キ　学校教育の分野で	4.1%	25.2%	46.1%	3.3%	0.3%	18.0%	3.0%

【全体】問２　男女の地位の平等感

社会の各分野における男女の地位の平等感については、「平等」と回答した者の割合は、高い順に「学校教育」46.1％、「法律や制度」30.8％、「家庭」29.1％、「地域社会」20.4％、「職場」19.7％、「政治」12.7％、「社会通念や慣習やしきたりなど」10.4％となっている。

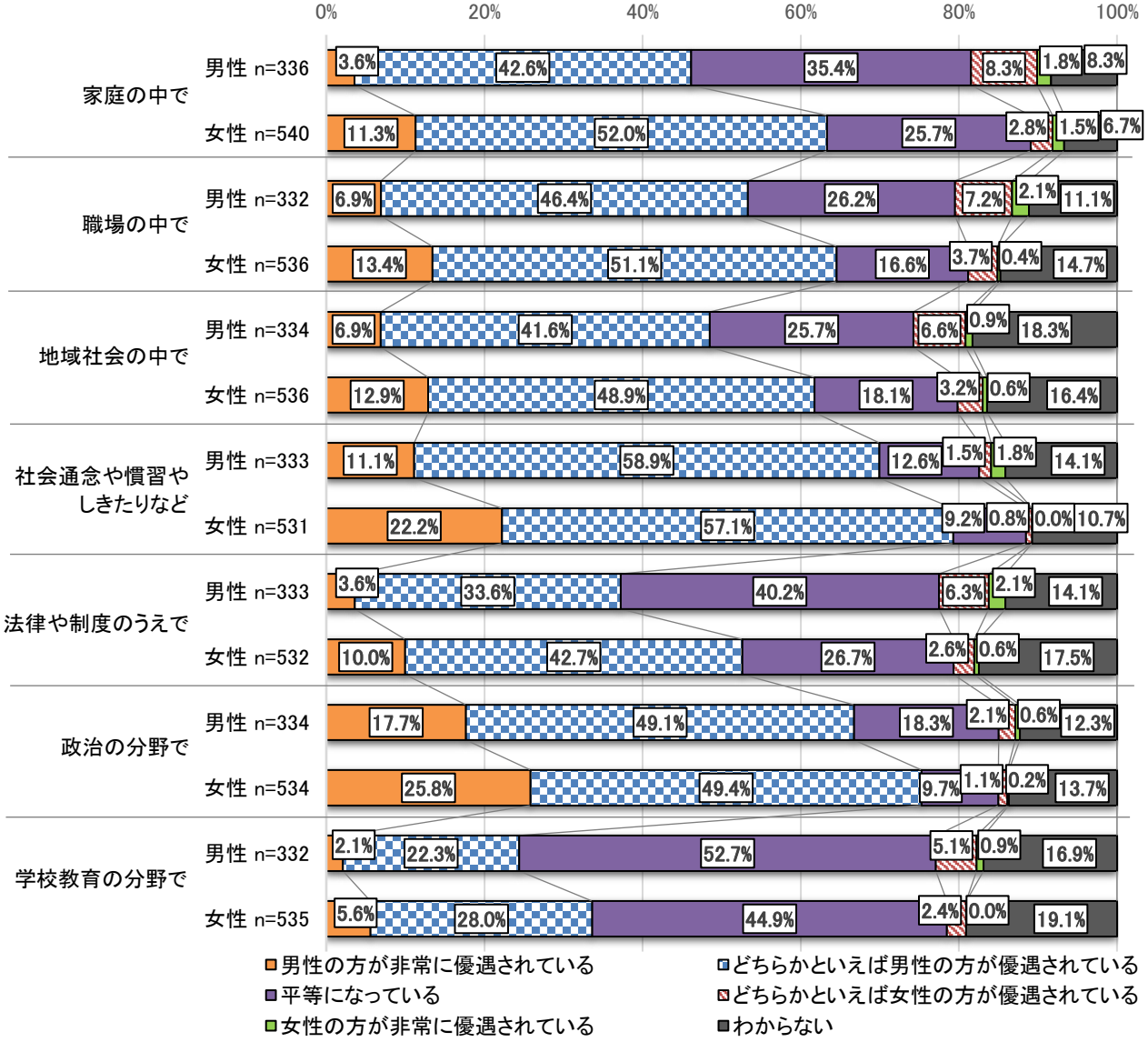
また、「男性の方が優遇されている」と回答した者（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計（以下同じ））の割合は、「家庭」55.4％、「職場」58.6％、「地域社会」55.1％、「社会通念や慣習やしきたりなど」73.0％、「政治」69.9％となっており、「法律や制度」45.0％、「学校教育」の 29.3％を除き、いずれも半数以上の割合となっている。

分野別にみると、「社会通念や慣習やしきたりなど」「政治」の分野では、「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合が 7 割程度となっており、他の分野と比較して高くなっている。「女性の方が優遇されている」と回答した者の割合は、全て 1 割以下の割合となっている。



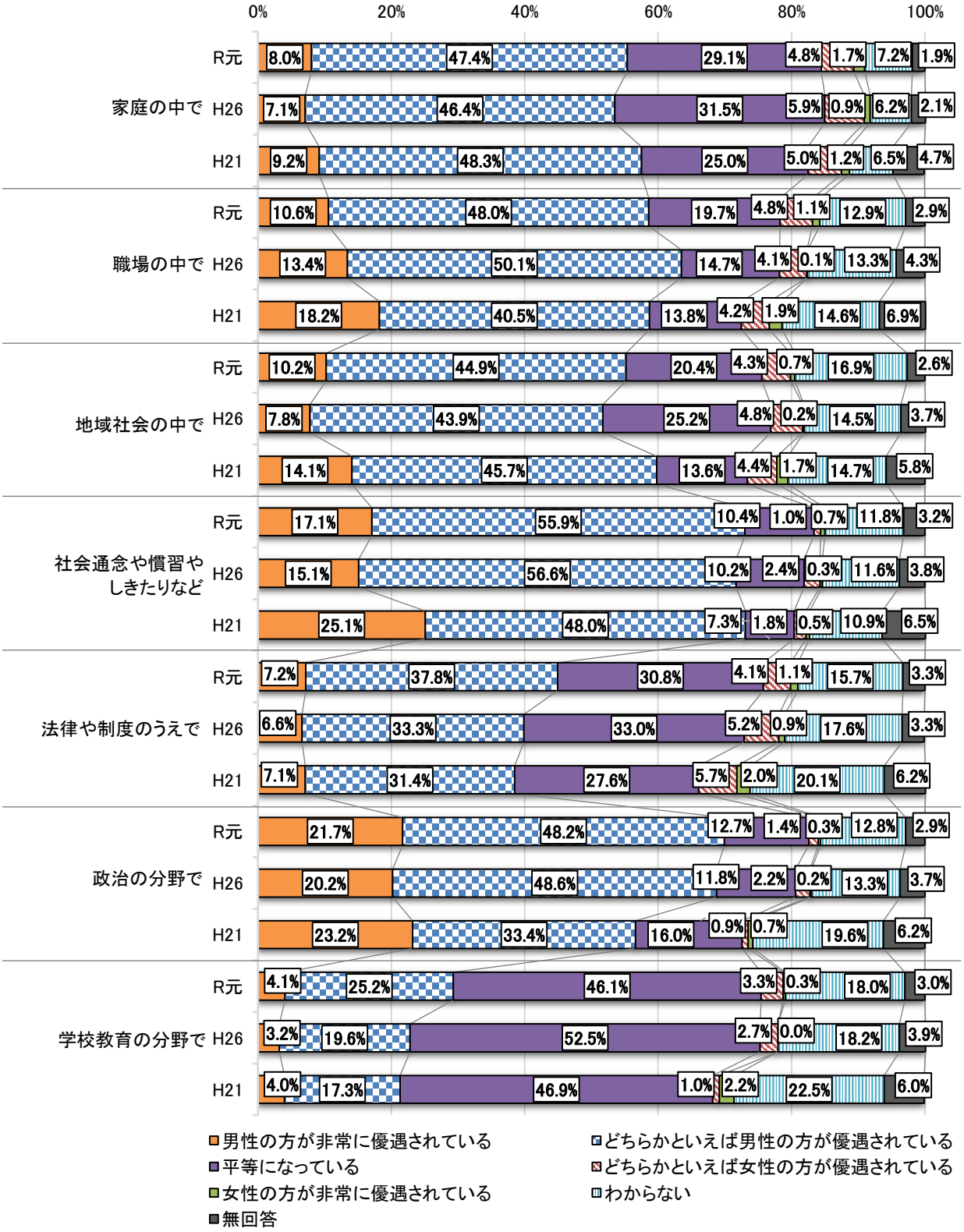
【性別】問２　男女の地位の平等感

性別にみると、全ての分野で「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合は、女性の方が男性より高くなっている。全ての分野で「平等」と回答した者の割合は、男性の方が女性より高くなっている。



【過去との比較】問２　男女の地位の平等感

過去の調査と比較すると、「平等」と回答した者の割合が増加傾向を示している分野は、「職場」のみとなっている。「男性の方が優遇されている」と回答した者の割合が増加傾向を示している分野は、「法律や制度」、「政治」、「学校教育」となっている。



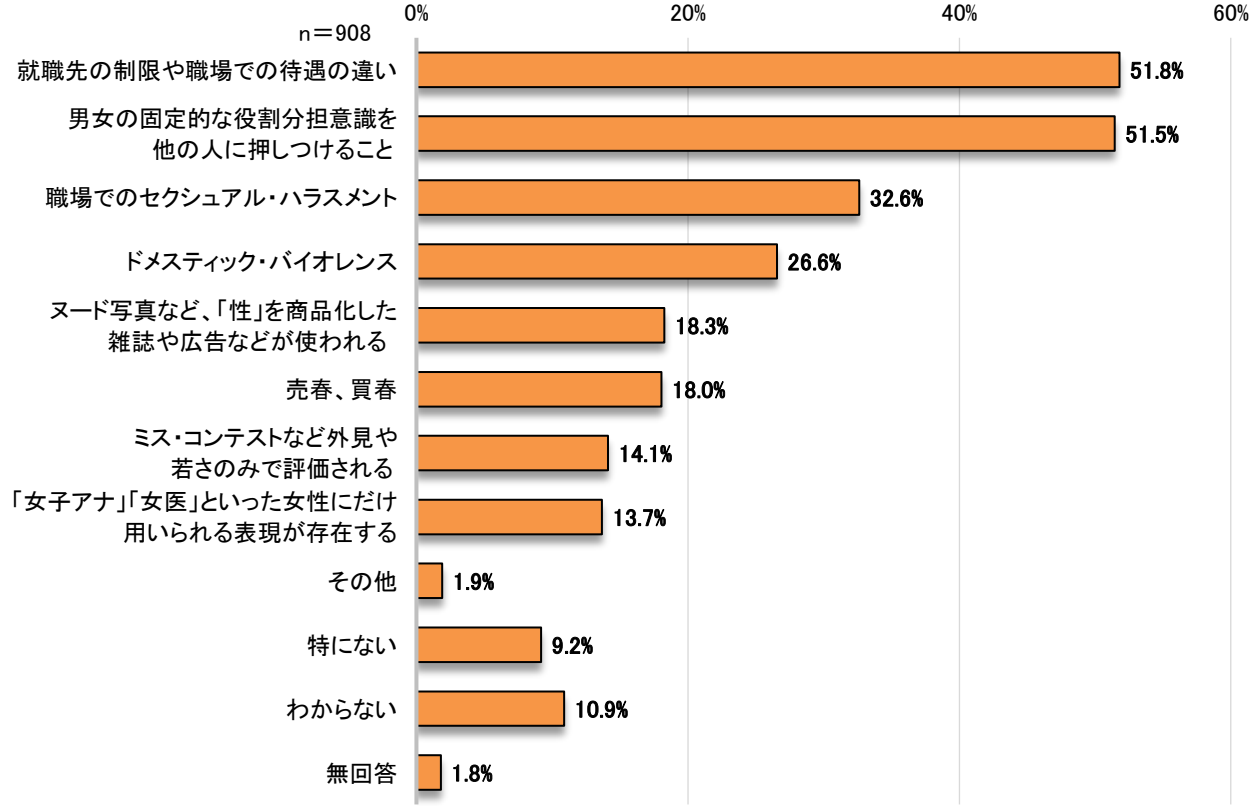
問３　性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別を理由に人権が守られていないと思うのは、どのような場合だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から、三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	就職先の制限や職場での待遇の違い(賃金などの労働条件で男女格差がある等)	51.8%
2	職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	32.6%
3	ドメスティック・バイオレンス(配偶者間、共同生活中の交際相手からの暴力など)	26.6%
4	男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」など)を他の人に押しつけること	51.5%
5	ヌード写真など、「性」を商品化した雑誌や広告などが使われる	18.3%
6	売春、買春	18.0%
7	「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する	13.7%
8	ミス・コンテストなど外見や若さのみで評価される	14.1%
9	その他	1.9%
10	特にない	9.2%
11	わからない	10.9%
	無回答	1.8%

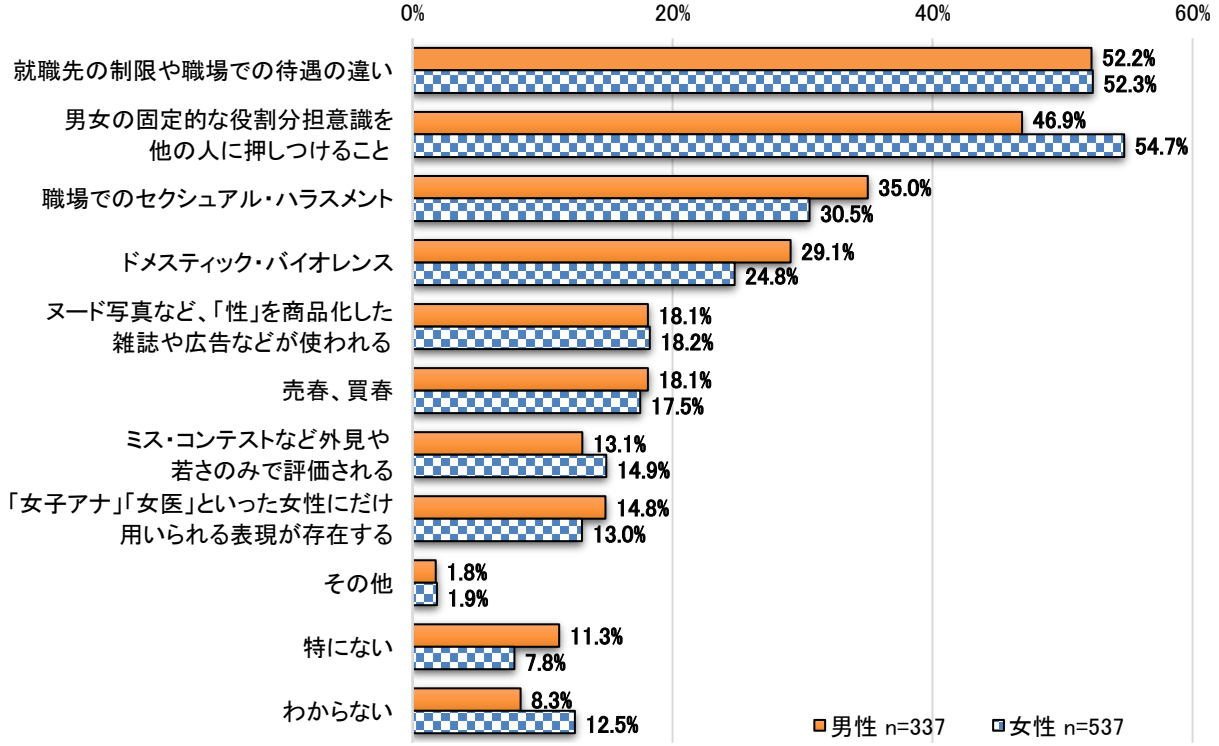
【全体】問３　性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別を理由に人権が守られていないと思うことについて複数回答により聞いたところ、「就職先の制限や職場での待遇の違い」（51.8%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「男女の固定的な役割分担意識を他の人に押しつけること」（51.5%）、「職場でのセクシュアル・ハラスメント」（32.6%）、「ドメスティック・バイオレンス」（26.6%）、「ヌード写真など、「性」を商品化した雑誌や広告などが使われる」（18.3%）、「売春、買春」（18.0%）、「ミス・コンテストなど外見や若さのみで評価される」（14.1%）、「「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する」（13.7%）の順になっている。



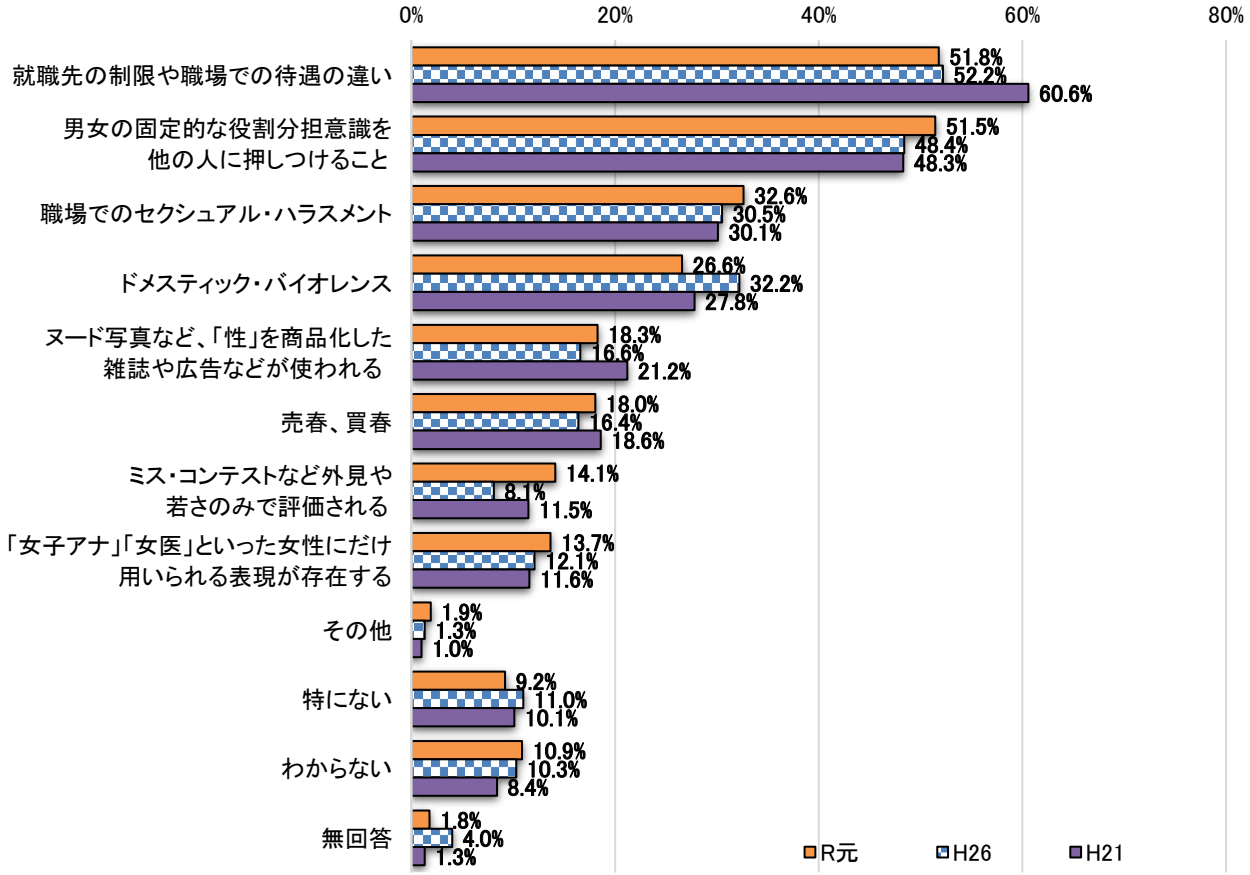
【性別】問３　性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別にみると、「男女の固定的な役割分担意識を他の人に押しつけること」は 7.8 ポイント（女性 54.7%、男性 46.9%）、女性の方が男性より高くなっている。それ以外では、あまり変化は見られない。



【過去との比較】問３　性別を理由に人権が守られていないと思う事項

過去の調査と比較すると、「就職先の制限や職場での待遇の違い」は、回答した者の割合が減少傾向にある。



（注）R 元年度から、「「婦人」、「未亡人」といった女性にだけ用いられる言葉が存在する」を「「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する」に変えている。

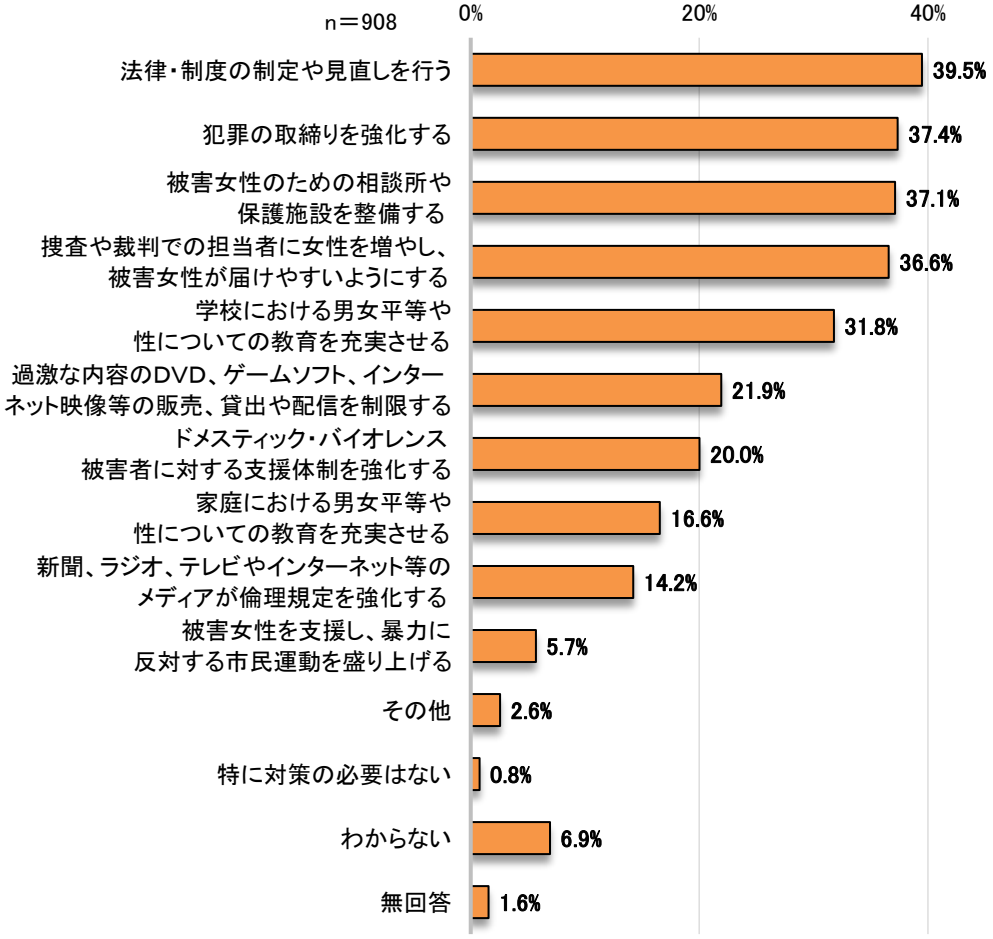
問４　女性に対する暴力をなくすための方策

女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あなたのお考えに近いものを三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	法律・制度の制定や見直しを行う	39.5%
2	犯罪の取締りを強化する	37.4%
3	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする	36.6%
4	被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	5.7%
5	被害女性のための相談所や保護施設を整備する	37.1%
6	家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	16.6%
7	学校における男女平等や性についての教育を充実させる	31.8%
8	新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアが倫理規定を強化する	14.2%
9	過激な内容のDVD、ゲームソフト、インターネット映像等の販売、貸出や配信を制限する	21.9%
10	ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者に対する支援体制を強化する	20.0%
11	その他	2.6%
12	特に対策の必要はない	0.8%
13	わからない	6.9%
	無回答	1.6%

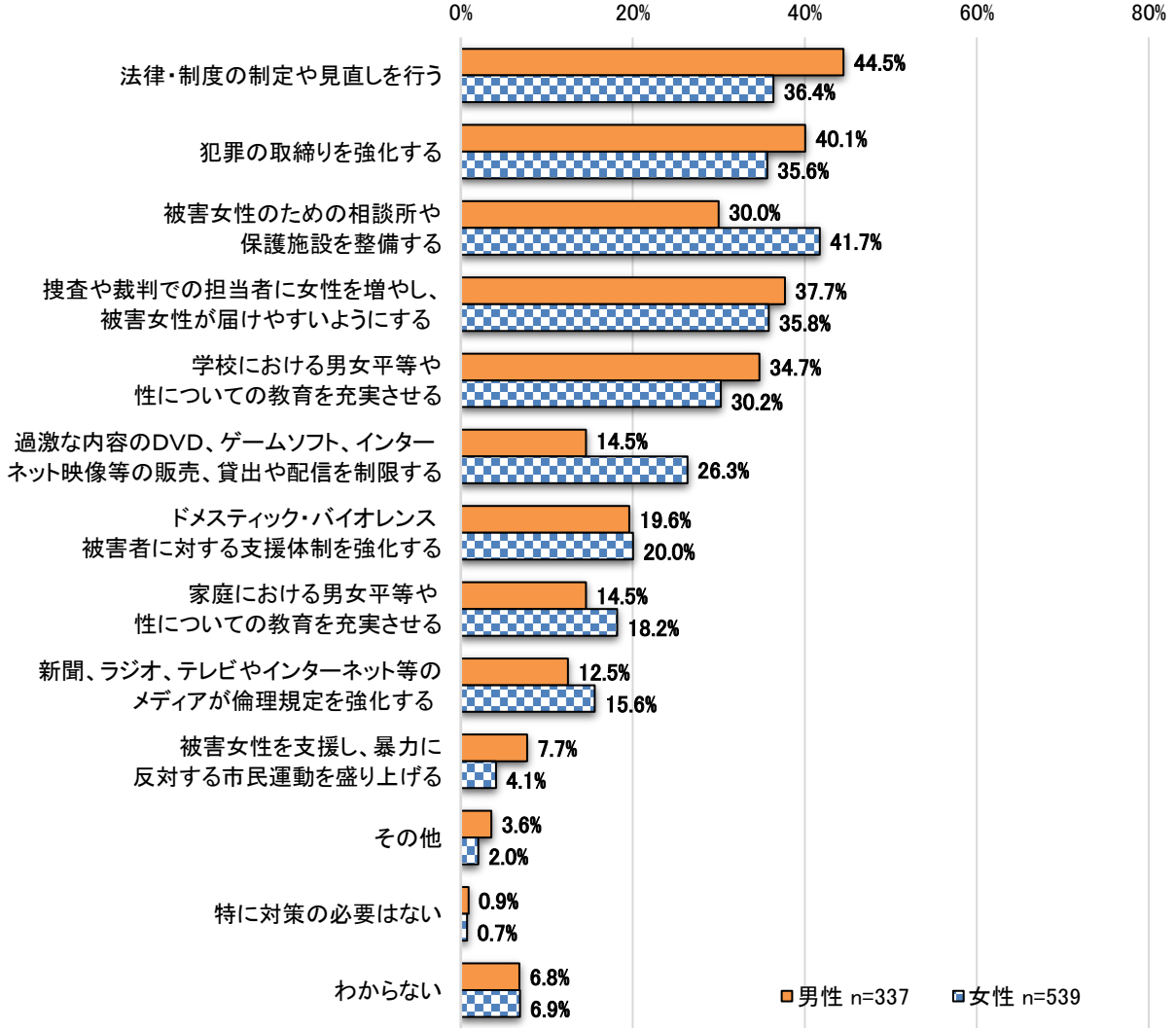
【全体】問４　女性に対する暴力をなくすための方策

女性に対する暴力をなくすための方策について複数回答により聞いたところ、「法律・制度の制定や見直しを行う」（39.5%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「犯罪の取締りを強化する」（37.4%）、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」（37.1%）、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする」（36.6%）、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」（31.8%）の順になっている。



【性別】問４　女性に対する暴力をなくすための方策

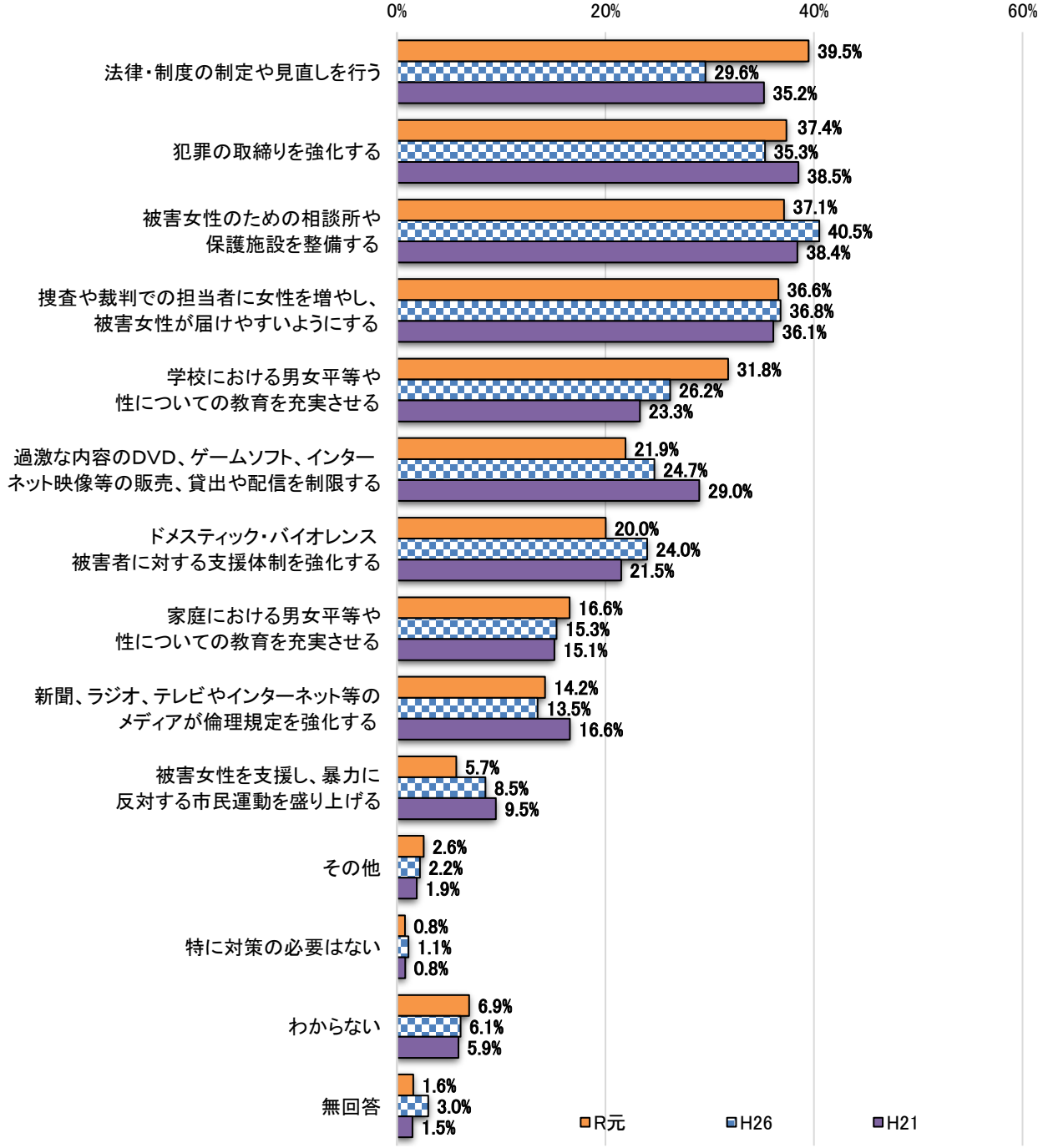
性別にみると、男性で最も回答した者の割合が高かった方策は、「法律・制度の制定や見直しを行う」であり、女性では「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」となっている。次いで、男性は「犯罪の取締りを強化する」、女性は「法律・制度の制定や見直しを行う」となっている。



【過去との比較】問４　女性に対する暴力をなくすための方策

過去の調査と比較すると、「法律・制度の制定や見直しを行う」は、前年度から 9.9 ポイント増加している。

また、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」と「家庭における男女平等や性についての教育を充実させる」の教育の充実に関することは割合が増加傾向にある。



問５　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

（現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方へ）

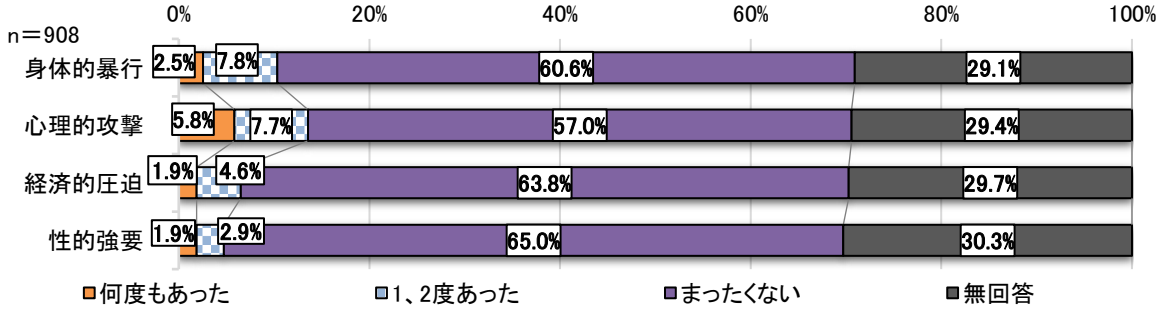
あなたはこれまでに、あなたの夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手から、次のような行為をうけたり、されたことがありますか。次のアからエのそれぞれについて、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
ア　身体的暴行 （例:なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）	2.5%	7.8%	60.6%	29.1%
イ　心理的攻撃 （例:人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないか恐怖を感じるような脅迫）	5.8%	7.7%	57.0%	29.4%
ウ　経済的圧迫 （例:給料や貯金を勝手に使われる、生活費を渡さない、デート代や生活費を無理やり払わされるなど）	1.9%	4.6%	63.8%	29.7%
エ　性的強要 （例:嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ画像を見せられる、避妊に協力しないなど）	1.9%	2.9%	65.0%	30.3%

（「無回答」には、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む）

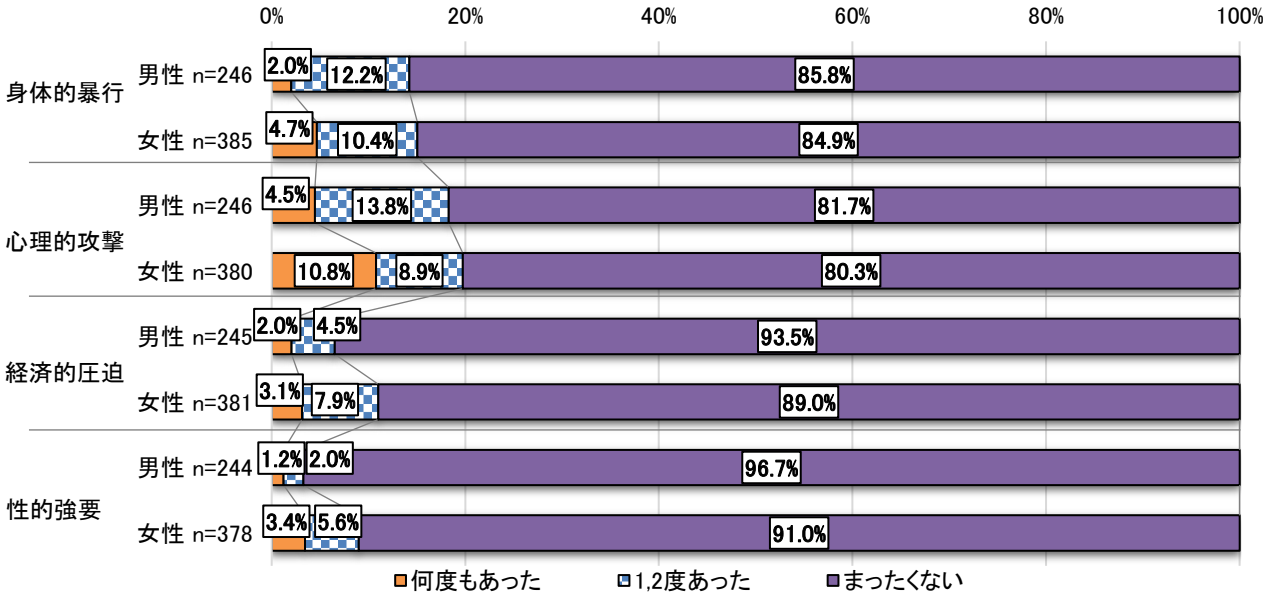
【全体】問５　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力について、「経験がある」と回答した者（「何度もあった」と「１、２度あった」の合計(以下同じ)）は、183 人（20.2%）となっている。項目別では、「身体的暴行」（10.3%）、「心理的攻撃」（13.5%）、「経済的圧迫」（6.5%）、「性的強要」（4.8%）となっている。



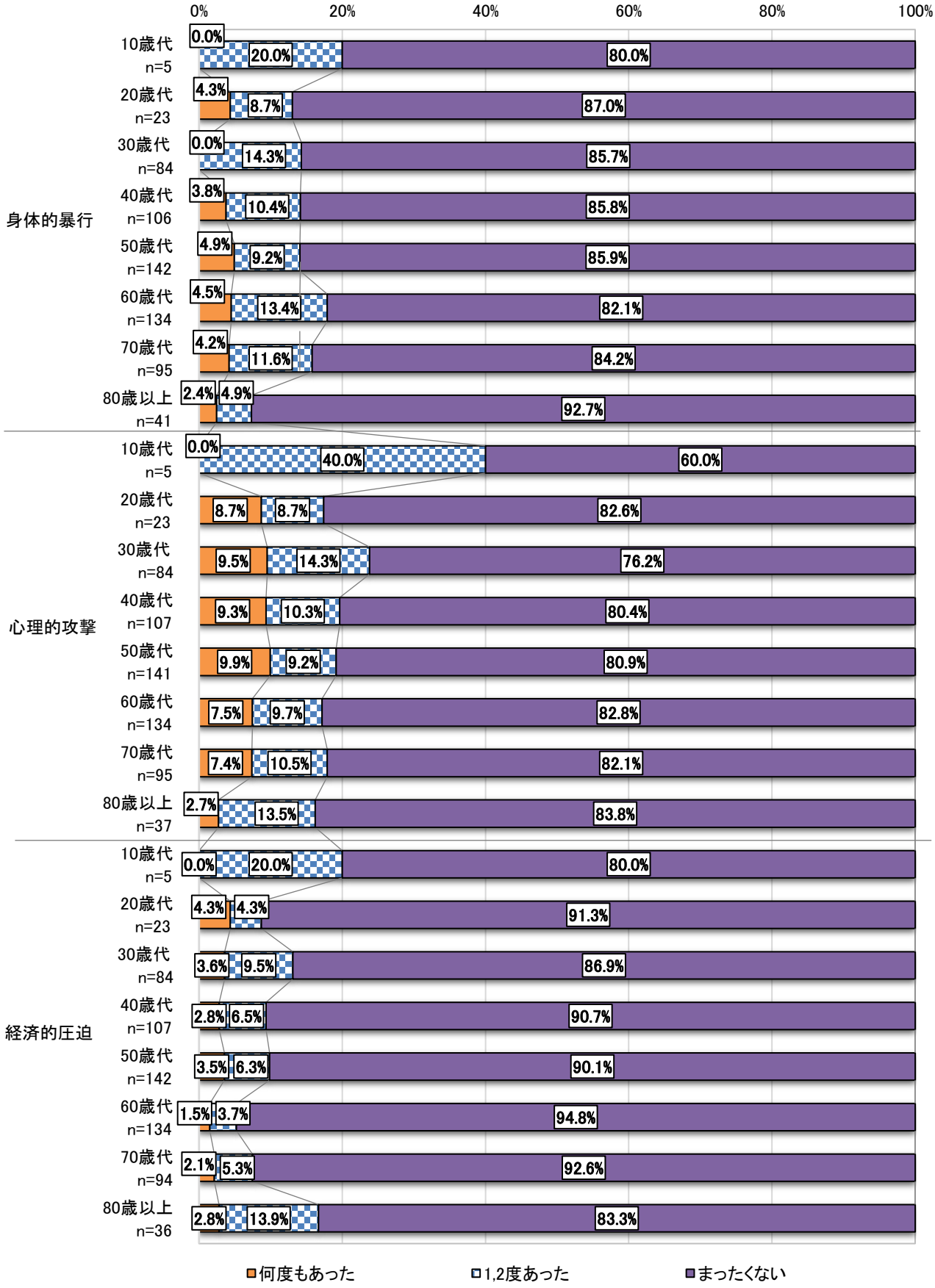
【性別】問５　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

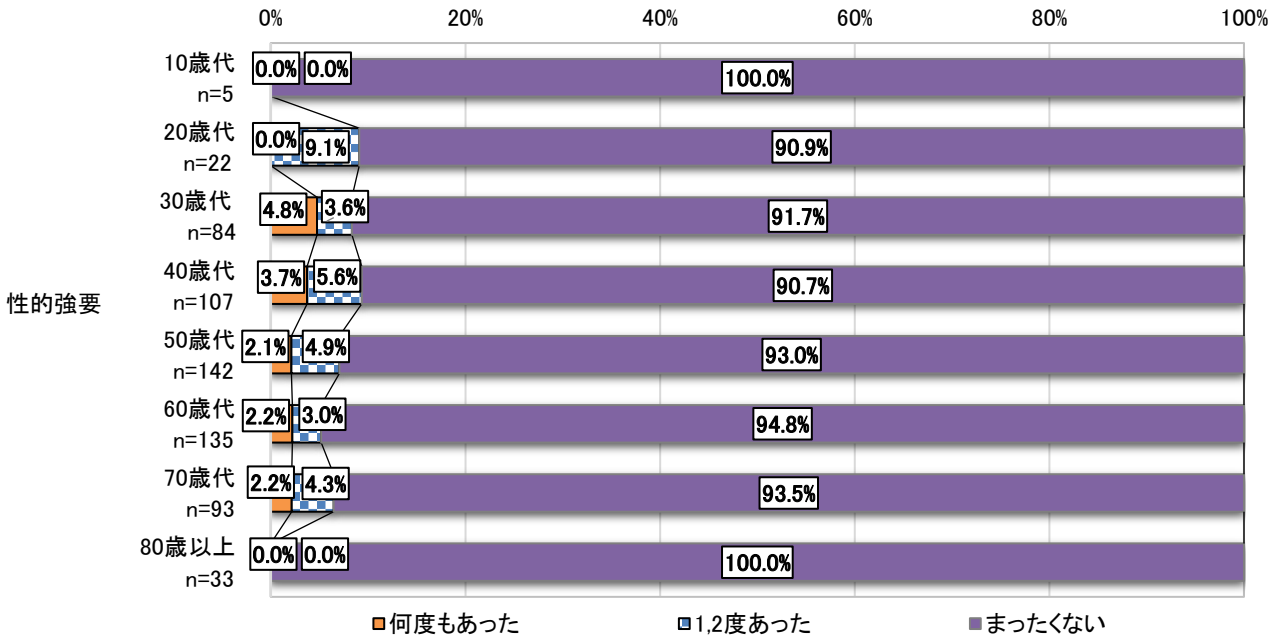
性別にみると、「経験がある」と回答した者の割合は、「身体的暴行」（男性 14.2%、女性 15.1%）、「心理的攻撃」（男性 18.3%、女性 19.7%）、「経済的圧迫」（男性 6.5%、女性 11.0%）、「性的強要」（男性 3.2%、女性 9.0%）となっている。



【年齢別】問５　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

年齢別にみると、「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「経済的圧迫」において、「経験がある」と回答した「10 歳代」は、回答者数が少ない中ではあるが、割合が高くなっている。




性的強要
0%
20%
40%
60%
80%
100%
10歳代
n=5
0.0%
0.0%
100.0%
20歳代
n=22
0.0%
9.1%
90.9%
30歳代
n=84
4.8%
3.6%
91.7%
40歳代
n=107
3.7%
5.6%
90.7%
50歳代
n=142
2.1%
4.9%
93.0%
60歳代
n=135
2.2%
3.0%
94.8%
70歳代
n=93
2.2%
4.3%
93.5%
80歳以上
n=33
0.0%
0.0%
100.0%
何度もあった
1,2度あった
まったくない

問６　暴力を受けた場合の相談先

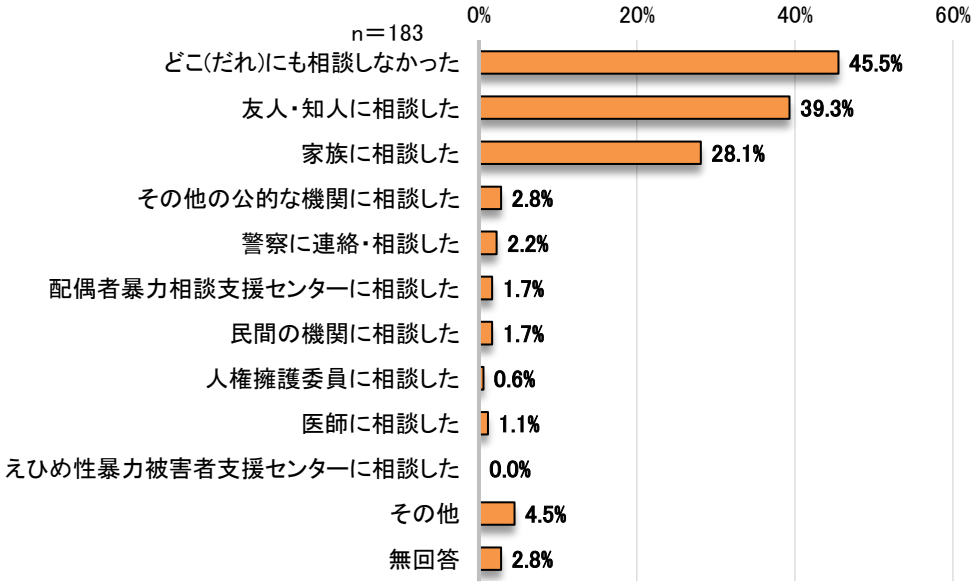
(問５のうち、一つでも１、２とお答えになった方に)

あなたは、これまでに、問５であげたような夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む)、生活の本拠を共にする交際相手からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。当てはまるものすべてに○をつけてください。(複数回答)

1	警察に連絡・相談した	2.2%
2	人権擁護委員に相談した(法務局、地方法務局の人権相談窓口を含む)	0.6%
3	配偶者暴力相談支援センター(県男女共同参画センター、県福祉総合支援センター、新居浜市配偶者暴力相談支援センター)に相談した	1.7%
4	えひめ性暴力被害者支援センターに相談した	0.0%
5	その他の公的な機関に相談した	2.8%
6	民間の機関(弁護士会、NPOなど)に相談した	1.7%
7	医師に相談した	1.1%
8	家族に相談した	28.1%
9	友人・知人に相談した	39.3%
10	どこ(だれ)にも相談しなかった	45.5%
11	その他	4.5%
	無回答	2.8%

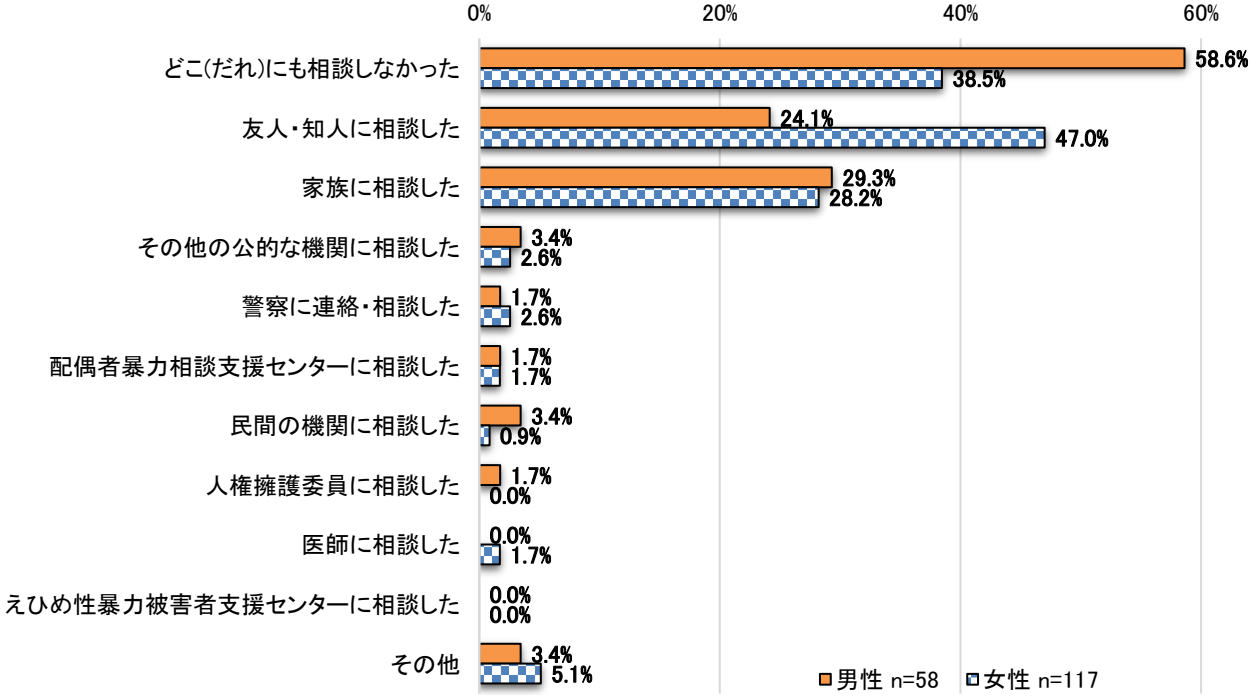
【全体】問６　暴力を受けた場合の相談先

暴力をうけた場合の相談先について複数回答により聞いたところ、「どこ（だれ）にも相談しなかった」(45.5%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「友人・知人に相談した」(39.3%)、「家族に相談した」(28.1%)、の順になっている。公的機関では「その他の公的な機関に相談した」(2.8%)、「警察に連絡・相談した」(2.2%）の順となっている。



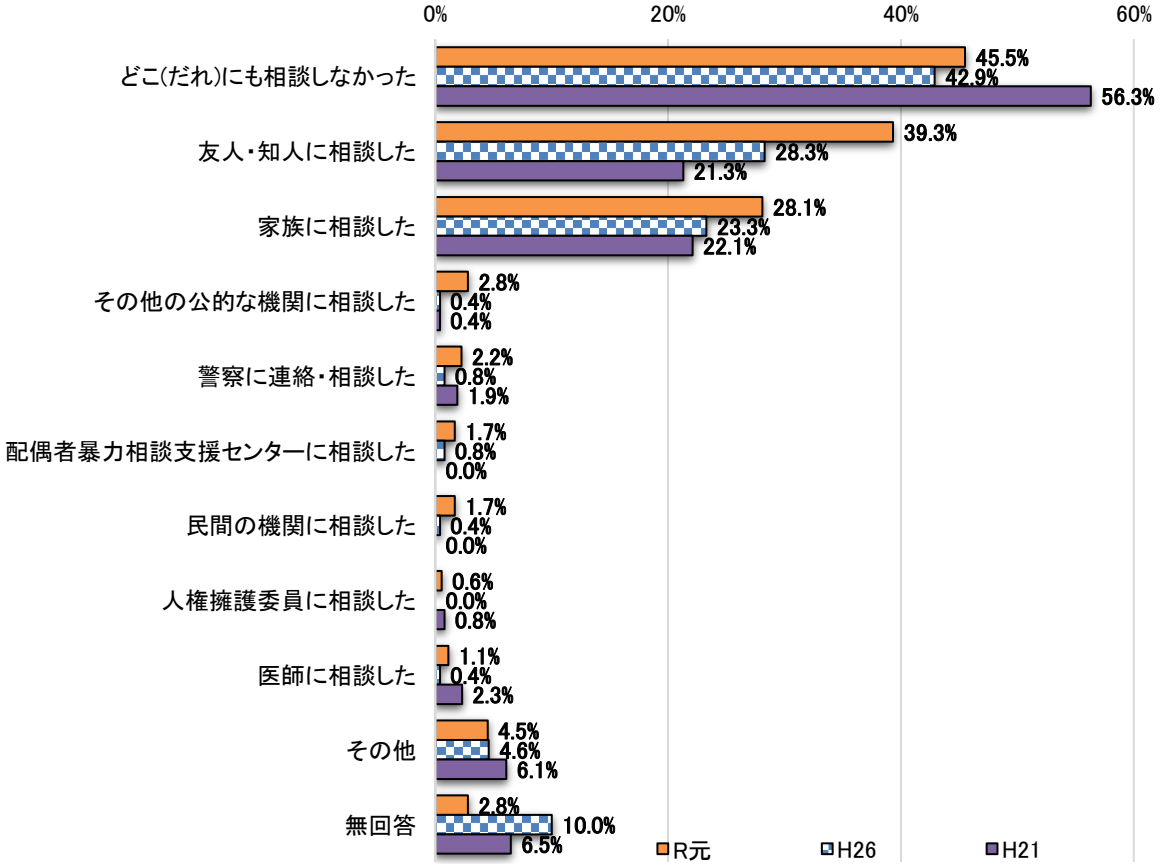
【性別】問６　暴力を受けた場合の相談先

性別にみると、女性は「友人・知人に相談した」（47.0%）と回答した者の割合が最も高くなっており、男性との差は22.9 ポイントとなっている。男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」（58.6%）と回答した者の割合が最も高くなっており、女性との差は 20.1 ポイントとなっている。



【過去との比較】問６　暴力を受けた場合の相談先

過去の調査と比較すると、暴力をうけた場合の相談先の上位項目に違いは見られなかった。「友人・知人に相談した」と「家族に相談した」は、増加傾向にある。



（注）R 元年度から、「えひめ性暴力被害者支援センターに相談した」を追加。

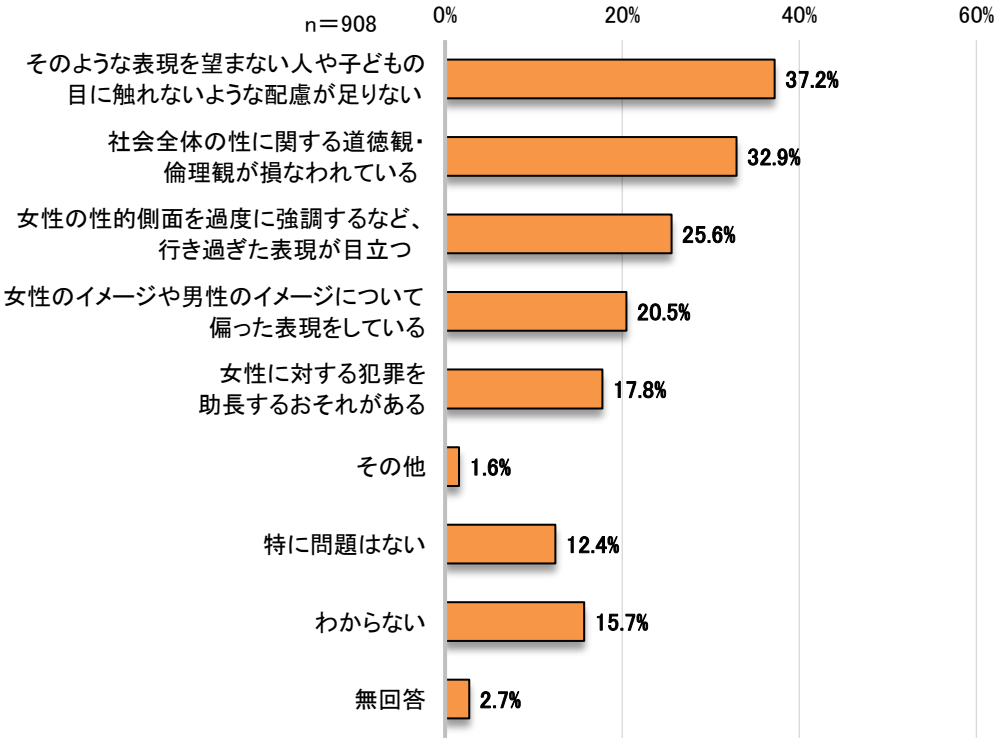
問７　メディアにおける性や暴力の表現

新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアにおける性や暴力の表現について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。（複数回答）

1	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	25.6%
2	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	32.9%
3	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	17.8%
4	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	37.2%
5	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	20.5%
6	その他	1.6%
7	特に問題はない	12.4%
8	わからない	15.7%
	無回答	2.7%

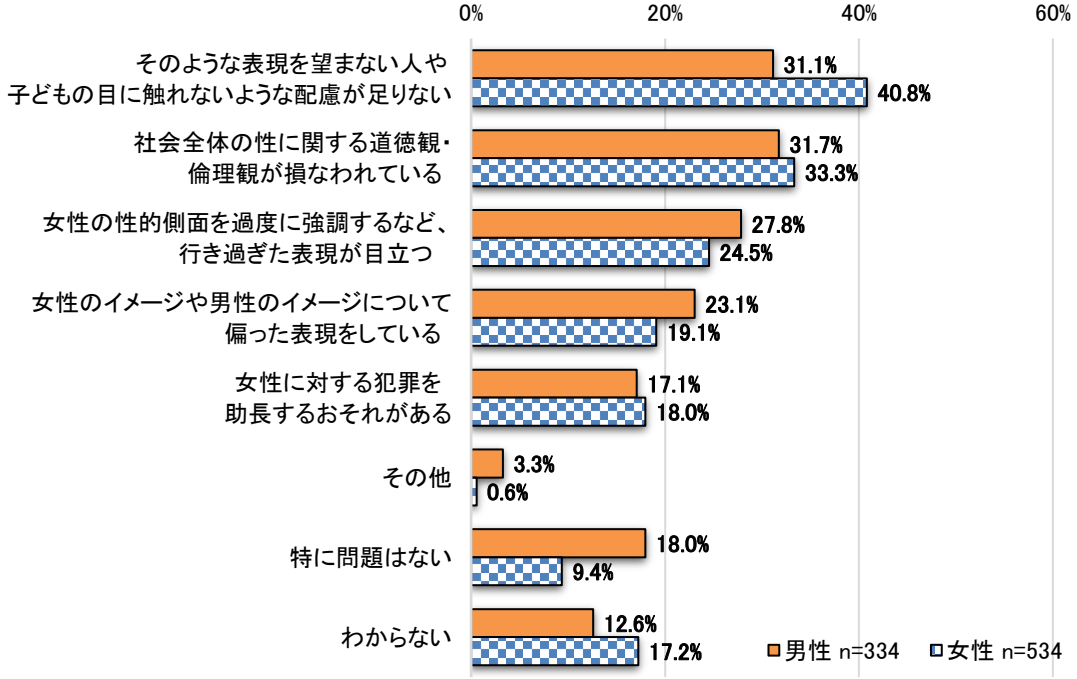
【全体】問７　メディアにおける性や暴力の表現

新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアにおける性や暴力の表現について複数回答により聞いたところ、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」（37.2%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（32.9%）、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（25.6%）、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」（20.5%）、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」（17.8%）の順になっている。「特に問題はない」と回答した者の割合は、12.4%となっている。



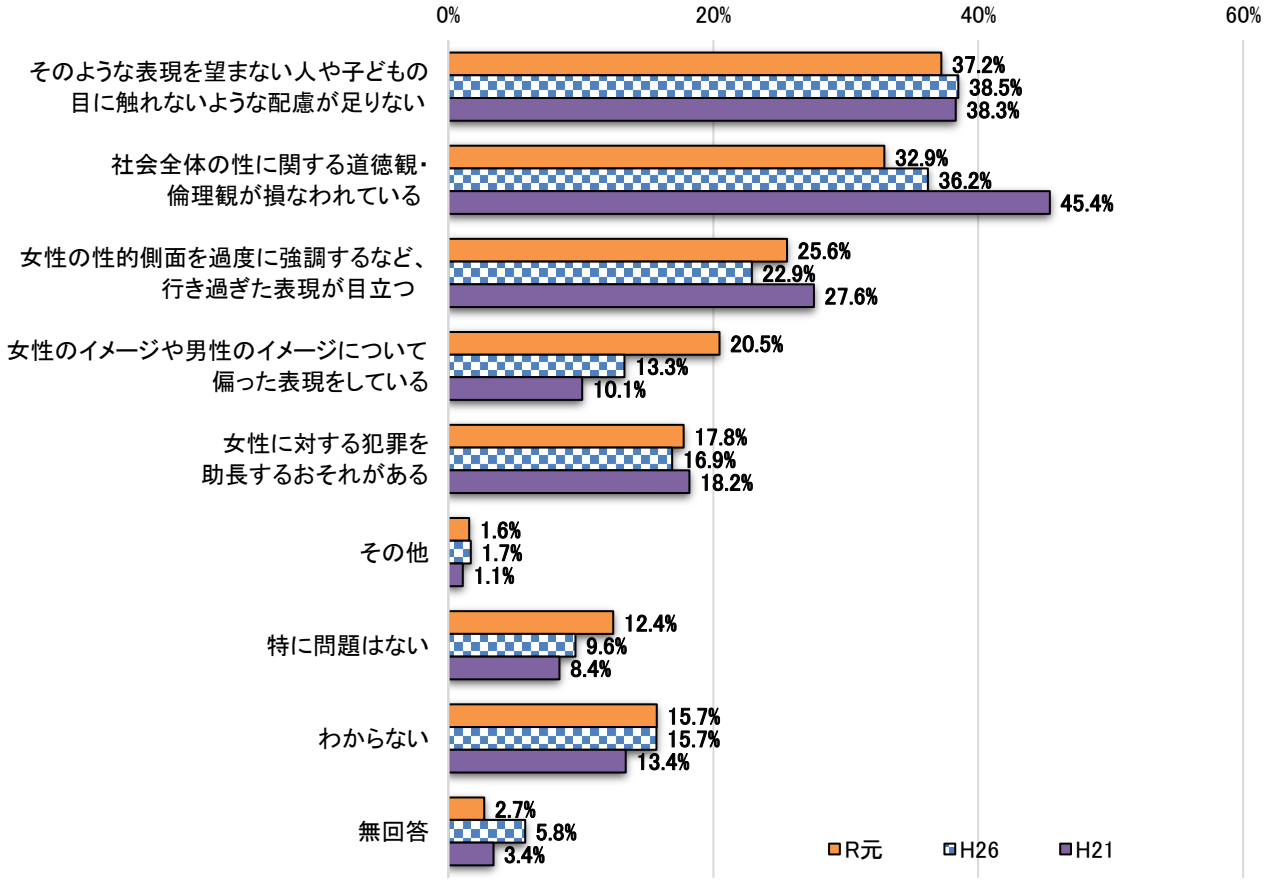
【性別】問７　メディアにおける性や暴力の表現

性別にみると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」は、9.7 ポイント（女性 40.8%、男性 31.1%）、女性の方が男性より高くなっている。「特に問題はない」は、8.6 ポイント（男性 18.0%、女性 9.4%）、男性の方が女性より高くなっている。



【過去との比較】問７　メディアにおける性や暴力の表現

過去の調査と比較すると、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」は減少傾向にある。一方で、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」は増加傾向にある。



問８　行政が力を入れるべき事項

男女共同参画社会を形成していくために、今後行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	27.7%
2	女性を政策決定の場に積極的に登用する	20.2%
3	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	17.4%
4	地域の組織や団体の女性リーダーの育成を支援する	12.9%
5	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	12.0%
6	従来、女性が少なかった分野（研究職、防災関係など）への女性の進出を支援する	10.2%
7	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	30.9%
8	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	26.8%
9	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	24.4%
10	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	38.0%
11	子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	28.1%
12	男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	9.0%
13	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	7.1%
14	その他	1.5%
15	わからない	6.3%
	無回答	1.9%

（注）削除項目

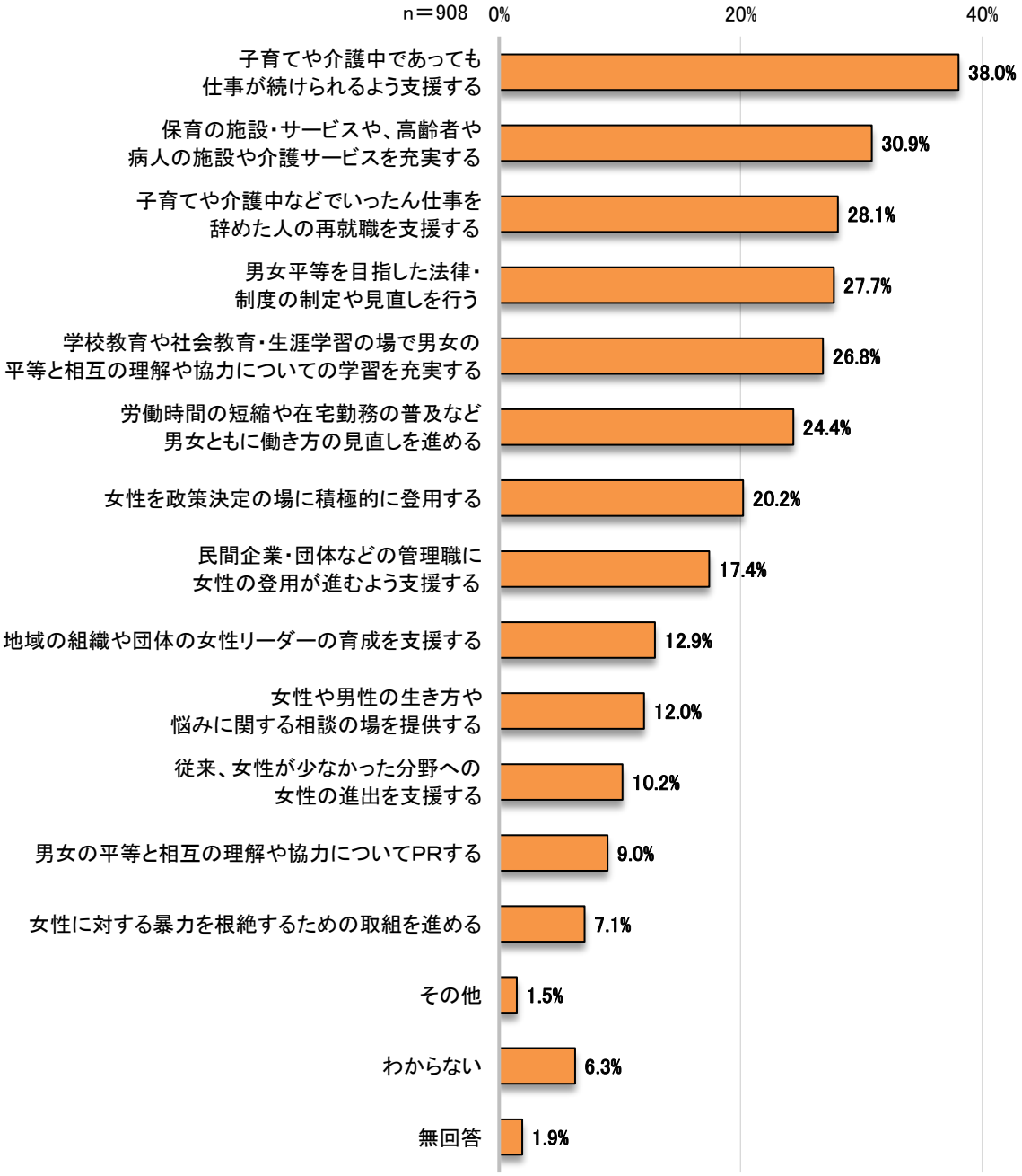
「各種団体の女性のリーダーを養成する」「職場における男女の均等な待遇について周知徹底を行う」「女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する」「保育の施設・サービスを充実する」「高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する」「各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する」「広報誌やパンフレットなどで男女の平等と相互の理解や協力についてＰＲする」を削除。

追加項目

Ｒ元年度から、「民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する」「地域の組織や団体の女性リーダーの育成を支援する」「女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する」「従来、女性が少なかった分野（研究職、防災関係など）への女性の進出を支援する」「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「男女の平等と相互の理解や協力についてＰＲする」「女性に対する暴力を根絶するための取組を進める」を追加。

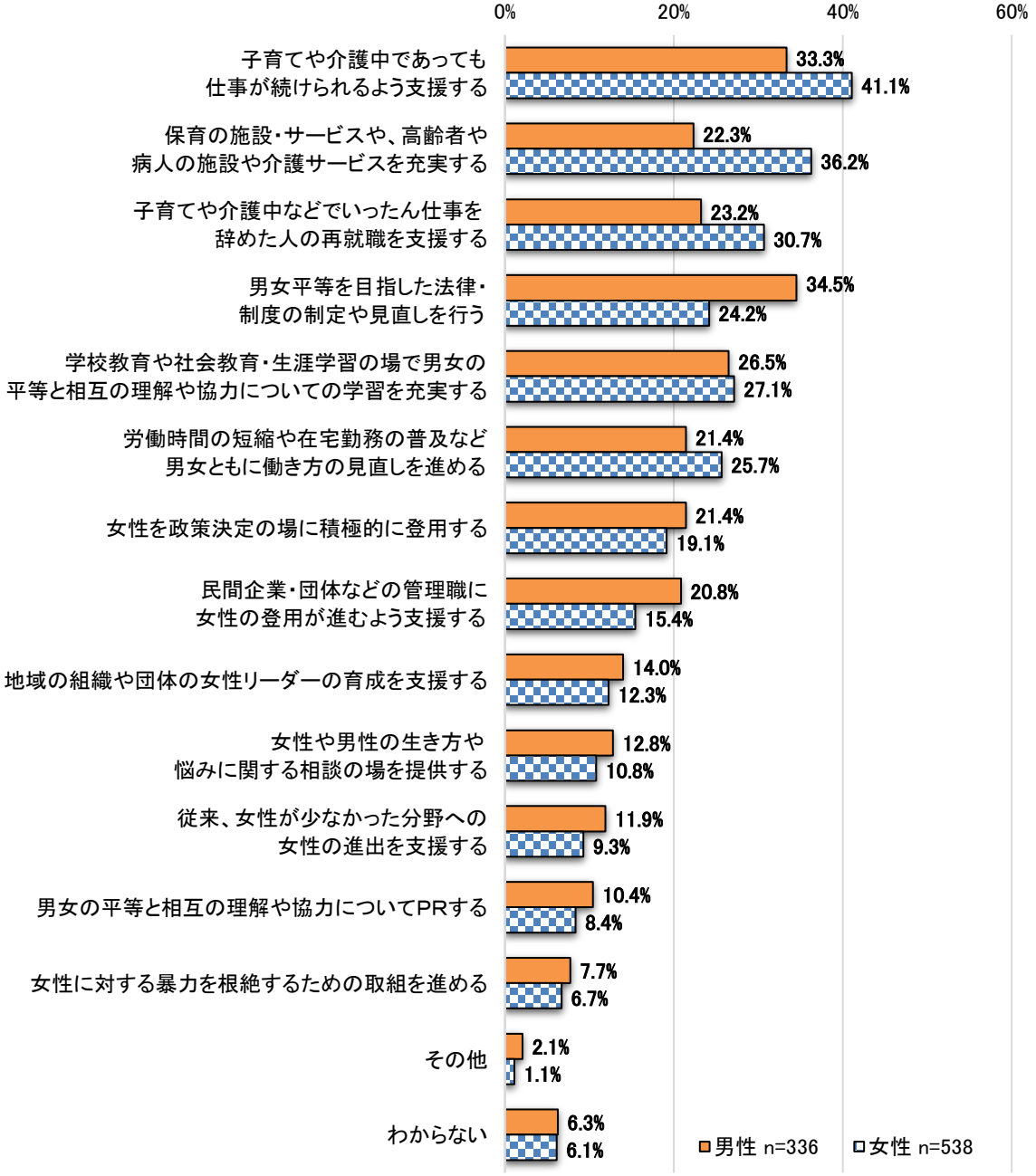
【全体】問８　行政が力を入れるべき事項

男女共同参画社会を形成していくために今後行政が力を入れるべきと思われる方策等について複数回答により聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（38.0%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（30.9%）、「子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（28.1%）、「男女平等をめざした法律・制度の制定や見直しを行う」（27.7%）、「学校教育や社会教育・生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」（26.8%）、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」（24.4%）、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」（20.2%）の順になっている。



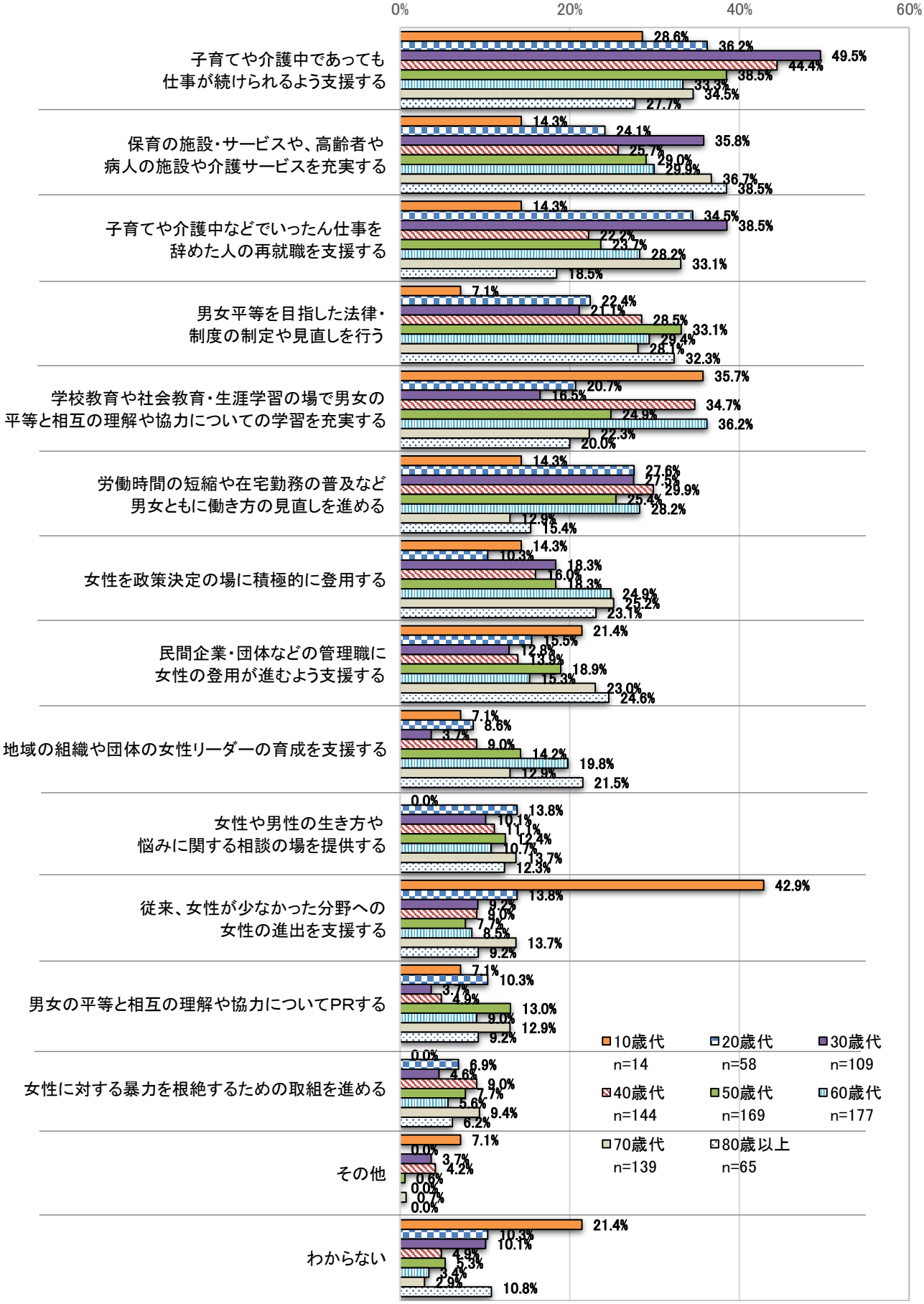
【性別】問８　行政が力を入れるべき事項

性別にみると、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」7.8 ポイント（女性 41.1%、男性 33.3%）、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」13.9 ポイント（女性 36.2%、男性 22.3%）、「子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」7.5 ポイント（女性 30.7%、男性 23.2%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女平等をめざした法律・制度の制定や見直しを行う」は 10.3 ポイント（男性 34.5%、女性 24.2%）、男性の方が女性より高くなっている。



【年齢別】問８　行政が力を入れるべき事項

年齢別にみると、「従来、女性が少なかった分野（研究職、防災関係など）への女性の進出を支援する」において、「10歳代」の回答者数が少ない中ではあるが、他の年代と比較して割合が高くなっている。



問９　結婚、家庭、離婚についての意見

結婚、家庭、離婚について、あなたの御意見をお伺いします。アからオまでの各項目ごとに「そう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」など五つの選択肢の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
ア　結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	45.6%	21.0%	17.4%	8.0%	5.9%	2.0%
イ　夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい	15.2%	15.7%	35.5%	12.4%	18.2%	3.0%
ウ　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成である	2.9%	6.7%	25.8%	16.9%	45.2%	2.6%
エ　仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい	2.8%	9.4%	20.8%	18.1%	46.4%	2.6%
オ　一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である	26.4%	28.7%	25.8%	6.5%	10.1%	2.4%

【全体】問９　結婚、家庭、離婚についての意見

（ア）結婚について

「結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について、「そう思う」（66.6%）と回答した者（「そう思う」（45.6%）と「どちらかといえばそう思う」（21.0%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（13.9%）と回答した者（「そう思わない」（5.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（8.0%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

（イ）夫婦別性について

「夫婦が別性を名乗るのを認めた方がよい」という考え方について、「そう思う」（30.9%）と回答した者（「そう思う」（15.2%）と「どちらかといえばそう思う」（15.7%）の合計（以下同じ））の割合と「そう思わない」（30.6%）と回答した者（「そう思わない」（18.2%）と「どちらかといえばそう思わない」（12.4%）の合計（以下同じ））の割合がほぼ同じであった。なお、「どちらともいえない」と回答した者の割合は 35.5%であった。

（ウ）性別役割分担意識について①

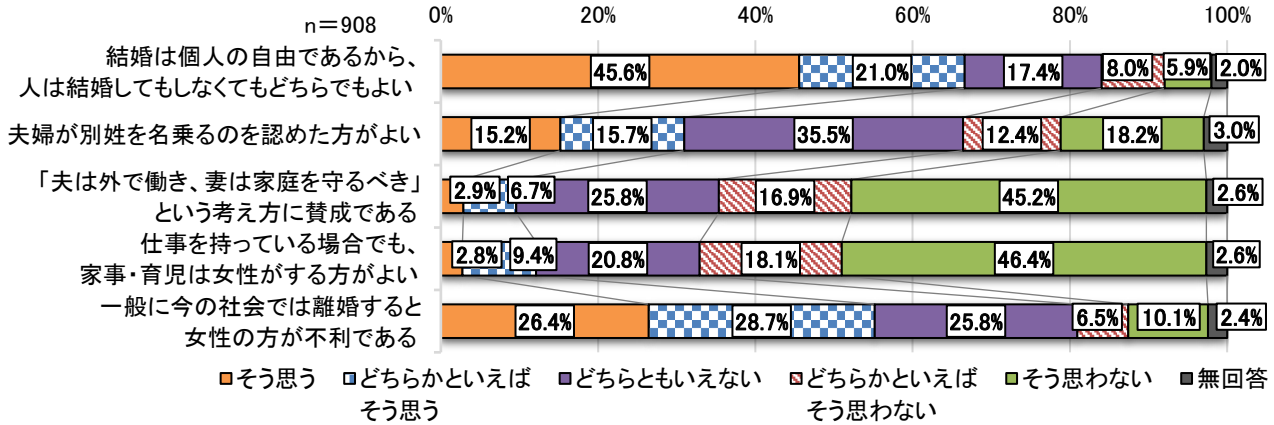
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「そう思う」（9.6%）と回答した者（「そう思う」（2.9%）と「どちらかといえばそう思う」（6.7%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（62.1%）と回答した者（「そう思わない」（45.2%）と「どちらかといえばそう思わない」（16.9%）の合計（以下同じ））の割合を下回っている。

（エ）性別役割分担意識について②

「仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい」という考え方について、「そう思う」（12.2%）と回答した者（「そう思う」（2.8%）と「どちらかといえばそう思う」（9.4%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（64.5%）と回答した者（「そう思わない」（46.4%）と「どちらかといえばそう思わない」（18.1%）の合計（以下同じ））の割合を下回っている。

（オ）離婚について

「一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である」という考え方について、「そう思う」（55.1%）と回答した者（「そう思う」（26.4%）と「どちらかといえばそう思う」（28.7%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（16.6%）と回答した者（「そう思わない」（10.1%）と「どちらかといえばそう思わない」（6.5%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。



【性別】問９　結婚、家庭、離婚についての意見

（ア）結婚について

性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 11.9 ポイント（女性 72.4%、男性 60.5%）、女性の方が男性より高くなっている。

なお、「そう思わない」は 6.4 ポイント（男性 18.3%、女性 11.9%）、男性の方が女性より高くなっている。

（イ）夫婦別性について

性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 7.1 ポイント（女性 35.0%、男性 27.9%）、女性の方が男性より高くなっている。

なお、「そう思わない」は、3.8 ポイント（男性 33.9%、女性 30.1%）男性の方が女性より割合が高くなっている。

（ウ）性別役割分担意識について①

性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 7.3 ポイント（男性 14.4%、女性 7.1%）、男性の方が女性より高くなっている。

なお、「そう思わない」は 17.4 ポイント（女性 70.5%、男性 53.1%）、女性の方が男性より高くなっている。

（エ）性別役割分担意識について②

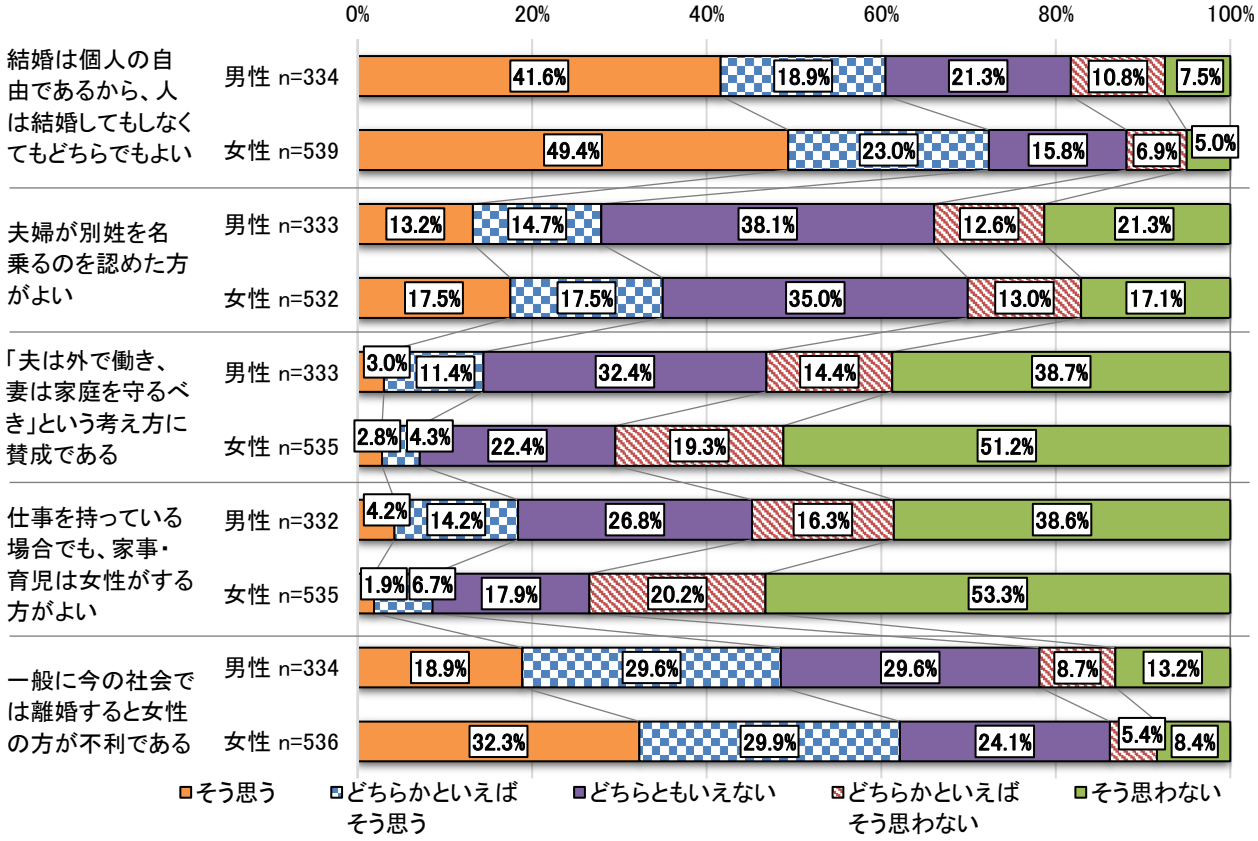
性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 9.8 ポイント（男性 18.4%、女性 8.6%）、男性の方が女性より高くなっている。

なお、「そう思わない」は 18.6 ポイント（女性 73.5%、男性 54.9%）、女性の方が男性より高くなっている。

（オ）離婚について

性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 13.7 ポイント（女性 62.2%、男性 48.5%）、女性の方が男性より高くなっている。

なお、「そう思わない」は 8.1 ポイント（男性 21.9%、女性 13.8%）、男性の方が女性より高くなっている。



【年齢別】問９　結婚、家庭、離婚についての意見

（ア）結婚について

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「10 歳代～30 歳代」が高く、以降年齢が上がると低くなる傾向にある。

（イ）夫婦別性について

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「20 歳代」を除き年齢が上がると低くなる傾向にある。

（ウ）性別役割分担意識について①

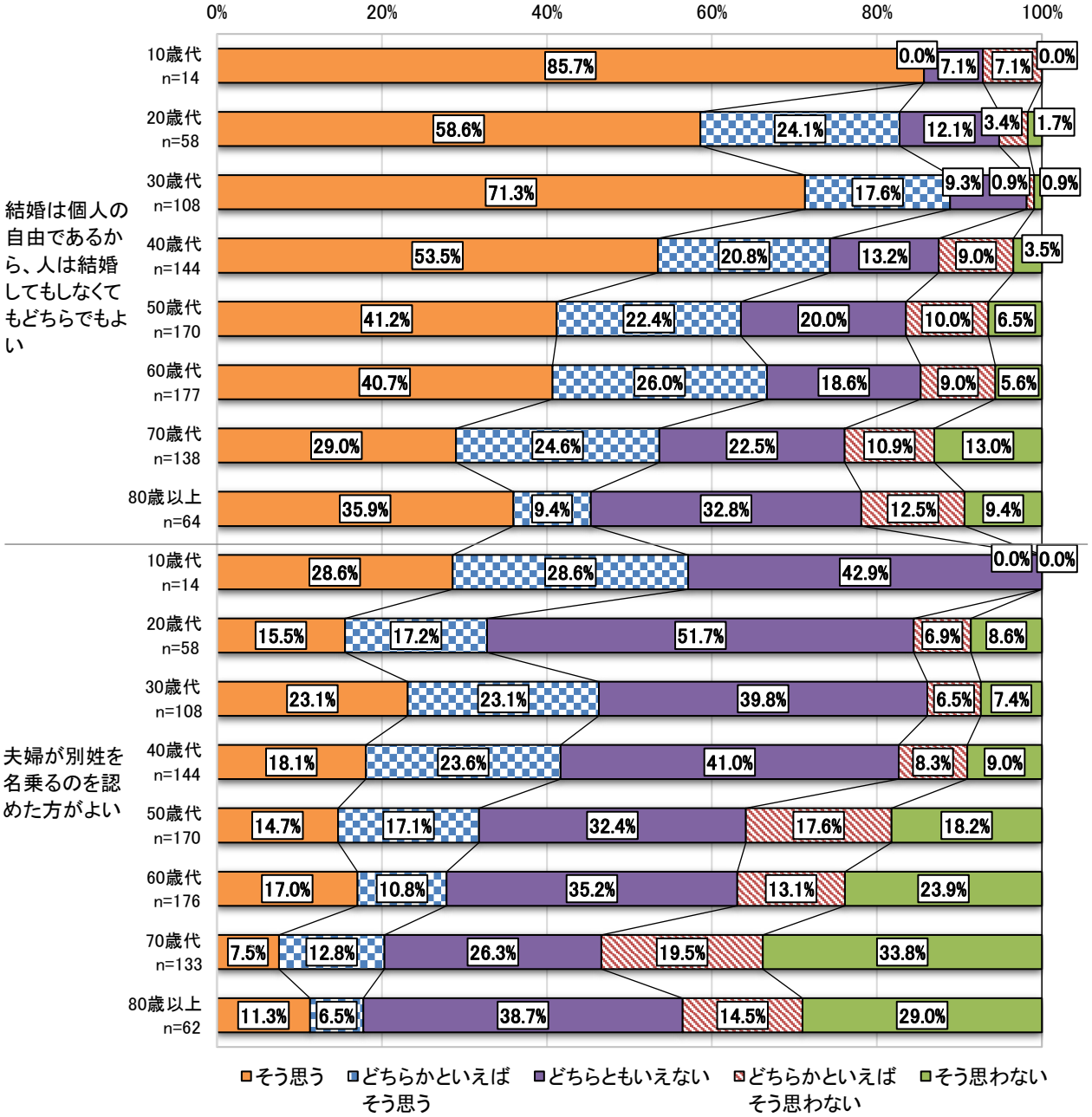
年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、年齢が上がると高くなる傾向にある。

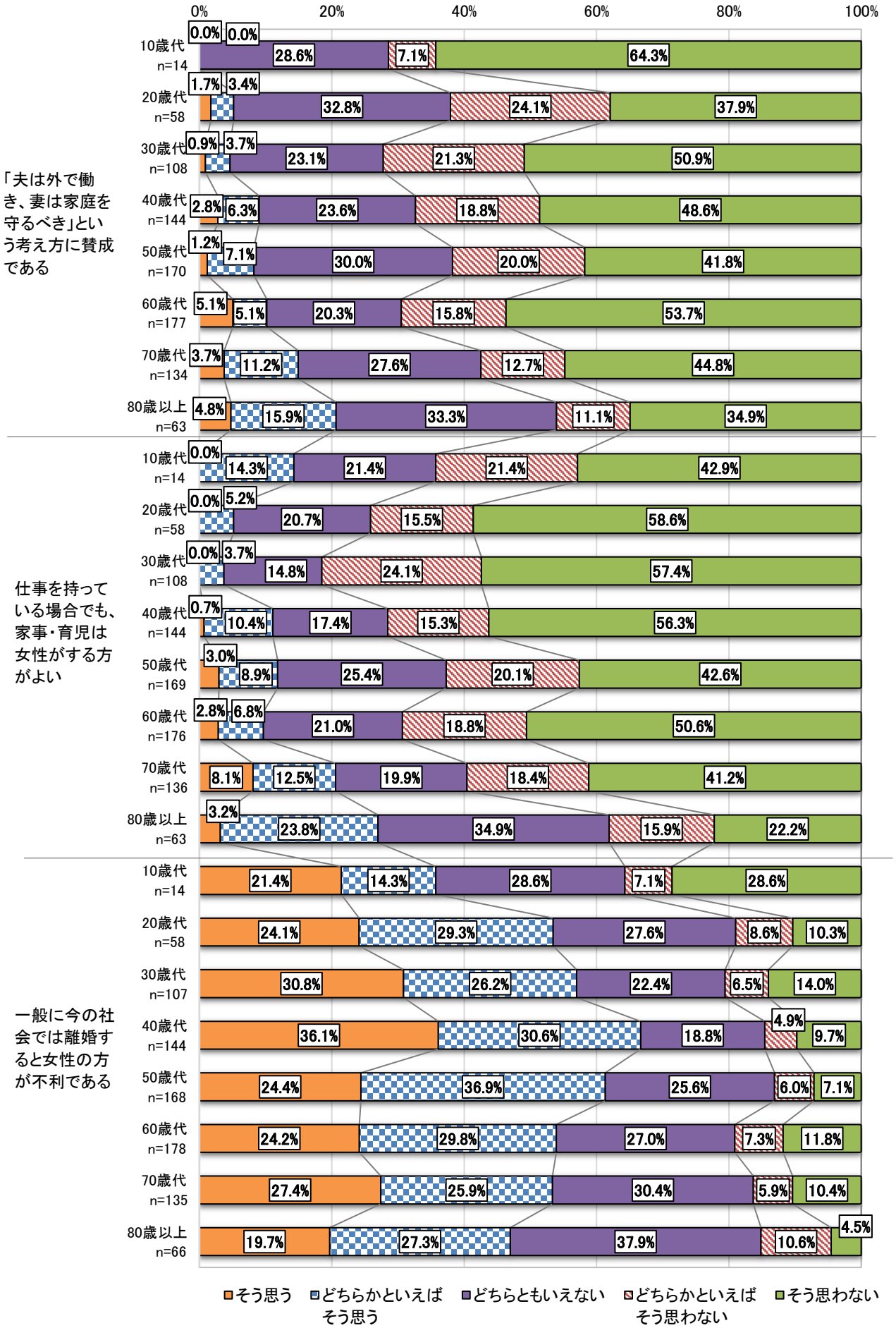
（エ）性別役割分担意識について②

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「70 歳代以上」が高くなっている。

（オ）離婚について

年齢別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は、「40 歳代」が高くなっている。




0%
20%
40%
60%
80%
100%
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成である
10歳代 n=14 0.0% 0.0% 28.6% 7.1% 64.3%
20歳代 n=58 1.7% 3.4% 32.8% 24.1% 37.9%
30歳代 n=108 0.9% 3.7% 23.1% 21.3% 50.9%
40歳代 n=144 2.8% 6.3% 23.6% 18.8% 48.6%
50歳代 n=170 1.2% 7.1% 30.0% 20.0% 41.8%
60歳代 n=177 5.1% 5.1% 20.3% 15.8% 53.7%
70歳代 n=134 3.7% 11.2% 27.6% 12.7% 44.8%
80歳以上 n=63 4.8% 15.9% 33.3% 11.1% 34.9%
仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい
10歳代 n=14 0.0% 14.3% 21.4% 21.4% 42.9%
20歳代 n=58 0.0% 5.2% 20.7% 15.5% 58.6%
30歳代 n=108 0.0% 3.7% 14.8% 24.1% 57.4%
40歳代 n=144 0.7% 10.4% 17.4% 15.3% 56.3%
50歳代 n=169 3.0% 8.9% 25.4% 20.1% 42.6%
60歳代 n=176 2.8% 6.8% 21.0% 18.8% 50.6%
70歳代 n=136 8.1% 12.5% 19.9% 18.4% 41.2%
80歳以上 n=63 3.2% 23.8% 34.9% 15.9% 22.2%
一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である
10歳代 n=14 21.4% 14.3% 28.6% 7.1% 28.6%
20歳代 n=58 24.1% 29.3% 27.6% 8.6% 10.3%
30歳代 n=107 30.8% 26.2% 22.4% 6.5% 14.0%
40歳代 n=144 36.1% 30.6% 18.8% 4.9% 9.7%
50歳代 n=168 24.4% 36.9% 25.6% 6.0% 7.1%
60歳代 n=178 24.2% 29.8% 27.0% 7.3% 11.8%
70歳代 n=135 27.4% 25.9% 30.4% 5.9% 10.4%
80歳以上 n=66 19.7% 27.3% 37.9% 10.6% 4.5%
そう思う
どちらかといえばそう思う
どちらともいえない
どちらかといえばそう思わない
そう思わない

【過去との比較】問９　結婚、家庭、離婚についての意見

（ア）結婚について

過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、増加傾向にある。「そう思わない」と回答した者の割合は、前回調査から減少した。

（イ）夫婦別性について

過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、前回調査から増加した。「そう思わない」と回答した者の割合は、減少傾向にある。

（ウ）性別役割分担意識について①

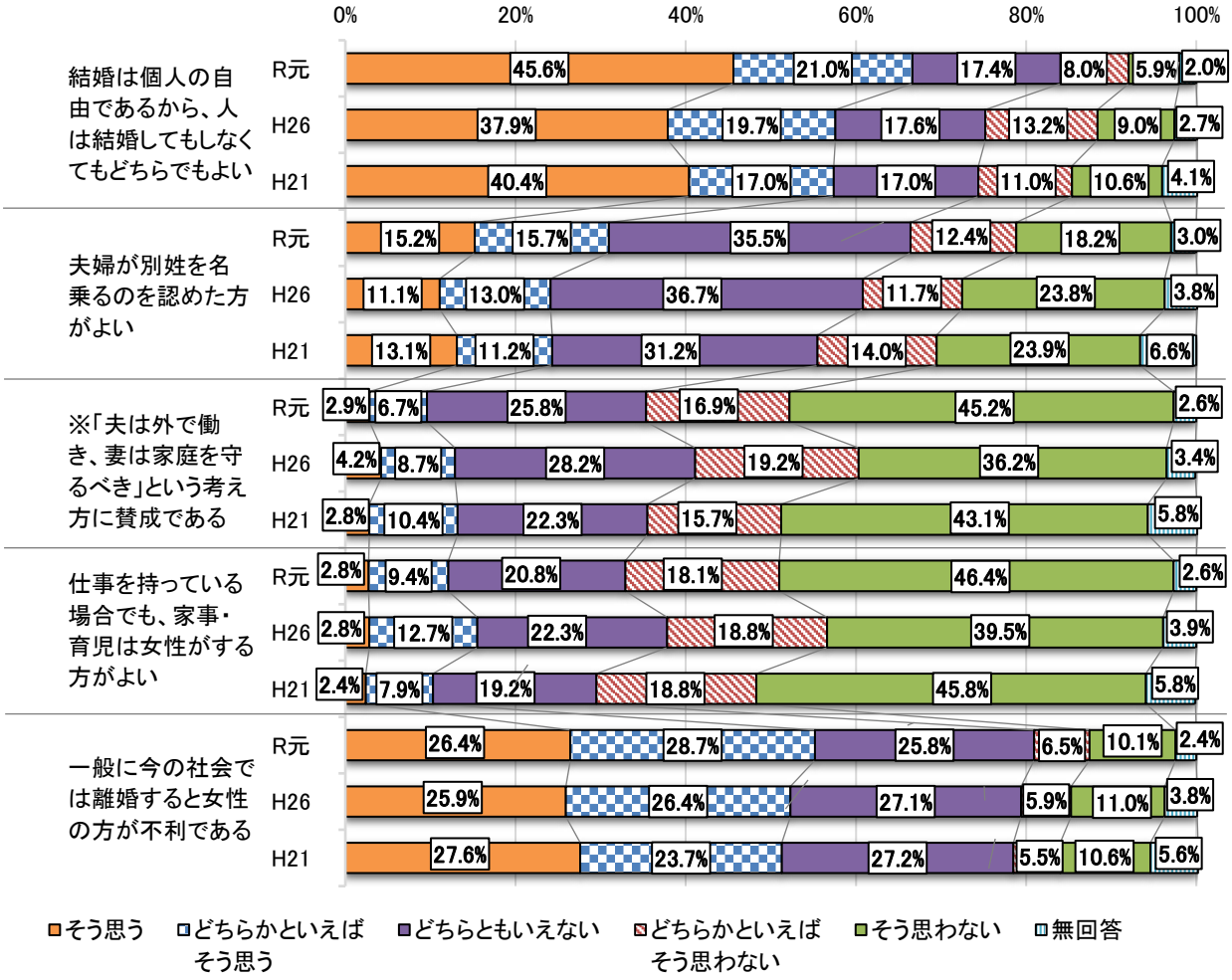
過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、前回調査から減少した。「そう思わない」と回答した者の割合は、前回調査から増加した。

（エ）性別役割分担意識について②

過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、前回調査から減少した。「そう思わない」と回答した者の割合は、前回調査から増加した。

（オ）離婚について

過去の調査と比較すると、「そう思う」と回答した者の割合は、増加傾向にある。



※　H21 年度は、（「男は仕事、女は家庭」という考え方は当然である」）という項目で調査。

問 10　子どもに受けさせたい教育

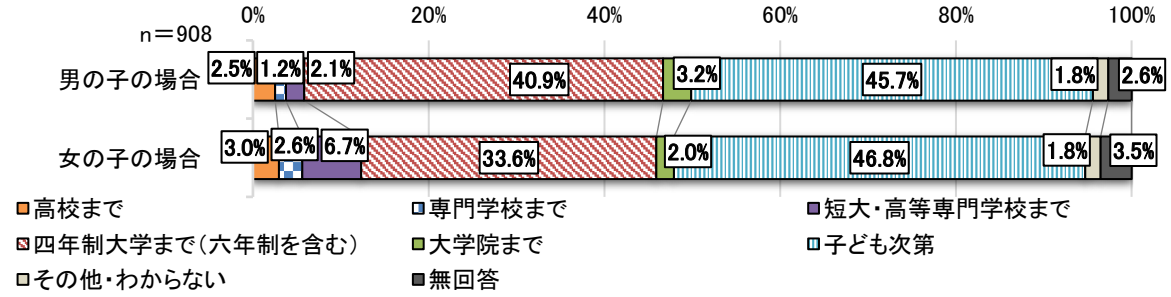
あなたは自分の子どもに対して、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。自分の子どもが男の子の場合と女の子の場合ごとに、それぞれ一つ選んで番号を〇で囲んでください。

(子どものいない方や既に子どもが社会人になっている方は、仮に、これから教育を受ける子どもがいるとしてお考えください。)

	高校まで	専門学校まで	短大・高等専門学校まで	四年制大学まで（六年制を含む）	大学院まで	子ども次第	その他・わからない	無回答
ア　男の子の場合	2.5%	1.2%	2.1%	40.9%	3.2%	45.7%	1.8%	2.6%
イ　女の子の場合	3.0%	2.6%	6.7%	33.6%	2.0%	46.8%	1.8%	3.5%

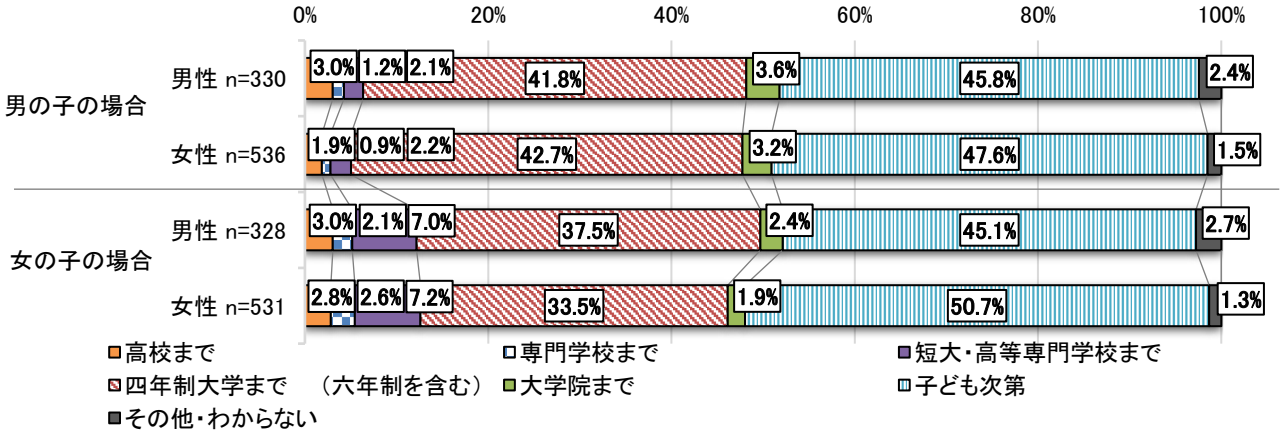
【全体】問 10　子どもに受けさせたい教育

子どもに受けさせたい教育については、「男の子の場合」、「女の子の場合」いずれも「子ども次第」と回答した者の割合が最も高く、「男の子の場合」（45.7%）、「女の子の場合」（46.8%）となっている。次に回答した者の割合が高い順に、「男の子の場合」は、「四年制大学まで（六年制を含む）」（40.9%）、「大学院まで」（3.2%）であり、「女の子の場合」は、「四年制大学まで（六年制を含む）」（33.6%）、「短大・高等専門学校」（6.7%）となっている。「女の子の場合」では、「男の子の場合」と比較して、「四年制大学まで（六年制を含む）」と回答した者の割合が低くなっている。



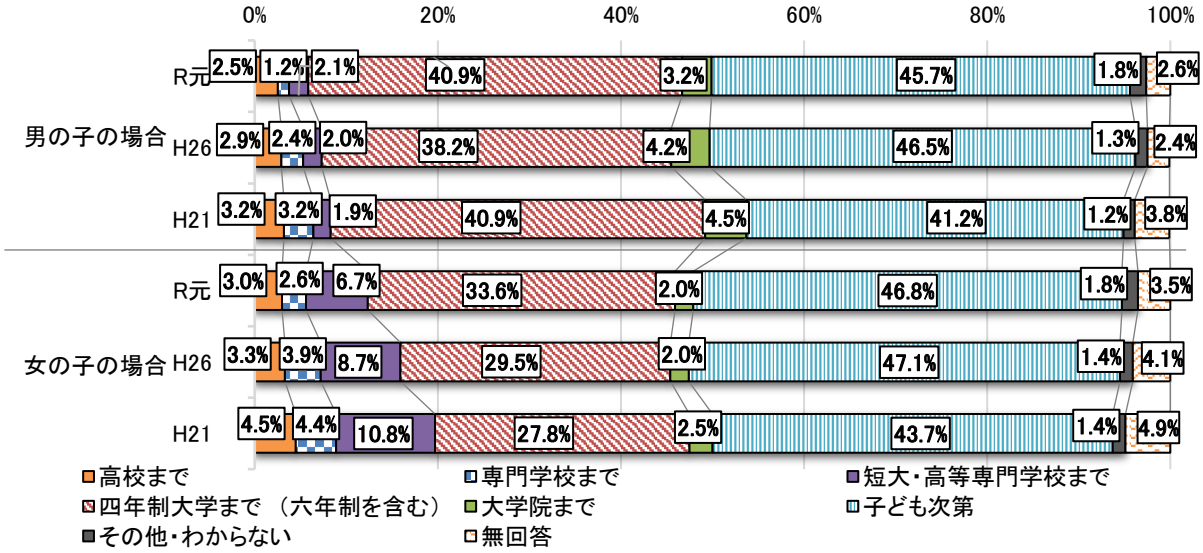
【性別】問 10　子どもに受けさせたい教育

性別にみると、「子ども次第」と回答した者の割合の差は、「男の子の場合」1.8 ポイント（女性 47.6%、男性 45.8%）であり、「女の子の場合」5.6 ポイント（女性 50.7%、男性 45.1%）となり、女性の方が男性より割合が高くなっている。



【過去との比較】問 10　子どもに受けさせたい教育

過去の調査と比較すると、「男の子の場合」は、「高校まで」と「専門学校まで」が減少傾向にある。「女の子の場合」は、「高校まで」、「専門学校まで」、「短大・高等専門学校まで」が減少傾向にあり、「四年制大学まで」が増加傾向にある。



問 11　教育に対する意識

教育について、次のような考え方をどう思われますか。アからオのそれぞれの項目について該当するものをそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
ア　男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけるのがよい	15.1%	29.4%	27.1%	10.6%	15.2%	2.6%
イ　性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい	59.0%	30.8%	5.7%	1.3%	0.9%	2.3%
ウ　学校で出席簿の順番など「男子が先」という習慣をなくした方がよい	23.0%	12.9%	43.8%	6.6%	9.9%	3.7%
エ　女性は文系、男性は理系の分野が向いている	0.6%	3.3%	31.9%	9.5%	51.2%	3.5%
オ　知的な能力は、性別による差よりも個人差の方が大きい	60.1%	22.0%	9.5%	1.3%	3.1%	4.0%

【全体】問 11　教育に対する意識

（ア）男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけるのがよい」という考え方について、「そう思う」（44.5%）と回答した者（「そう思う」（15.1%）と「どちらかといえばそう思う」（29.4%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（25.8%）と回答した者（「そう思わない」（15.2%）と「どちらかといえばそう思わない」（10.6%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

（イ）性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす

「性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい」という考え方について、「そう思う」（89.8%）と回答した者（「そう思う」（59.0%）と「どちらかといえばそう思う」（30.8%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（2.2%）と回答した者（「そう思わない」（0.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（1.3%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。

（ウ）出席簿の順番など

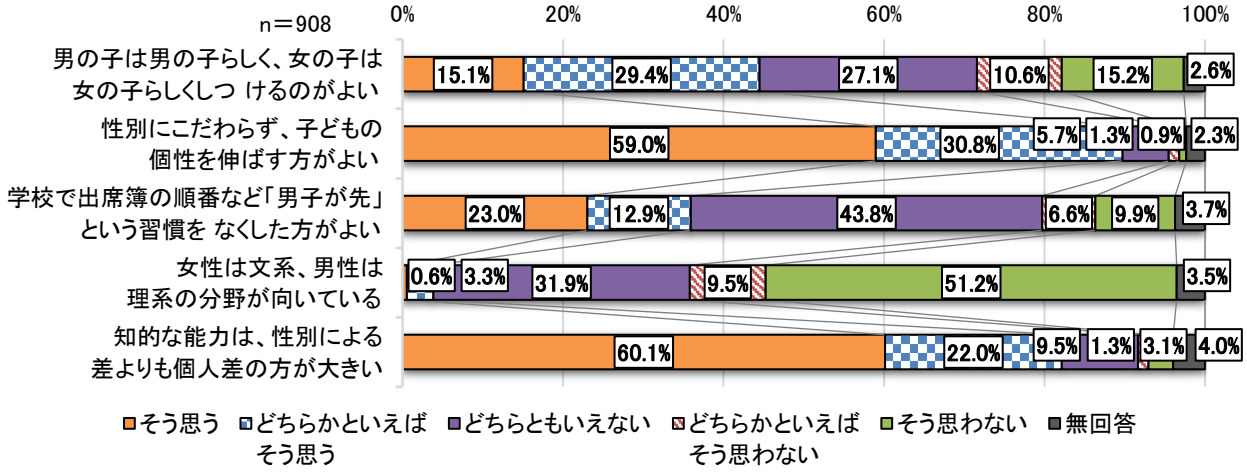
「学校で出席簿の順番など「男子が先」という習慣をなくした方がよい」という考え方について、「そう思う」（35.9%）と回答した者（「そう思う」（23.0%）と「どちらかといえばそう思う」（12.9%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（16.5%）と回答した者（「そう思わない」（9.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（6.6%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。ただし、「どちらともいえない」と回答した者の割合が43.8%となっている。

（エ）女性は文系、男性は理系

「女性は文系、男性は理系の分野が向いている」という考え方について、「そう思う」（3.9%）と回答した者（「そう思う」（0.6%）と「どちらかといえばそう思う」（3.3%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（60.7%）と回答した者（「そう思わない」（51.2%）と「どちらかといえばそう思わない」（9.5%）の合計（以下同じ））の割合を下回っている。ただし、「どちらともいえない」と回答した者の割合が 31.9%となっている。

（オ）知的な能力

「知的な能力は、性別による差よりも個人差が大きい」という考え方について、「そう思う」（82.1%）と回答した者（「そう思う」（60.1%）と「どちらかといえばそう思う」（22.0%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（4.4%）と回答した者（「そう思わない」（3.1%）と「どちらかといえばそう思わない」（1.3%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。



【性別】問 11　教育に対する意識

（ア）男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく

性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 17.8 ポイント（男性 56.9、女性 39.1％）、男性の方が女性より高くなっている。

（イ）性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす

性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 5.8 ポイント（女性 94.3％、男性 88.5％）、女性の方が男性より高くなっている。

（ウ）出席簿の順番など

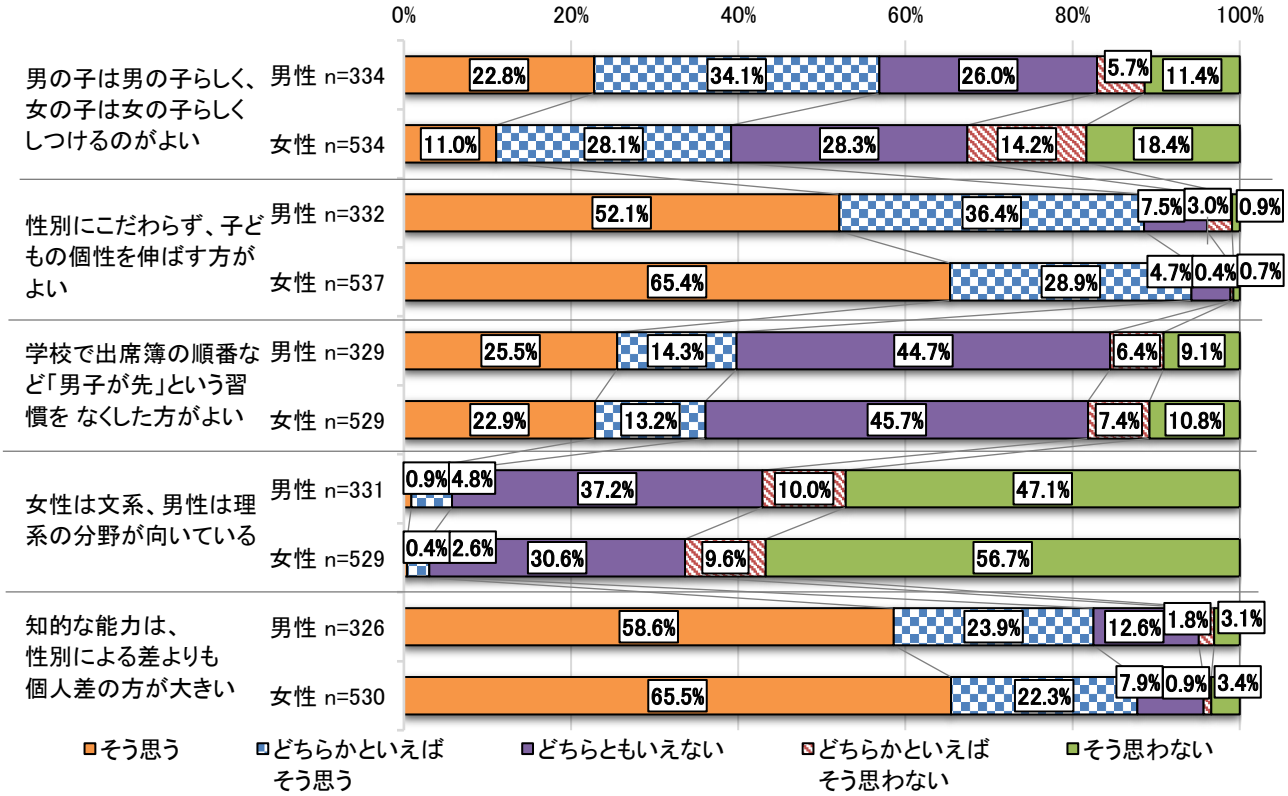
性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 3.7 ポイント（男性 39.8％、女性 36.1％）、男性の方が女性より高くなっている。

（エ）女性は文系、男性は理系

性別にみると、「そう思わない」と回答した者の割合は 9.2 ポイント（女性 66.3％、男性は 57.1％）、女性の方が男性より高くなっている。

（オ）知的な能力

性別にみると、「そう思う」と回答した者の割合は 5.3 ポイント（女性 87.8％、男性 82.5％）、女性の方が男性より高くなっている。



【過去との比較】問１１　教育に対する意識

（ア）男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく

過去の調査と比較すると、「そう思う」が減少傾向となっている。

（イ）性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす

過去の調査と比較すると、あまり変化は見られない。

（ウ）出席簿の順番など

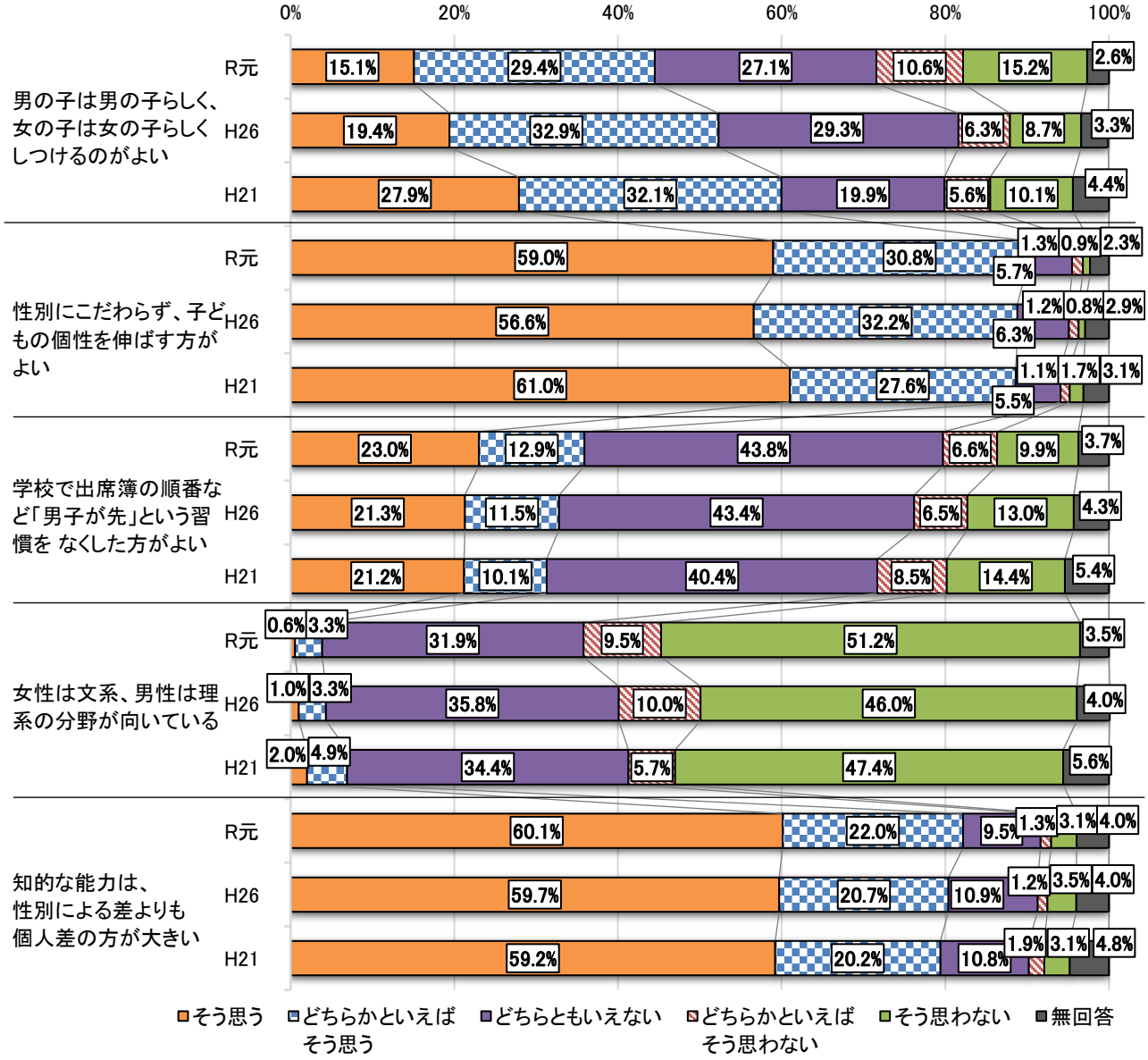
過去の調査と比較すると、「そう思わない」が減少傾向となっている。

（エ）女性は文系、男性は理系

過去の調査と比較すると、「そう思わない」が増加傾向となっている。

（オ）知的な能力

過去の調査と比較すると、あまり変化は見られない。



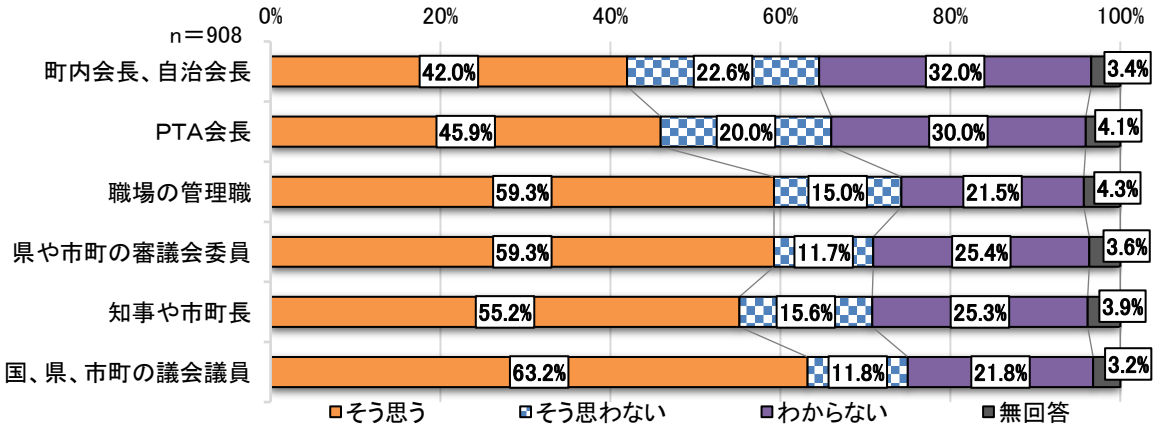
問 12　女性がもっとついた方がよい役職や公職

あなたは、次にあげるような役職や公職に女性が「もっとついた方がよい」と思いますか。アからカの項目ごとに、次の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	そう思う	そう思わない	わからない	無回答
ア　町内会長、自治会長	42.0%	22.6%	32.0%	3.4%
イ　PTA会長	45.9%	20.0%	30.0%	4.1%
ウ　職場の管理職	59.3%	15.0%	21.5%	4.3%
エ　県や市町の審議会委員	59.3%	11.7%	25.4%	3.6%
オ　知事や市町長	55.2%	15.6%	25.3%	3.9%
カ　国、県、市町の議会議員	63.2%	11.8%	21.8%	3.2%

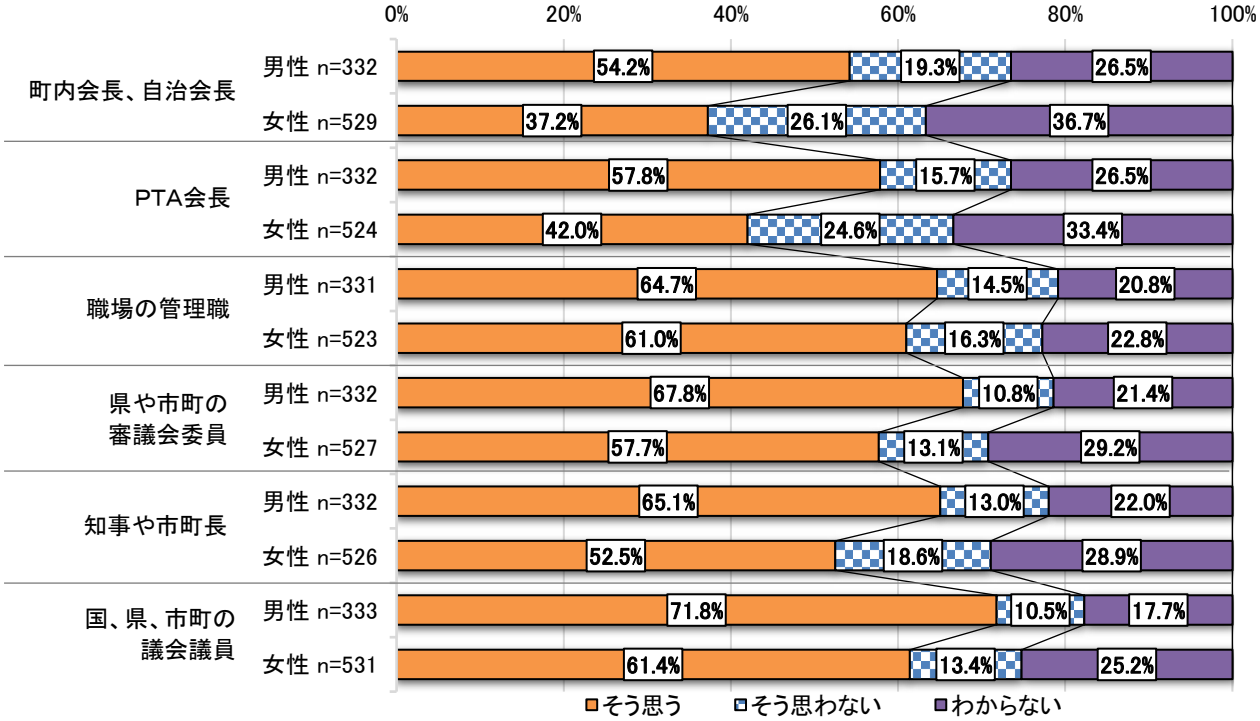
【全体】問 12　女性がもっとついた方がよい役職や公職

女性が役職や公職にもっとついたほうがよいかという問いについては、全ての役職や公職において、「そう思う」と回答した者の割合が、「そう思わない」と回答した者の割合を上回っている。特に、「国、県、市町の議会議員」（63.２%）、「職場の管理職」（59.3%）、「県や市町の審議会委員」（59.3%）、「知事や市町長」（55.2%）では、「そう思う」と回答した者の割合が高くなっている。



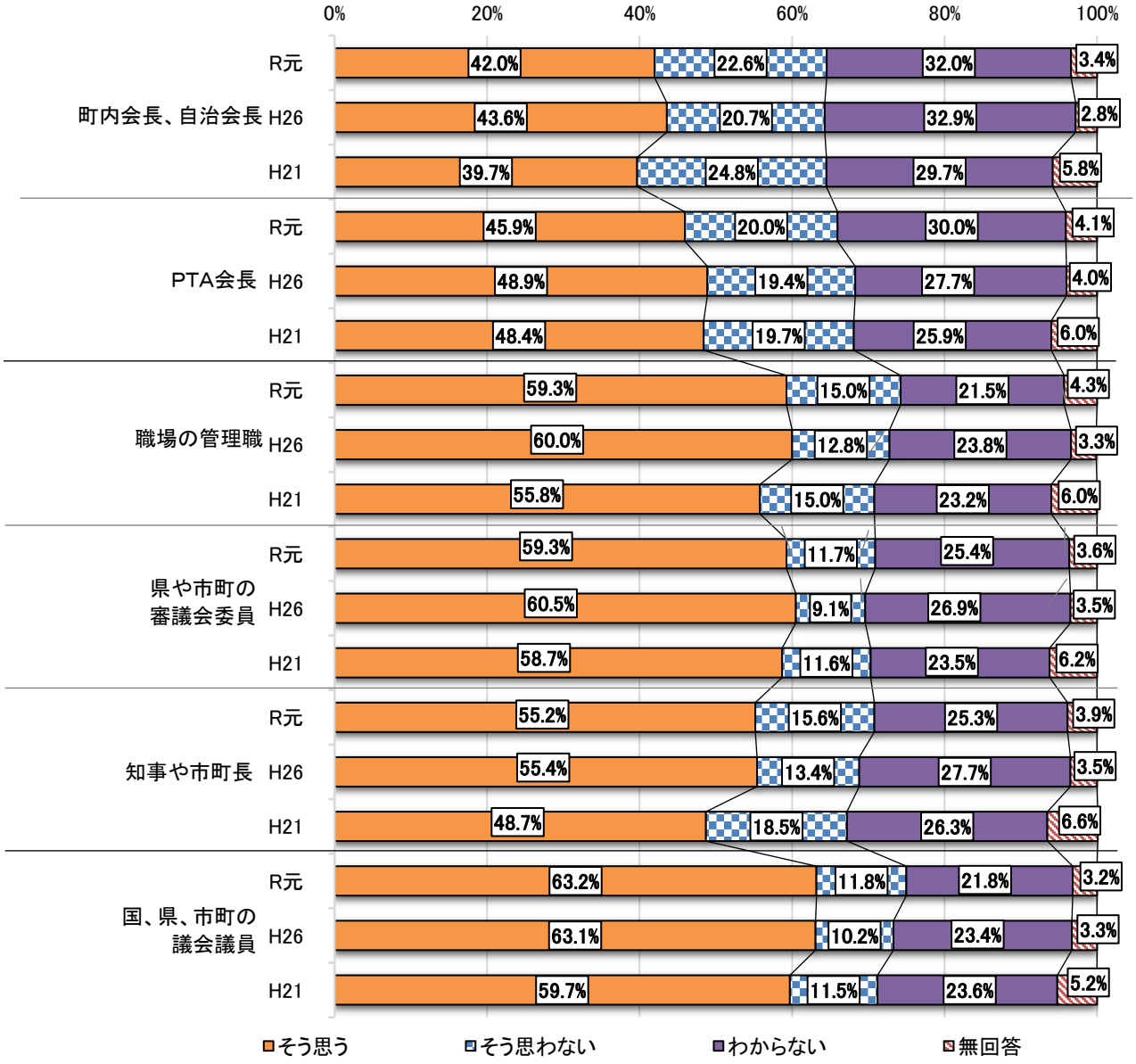
【性別】問 12　女性がもっとついた方がよい役職や公職

性別にみると、すべての役職や公職において、「そう思う」と回答した者の割合は、男性の方が女性より高くなっている。特に「町内会長、自治会長」17.0 ポイント（男性 54.2%、女性 37.2%）、「PTA 会長」15.8 ポイント（男性 57.8%、女性 42.0%）の差が出ている。



【過去との比較】問 12　女性がもっとついた方がよい役職や公職

過去の調査と比較すると、「そう思う」で「国、県、市町の議会議員」は増加傾向になっている。



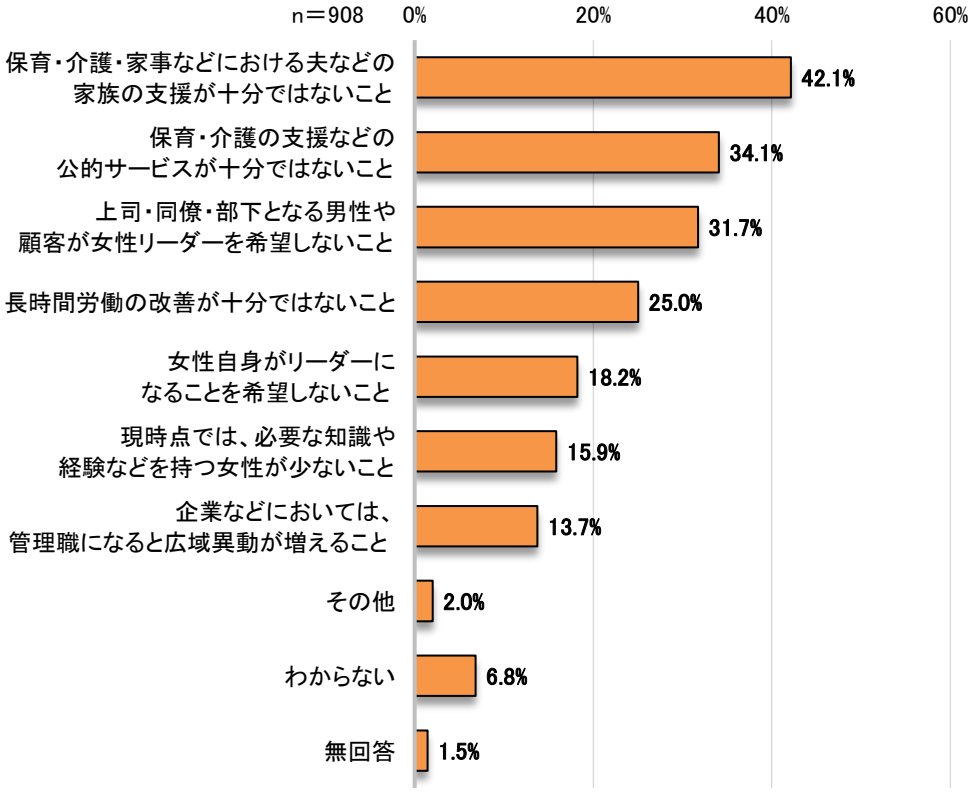
問 13　女性リーダーを増やすときの障がい

政治・経済・地域・家庭などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障がいになるものは何だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを二つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	31.7%
2	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	15.9%
3	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	18.2%
4	長時間労働の改善が十分ではないこと	25.0%
5	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	13.7%
6	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	42.1%
7	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	34.1%
8	その他	2.0%
9	わからない	6.8%
	無回答	1.5%

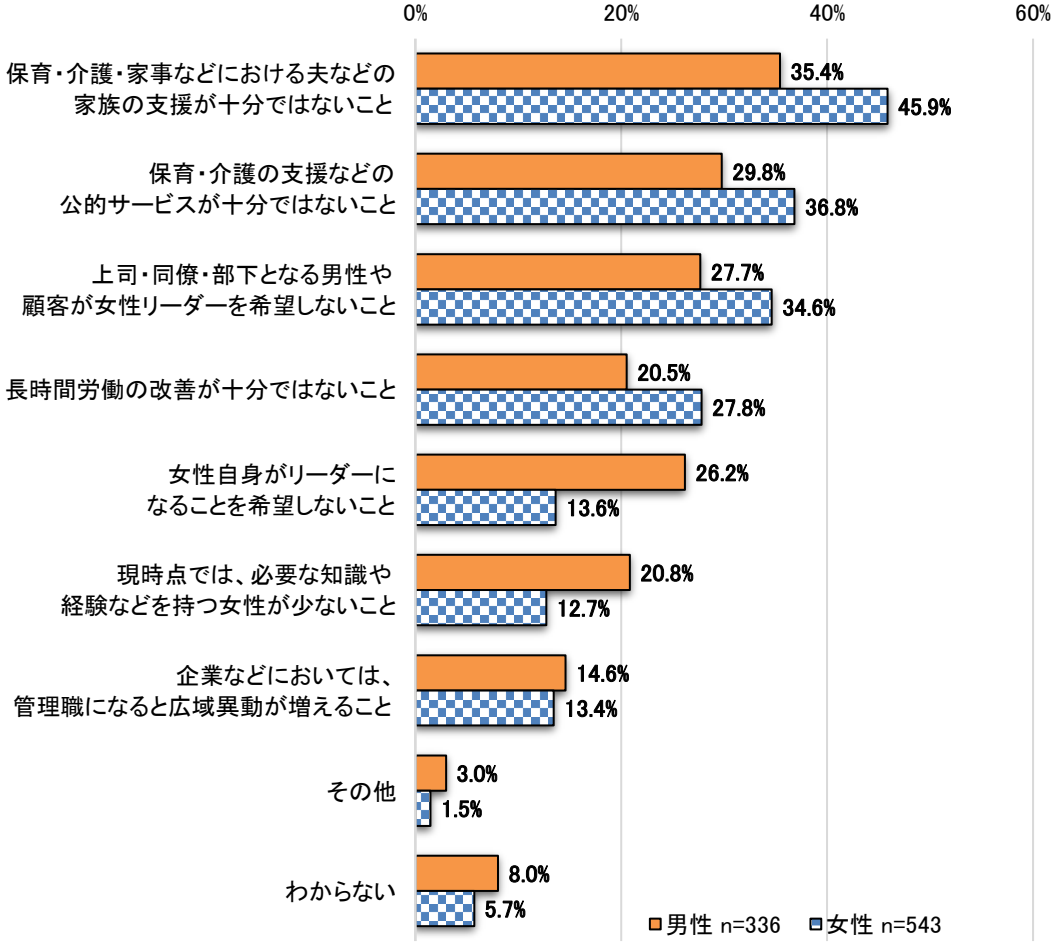
【全体】問 13　女性リーダーを増やすときの障がい

政治・経済・地域・家庭などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障がいになるものについて、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（42.1％）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」（34.1％）、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」（31.7％）、「長時間労働の改善が十分ではないこと」（25.0％）の順になっている。



【性別】問 13　女性リーダーを増やすときの障がい

性別にみると、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」において、女性の方が男性より割合が高くなっている。一方で、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」、「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」において、男性の方が女性より割合が高くなっている。



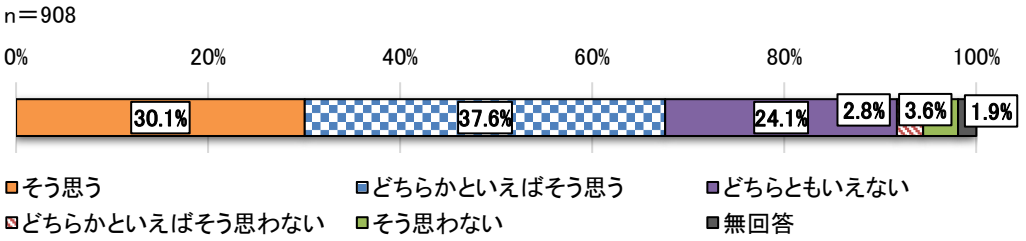
問 14　ポジティブ・アクションに対する考え方

「意思決定の場等における男女間の格差を改善するため、有能な女性を積極的に役職等に登用するなど、特別な措置を講じる必要がある。」という考え方（ポジティブ・アクション）がありますが、あなたはこのことについてどうお考えでしょうか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを一つ選んで番号を〇で囲んでください。

1	そう思う	30.1%
2	どちらかといえばそう思う	37.6%
3	どちらともいえない	24.1%
4	どちらかといえばそう思わない	2.8%
5	そう思わない	3.6%
	無回答	1.9%

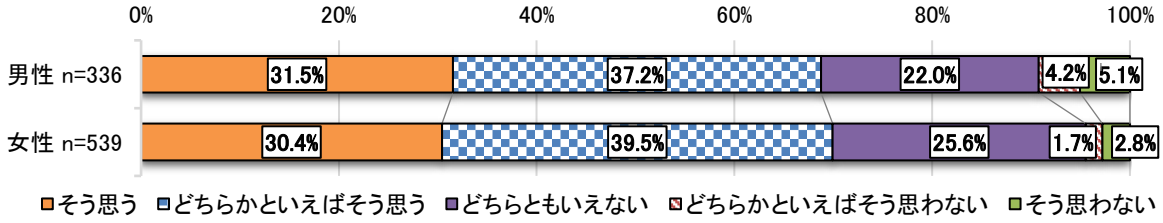
【全体】問 14　ポジティブ・アクションに対する考え方

ポジティブ・アクションという考え方について、「そう思う」（67.7%）と回答した者（「そう思う」（30.1%）と「どちらかといえばそう思う」（37.6%）の合計（以下同じ））の割合が、「そう思わない」（6.4%）と回答した者（「そう思わない」（3.6%）と「どちらかといえばそう思わない」（2.8%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。なお、「どちらともいえない」と回答した者の割合は、24.1%となっている。



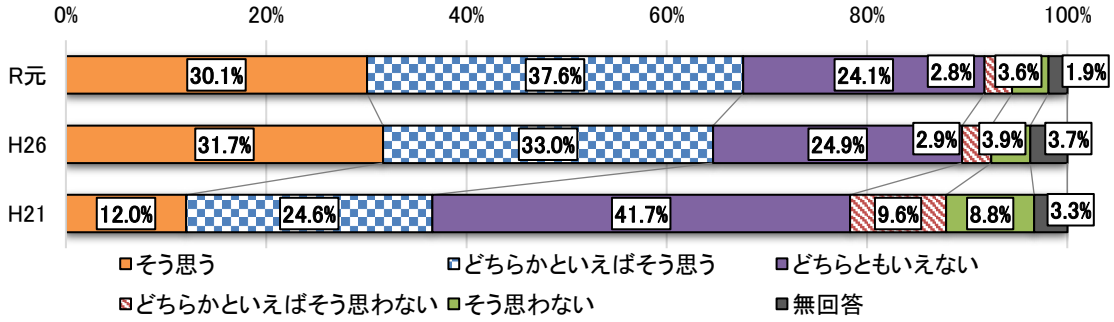
【性別】問 14　ポジティブ・アクションに対する考え方

性別にみると、大きな差はみられない。



【過去との比較】問 14　ポジティブ・アクションに対する考え方

過去の調査と比較すると、「そう思う」が増加傾向になっている。



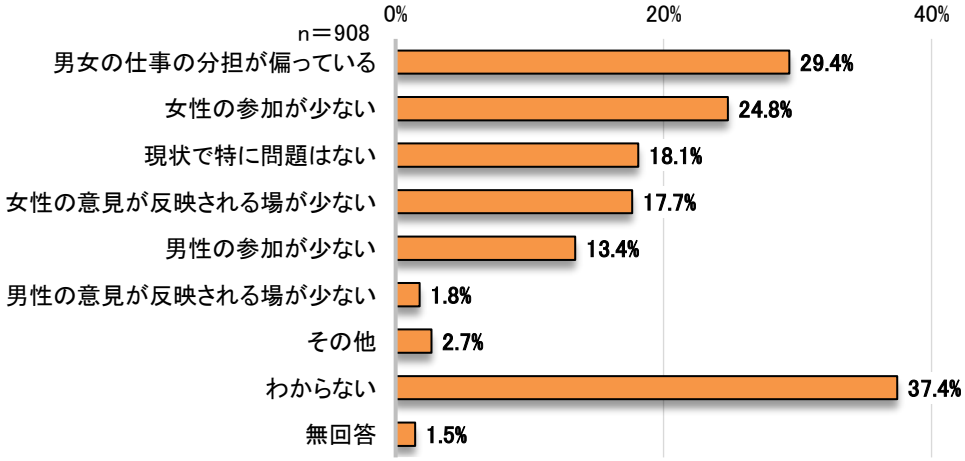
問 15　地域の防災活動における男女の活動

自治会、町内会など地域の防災活動における男女の活動について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを次の中から二つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	男性の参加が少ない	13.4%
2	女性の参加が少ない	24.8%
3	男性の意見が反映される場が少ない	1.8%
4	女性の意見が反映される場が少ない	17.7%
5	男女の仕事の分担が偏っている	29.4%
6	現状で特に問題はない	18.1%
7	その他	2.7%
8	わからない	37.4%
	無回答	1.5%

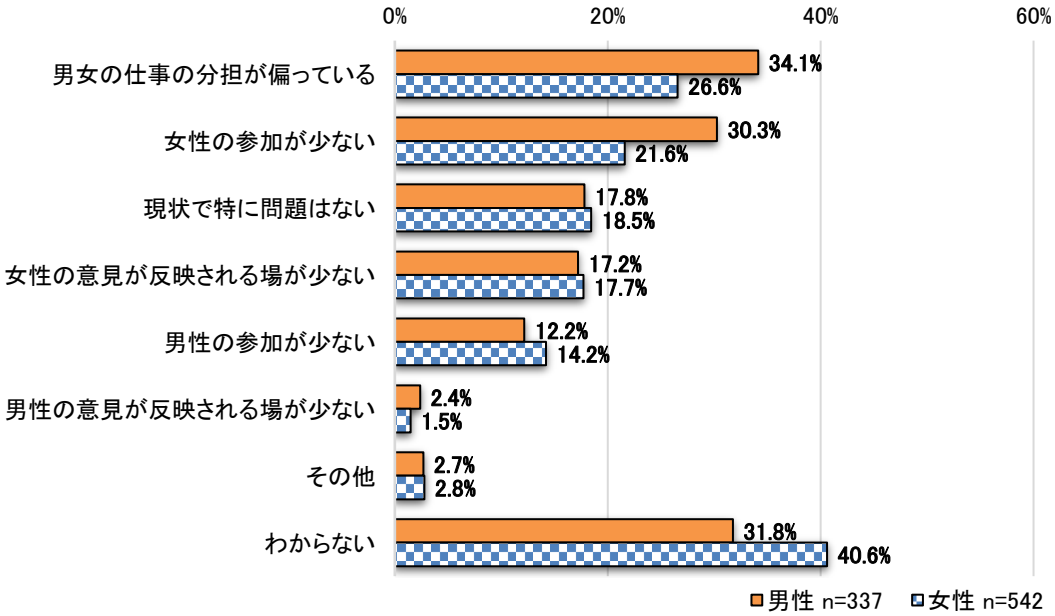
【全体】問 15　地域の防災活動における男女の活動

自治会、町内会など地域の防災活動における男女の活動について、「わからない」（37.4%）と回答した者の割合が最も高くなっており、次いで、「男女の仕事の分担が偏っている」（29.4%）、「女性の参加が少ない」（24.8%）、「現状で特に問題はない」（18.1%）、「女性の意見が反映される場が少ない」（17.7%）の順になっている。



【性別】問 15　地域の防災活動における男女の活動

性別にみると、「男女の仕事の分担が偏っている」は 7.5 ポイント（男性 34.1%、女性 26.6%）、「女性の参加が少ない」は 8.7 ポイント（男性 30.3%、女性 21.6%）、男性の方が女性より高くなっている。



問 16　家庭での役割分担

（現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方へ）

あなたの家庭では、今、どのような役割分担になっていますか。アからクの項目ごとに、次の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	主に女性の役割	男女とも同程度	主に男性の役割	どちらともいえない	無回答
ア　掃除をする	43.4%	17.8%	3.3%	3.0%	32.5%
イ　洗濯をする	51.9%	11.7%	2.1%	1.8%	32.6%
ウ　食事の支度をする	57.9%	7.4%	1.2%	1.4%	32.0%
エ　食事の後片付けをする	43.5%	16.3%	5.3%	2.4%	32.5%
オ　日常の家計の管理をする	47.6%	11.9%	5.5%	2.6%	32.4%
カ　育児をする	40.6%	15.3%	0.3%	7.9%	35.8%
キ　地域活動(町内会、PTA、ボランティア等)をする	23.2%	16.6%	17.0%	10.2%	32.9%
ク　介護をする	25.2%	16.0%	1.9%	22.2%	34.7%

（「無回答」には、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む）

【全体】問 16　家庭での役割分担

（ア）掃除

「掃除をする」は、「主に女性の役割」（43.4%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（17.8%）、「主に男性の役割」（3.3%）と回答した者の割合を上回っている。

（イ）洗濯

「洗濯をする」は、「主に女性の役割」（51.9%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（11.7%）、「主に男性の役割」（2.1%）と回答した者の割合を上回っている。

（ウ）食事の支度

「食事の支度をする」は、「主に女性の役割」（57.9%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（7.4%）、「主に男性の役割」（1.2%）と回答した者の割合を上回っている。

（エ）食事の後片付け

「食事の後片付けをする」は、「主に女性の役割」（43.5%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（16.3%）、「主に男性の役割」（5.3%）と回答した者の割合を上回っている。

（オ）日常の家計の管理

「日常の家計の管理をする」は、「主に女性の役割」（47.6%）と回答した者の割合が、「男女とも同程度」（11.9%）、「主に男性の役割」（5.5%）と回答した者の割合を上回っている。

（カ）育児

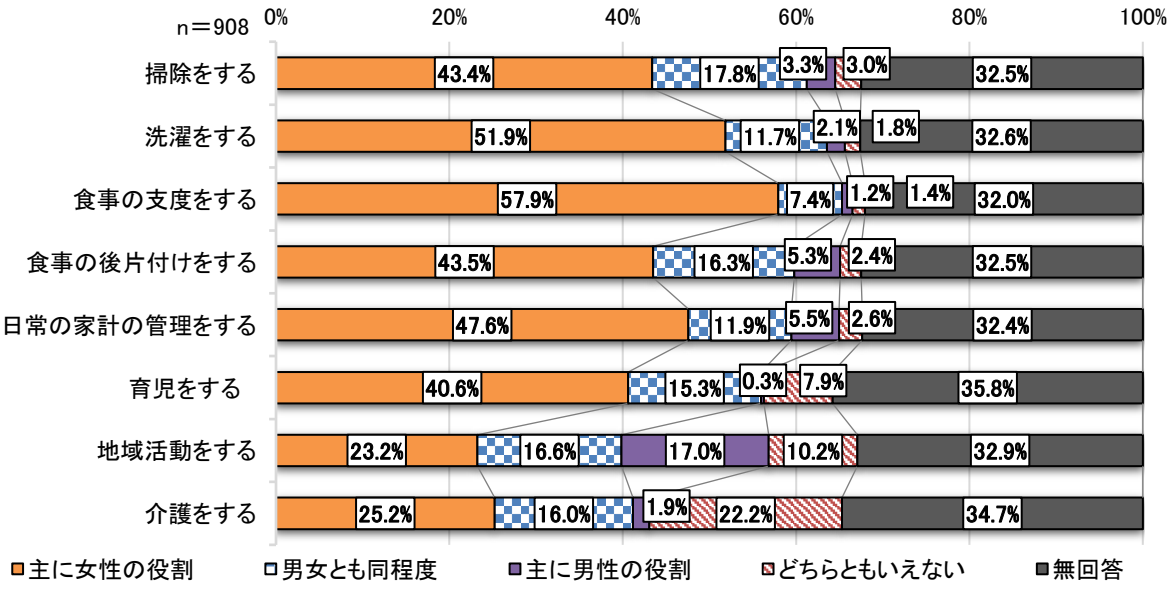
「育児をする」は、「主に女性の割合」（40.6%）と回答した者の役割が、「男女とも同程度」（15.3%）、「主に男性の役割」（0.3%）と回答した者の役割を上回っている。また、「主に男性の役割」と回答した者の割合が 1%に満たず、他の項目と比較して低くなっている。

（キ）地域活動

「地域活動をする」は、「主に女性の役割」（23.2%）と回答した者の割合が最も高くなっているが、（ア）～（ク）の他の項目と比較すると、「主に女性の役割」と回答した者の割合が最も低く、「主に男性の役割」と回答した者の割合が最も高くなっている。

（ク）介護

「介護をする」は、「主に女性の役割」（25.2%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」（22.2%）、「男女とも同程度」（16.0%）、「主に男性の役割」（1.9%）の順になっている。



【性別】問 16　家庭での役割分担

（ア）掃除

性別にみると、「主に女性の役割」と回答した者の割合は 23.2 ポイント（女性 73.2%、男性は 50.0%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」と回答した者の割合は 11.4 ポイント（男性は 33.6%、女性 22.2%）、男性の方が女性より高くなっている。

（イ）洗濯

性別にみると、「主に女性の役割」と回答した者の割合は 14.1 ポイント（女性 82.5%、男性は 68.4%、）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」と回答した者の割合は 6.3 ポイント（男性は 21.1%、女性 14.8%）、男性の方が女性より高くなっている。

（ウ）食事の支度

性別にみると、「主に女性の役割」と回答した者の割合は 8.7 ポイント（女性 88.4%、男性は 79.7%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」と回答した者の割合は 4.7 ポイント（男性は 13.9%、女性 9.2%）、男性の方が女性より高くなっている。

（エ）食事の後片付け

性別にみると、「主に女性の役割」と回答した者の割合は 23.8 ポイント（女性 74.0%、男性は 50.2%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに同程度」と回答した者の割合は 11.8 ポイント（男性は 31.2%、女性 19.4%）、男性の方が女性より高くなっている。

（オ）日常の家計の管理

性別にみると、「主に女性の役割」と回答した者の割合は 12.6 ポイント（女性 75.5%、男性 62.9%）、女性の方が男性より高くなっている。

（カ）育児

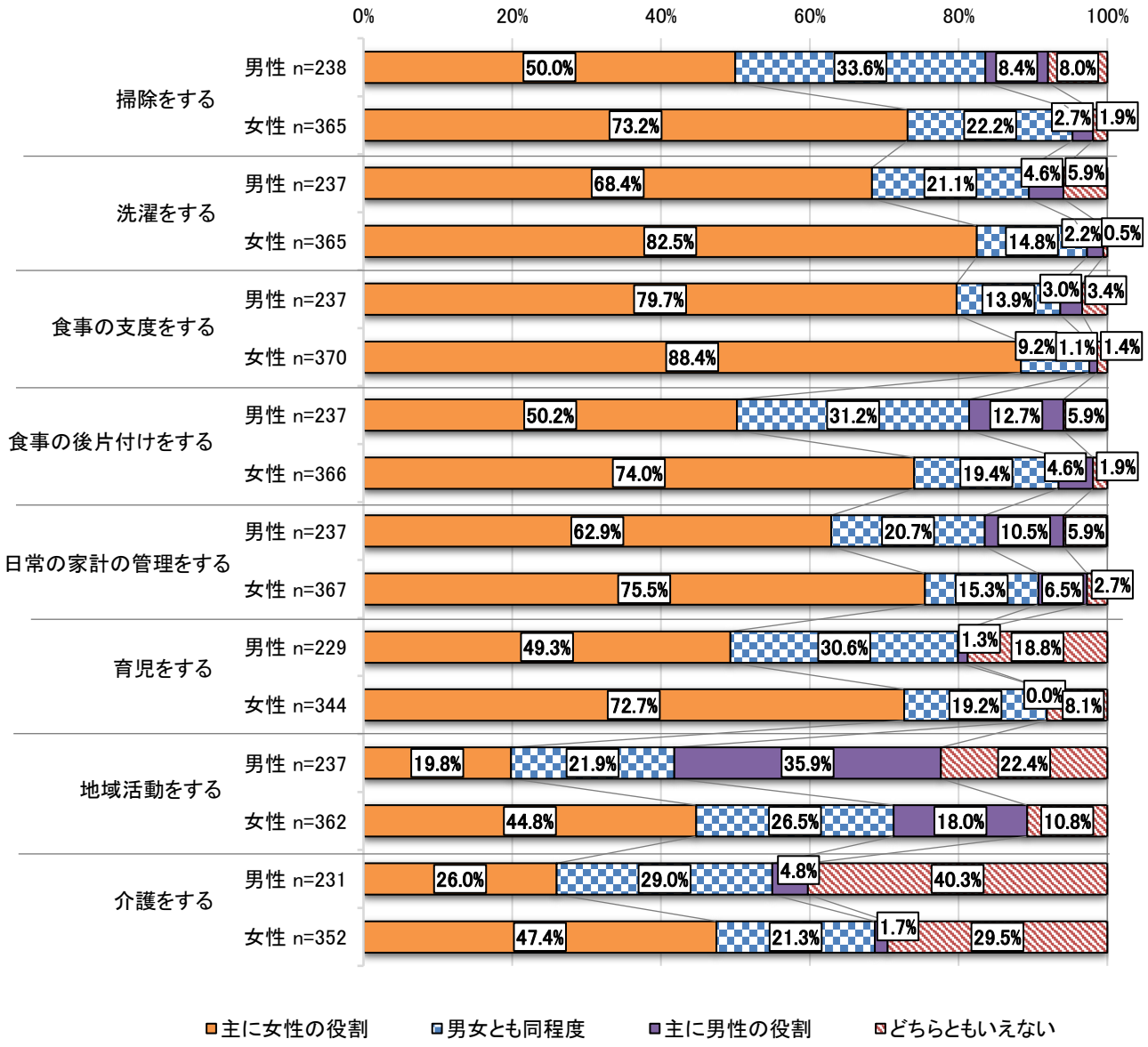
性別にみると、「主に女性の役割」と回答した者の割合は 23.4 ポイント（女性 72.7%、男性 49.3%）、女性の方が男性より高くなっている。

（キ）地域活動

性別にみると、女性では「主に女性の役割」（44.8%）と回答した者の割合が最も高くなっているのに対して、男性では「主に男性の役割」（35.9%）と回答した者の割合が最も高くなっている。

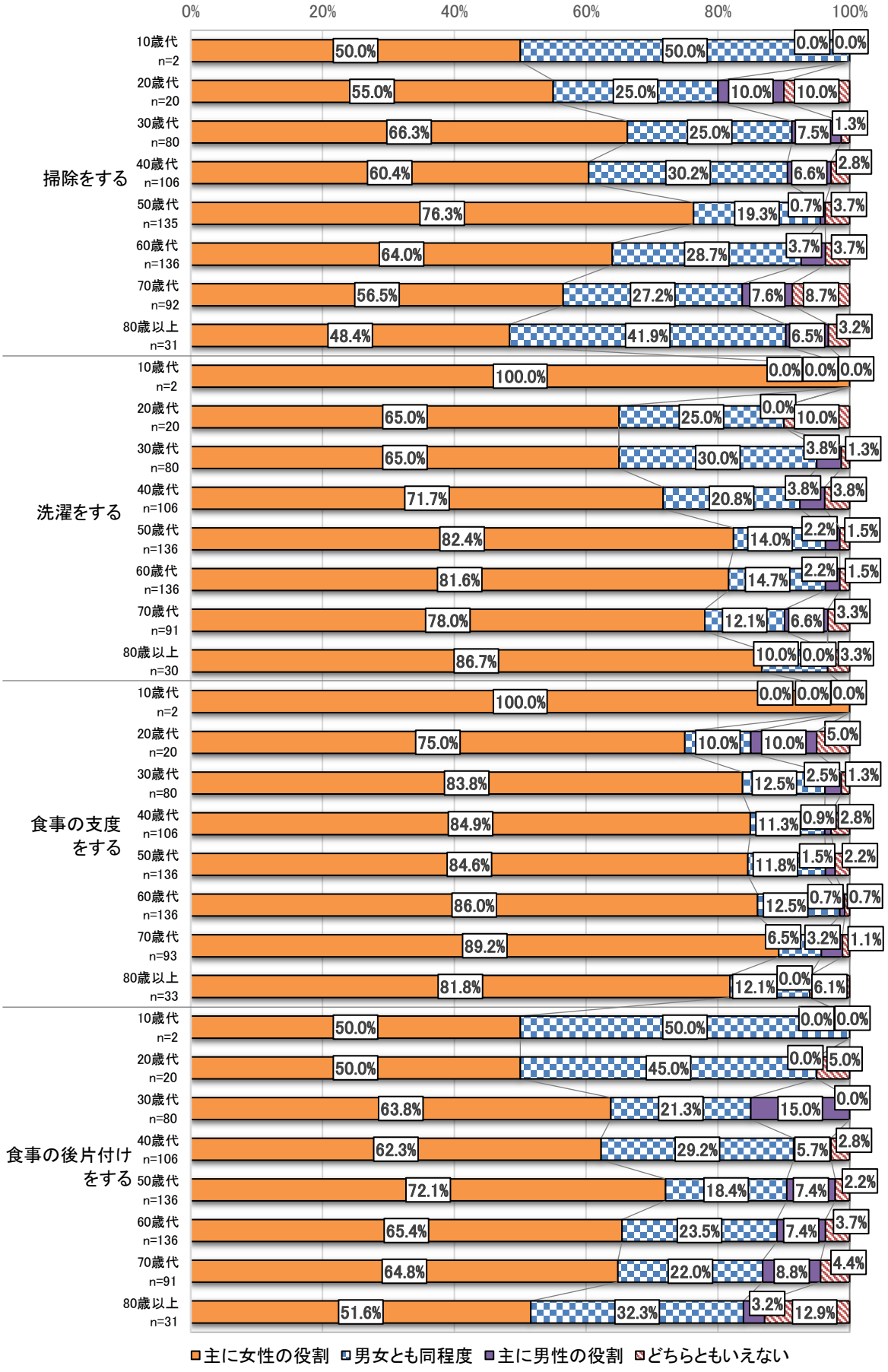
（ク）介護

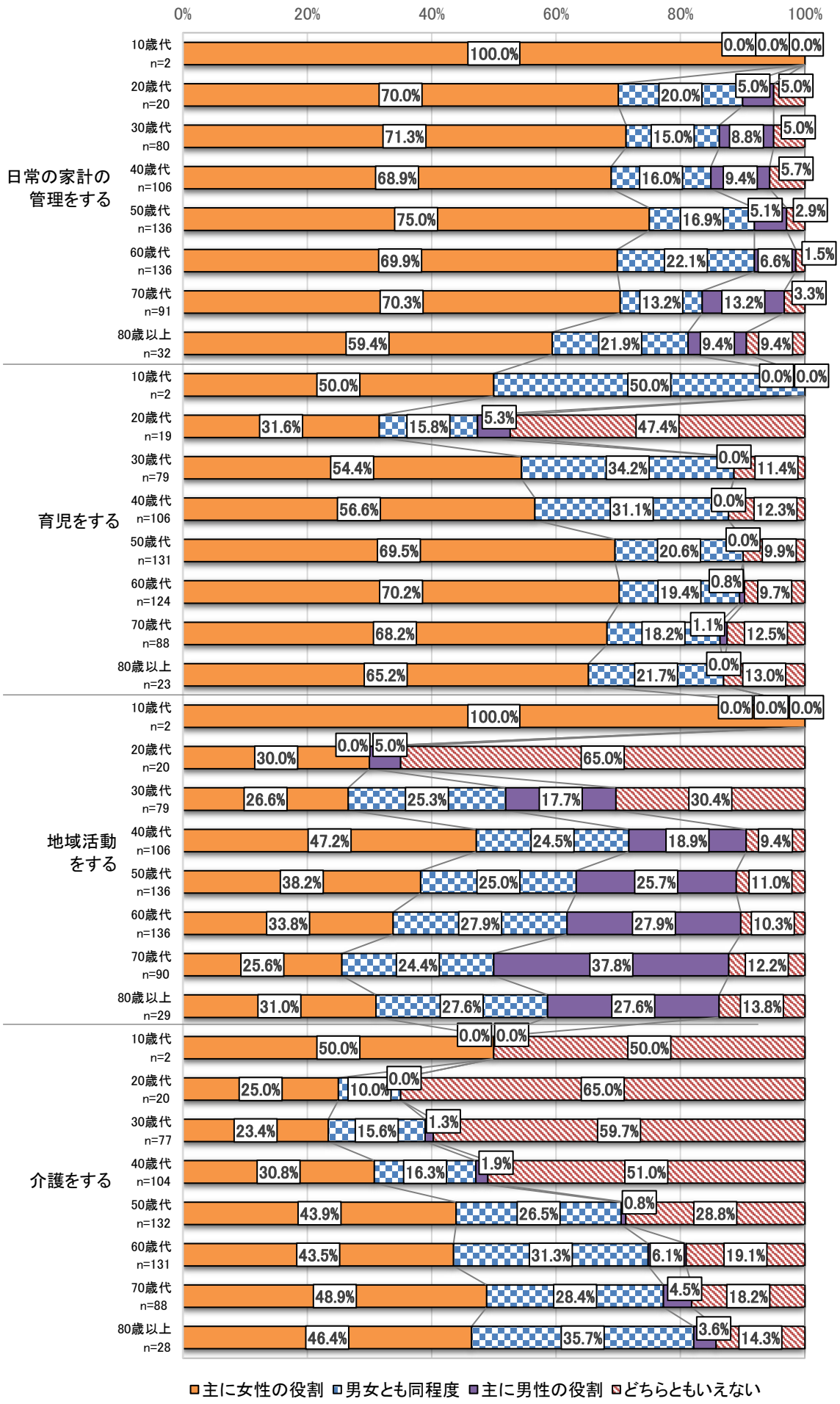
性別にみると、「主に女性の役割」と回答した者の割合は 21.4 ポイント（女性 47.4%、男性 26.0%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女とも同程度」と回答した者では 7.7 ポイント（男性 29.0%、女性 21.3%）、男性の方が女性より高くなっている。


0%
20%
40%
60%
80%
100%
掃除をする
男性 n=238
50.0%
33.6%
8.4%
8.0%
女性 n=365
73.2%
22.2%
2.7%
1.9%
洗濯をする
男性 n=237
68.4%
21.1%
4.6%
5.9%
女性 n=365
82.5%
14.8%
2.2%
0.5%
食事の支度をする
男性 n=237
79.7%
13.9%
3.0%
3.4%
女性 n=370
88.4%
9.2%
1.1%
1.4%
食事の後片付けをする
男性 n=237
50.2%
31.2%
12.7%
5.9%
女性 n=366
74.0%
19.4%
4.6%
1.9%
日常の家計の管理をする
男性 n=237
62.9%
20.7%
10.5%
5.9%
女性 n=367
75.5%
15.3%
6.5%
2.7%
育児をする
男性 n=229
49.3%
30.6%
1.3%
18.8%
女性 n=344
72.7%
19.2%
0.0%
8.1%
地域活動をする
男性 n=237
19.8%
21.9%
35.9%
22.4%
女性 n=362
44.8%
26.5%
18.0%
10.8%
介護をする
男性 n=231
26.0%
29.0%
4.8%
40.3%
女性 n=352
47.4%
21.3%
1.7%
29.5%
主に女性の役割
男女とも同程度
主に男性の役割
どちらともいえない

【年齢別】問 16　家庭での役割分担

※「10 歳代」と「20 歳代」は、回答者数が少ない中での回答となっています。

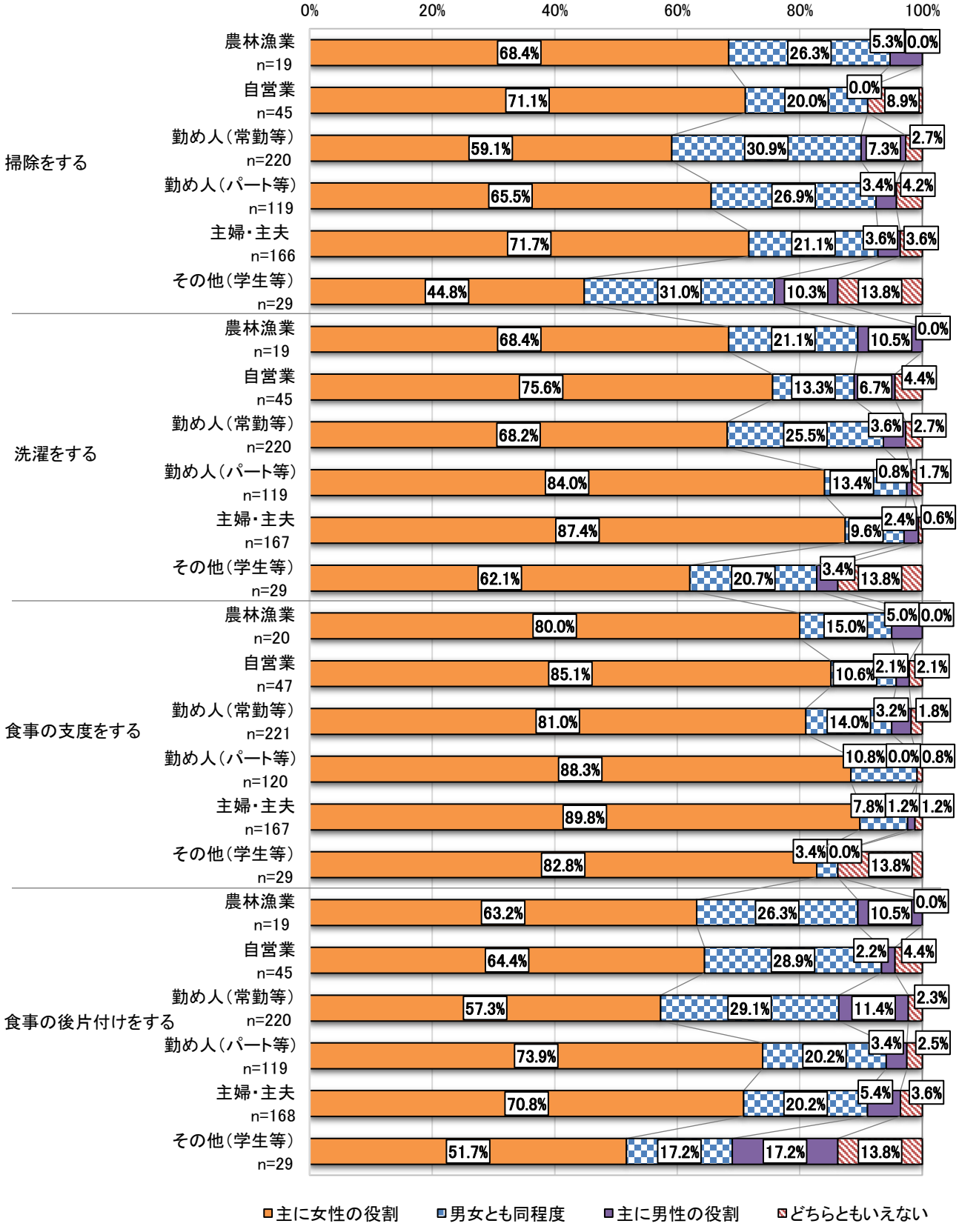


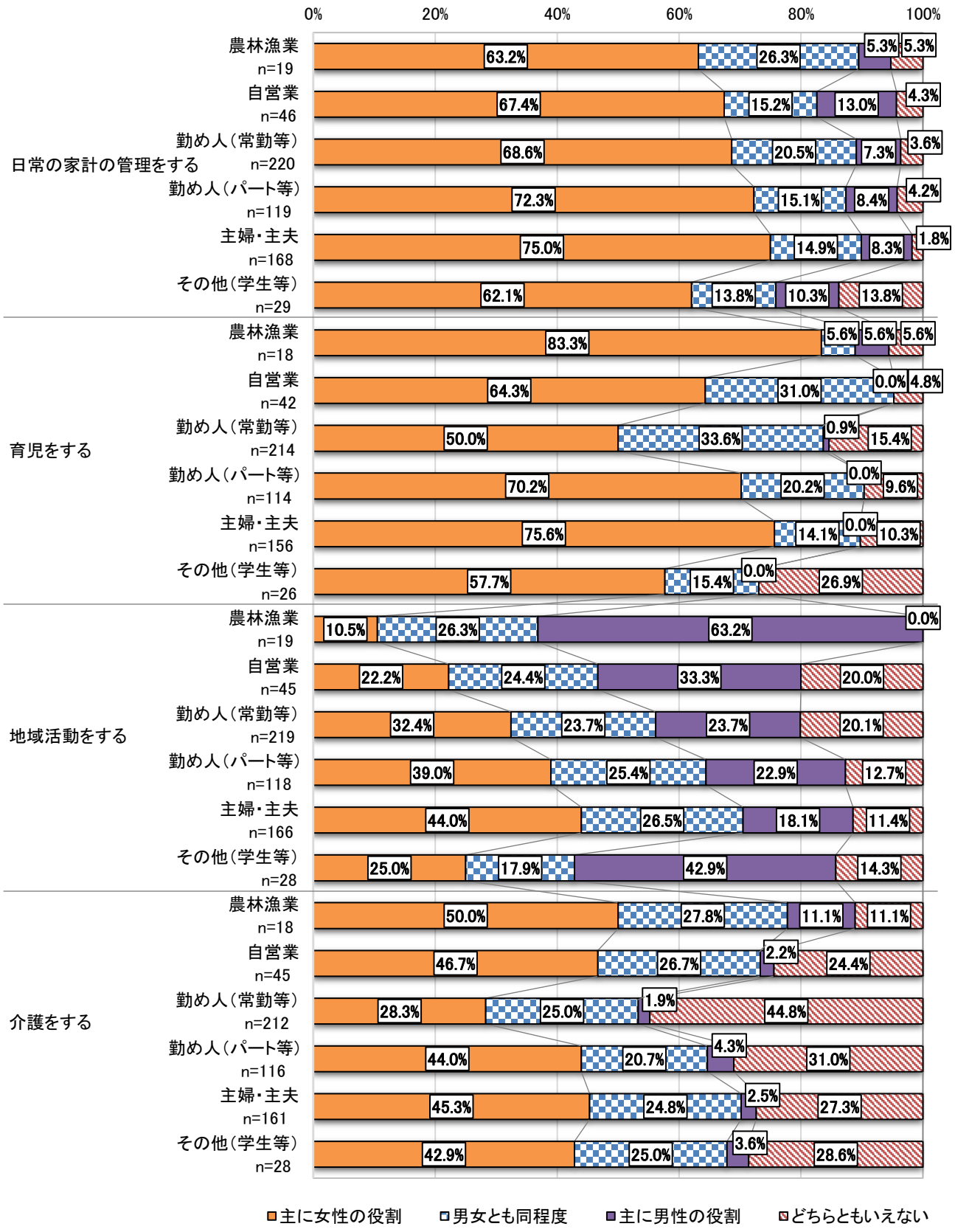

0%
20%
40%
60%
80%
100%
日常の家計の管理をする
10歳代 n=2
100.0% 0.0% 0.0% 0.0%
20歳代 n=20
70.0% 20.0% 5.0% 5.0%
30歳代 n=80
71.3% 15.0% 8.8% 5.0%
40歳代 n=106
68.9% 16.0% 9.4% 5.7%
50歳代 n=136
75.0% 16.9% 5.1% 2.9%
60歳代 n=136
69.9% 22.1% 6.6% 1.5%
70歳代 n=91
70.3% 13.2% 13.2% 3.3%
80歳以上 n=32
59.4% 21.9% 9.4% 9.4%
育児をする
10歳代 n=2
50.0% 50.0% 0.0% 0.0%
20歳代 n=19
31.6% 15.8% 5.3% 47.4%
30歳代 n=79
54.4% 34.2% 0.0% 11.4%
40歳代 n=106
56.6% 31.1% 0.0% 12.3%
50歳代 n=131
69.5% 20.6% 0.0% 9.9%
60歳代 n=124
70.2% 19.4% 0.8% 9.7%
70歳代 n=88
68.2% 18.2% 1.1% 12.5%
80歳以上 n=23
65.2% 21.7% 0.0% 13.0%
地域活動をする
10歳代 n=2
100.0% 0.0% 0.0% 0.0%
20歳代 n=20
30.0% 0.0% 5.0% 65.0%
30歳代 n=79
26.6% 25.3% 17.7% 30.4%
40歳代 n=106
47.2% 24.5% 18.9% 9.4%
50歳代 n=136
38.2% 25.0% 25.7% 11.0%
60歳代 n=136
33.8% 27.9% 27.9% 10.3%
70歳代 n=90
25.6% 24.4% 37.8% 12.2%
80歳以上 n=29
31.0% 27.6% 27.6% 13.8%
介護をする
10歳代 n=2
50.0% 0.0% 0.0% 50.0%
20歳代 n=20
25.0% 10.0% 0.0% 65.0%
30歳代 n=77
23.4% 15.6% 1.3% 59.7%
40歳代 n=104
30.8% 16.3% 1.9% 51.0%
50歳代 n=132
43.9% 26.5% 0.8% 28.8%
60歳代 n=131
43.5% 31.3% 6.1% 19.1%
70歳代 n=88
48.9% 28.4% 4.5% 18.2%
80歳以上 n=28
46.4% 35.7% 3.6% 14.3%
主に女性の役割
男女とも同程度
主に男性の役割
どちらともいえない

【職業別】問 16　家庭での役割分担

職業別にみると、「育児をする」について、「主に女性の役割」と回答した者の割合が最も高い農林漁業（83.3%）と最も低い勤め人（常勤等）（50.0%）の差が 33.3 ポイントとなっている。

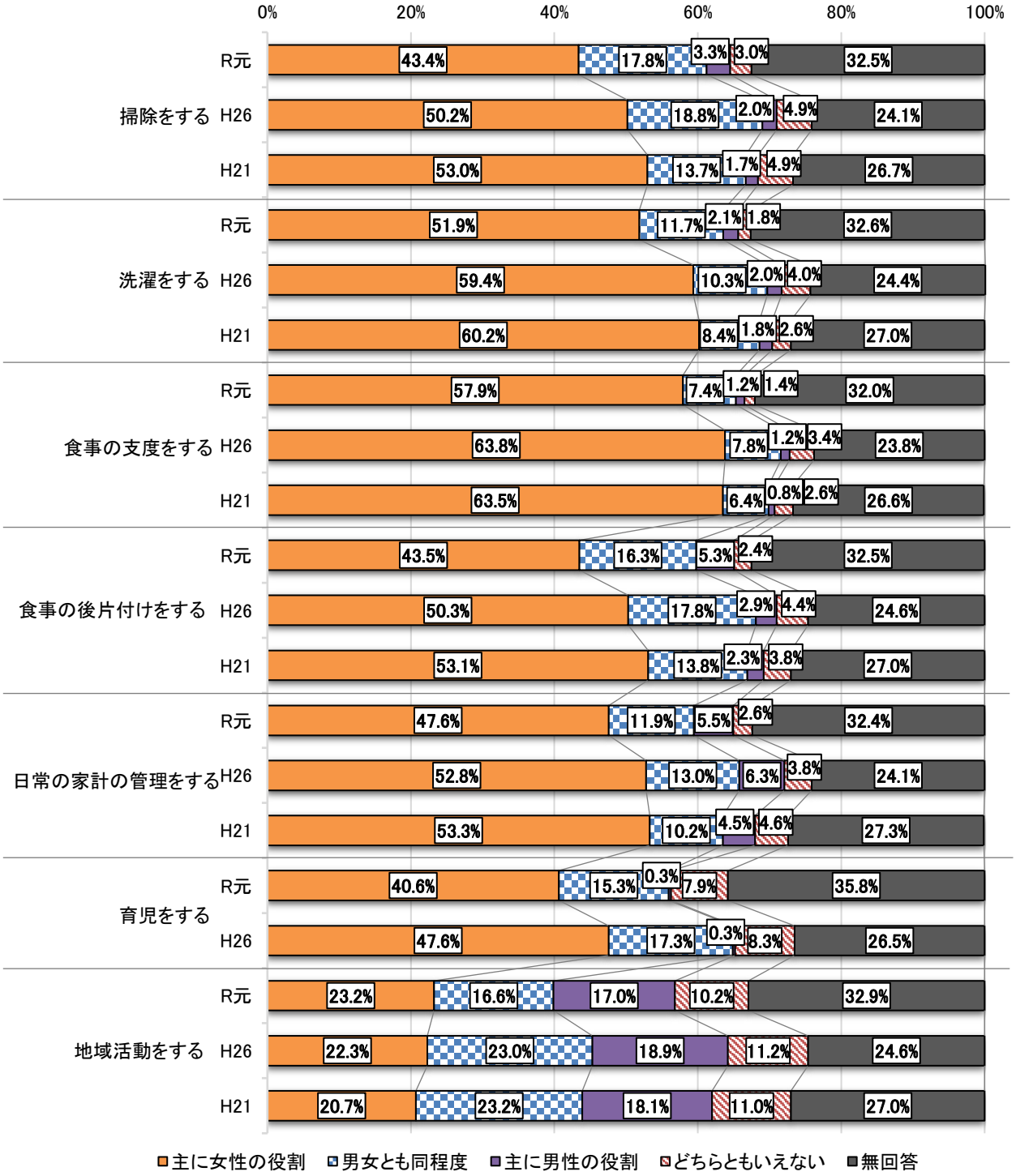
「地域活動をする」について、「主に男性の役割」と回答した者の割合が最も高い農林漁業（63.2%）と最も低い主婦・主夫（18.1%）の差が 45.1 ポイントとなっている。




0%
20%
40%
60%
80%
100%
日常の家計の管理をする
農林漁業 n=19
63.2% 26.3% 5.3% 5.3%
自営業 n=46
67.4% 15.2% 13.0% 4.3%
勤め人（常勤等） n=220
68.6% 20.5% 7.3% 3.6%
勤め人（パート等） n=119
72.3% 15.1% 8.4% 4.2%
主婦・主夫 n=168
75.0% 14.9% 8.3% 1.8%
その他（学生等） n=29
62.1% 13.8% 10.3% 13.8%
育児をする
農林漁業 n=18
83.3% 5.6% 5.6% 5.6%
自営業 n=42
64.3% 31.0% 0.0% 4.8%
勤め人（常勤等） n=214
50.0% 33.6% 0.9% 15.4%
勤め人（パート等） n=114
70.2% 20.2% 0.0% 9.6%
主婦・主夫 n=156
75.6% 14.1% 0.0% 10.3%
その他（学生等） n=26
57.7% 15.4% 0.0% 26.9%
地域活動をする
農林漁業 n=19
10.5% 26.3% 63.2% 0.0%
自営業 n=45
22.2% 24.4% 33.3% 20.0%
勤め人（常勤等） n=219
32.4% 23.7% 23.7% 20.1%
勤め人（パート等） n=118
39.0% 25.4% 22.9% 12.7%
主婦・主夫 n=166
44.0% 26.5% 18.1% 11.4%
その他（学生等） n=28
25.0% 17.9% 42.9% 14.3%
介護をする
農林漁業 n=18
50.0% 27.8% 11.1% 11.1%
自営業 n=45
46.7% 26.7% 2.2% 24.4%
勤め人（常勤等） n=212
28.3% 25.0% 1.9% 44.8%
勤め人（パート等） n=116
44.0% 20.7% 4.3% 31.0%
主婦・主夫 n=161
45.3% 24.8% 2.5% 27.3%
その他（学生等） n=28
42.9% 25.0% 3.6% 28.6%
主に女性の役割
男女とも同程度
主に男性の役割
どちらともいえない

【過去との比較】問 16　家庭での役割分担

過去の調査と比較すると、「掃除をする」、「洗濯をする」、「食事の後片付けをする」、「日常の家計の管理をする」、「育児をする」において、「主に女性の役割」と回答した者の割合が減少傾向になっている。「地域活動をする」においては、「主に女性の役割」と回答した者の割合が増加傾向になっている。



（注）R 元年度から、「介護をする」を追加。

問 17　家事・育児・介護の分担等

家事・育児・介護の家庭内での分担や保育や介護サービスなどの積極的な社会支援について、あなたはどうお考えでしょうか。(1)、(2)について、それぞれ一つずつ選んで番号を○で囲んでください。

（1）家庭内の家事・育児・介護の分担について

1	主として女性が受け持つ方がよい	10.6%
2	男女が共同して分担する方がよい	76.2%
3	主として男性が受け持つ方がよい	0.3%
4	その他	3.7%
5	わからない	4.2%
	無回答	5.0%

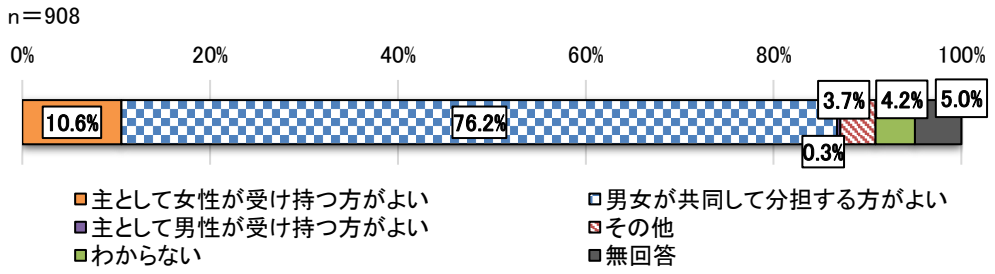
（2）育児・介護に対する社会支援について

1	基本的に家族が行うべきである	20.6%
2	女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である	66.6%
3	その他	1.9%
4	わからない	6.1%
	無回答	4.8%

（1）家庭内の家事・育児・介護の分担

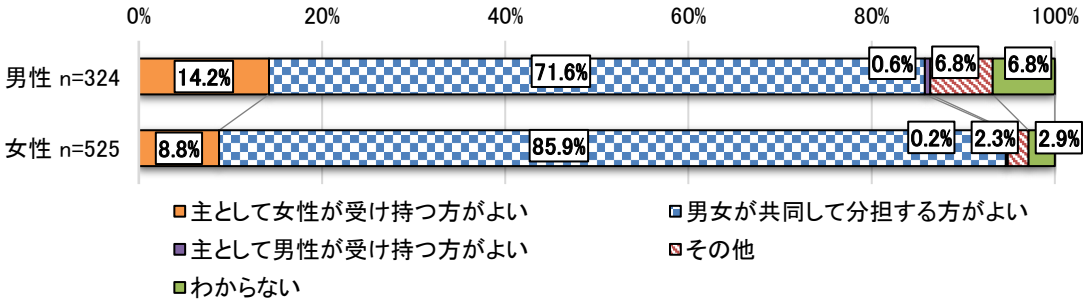
【全体】問 17　家事・育児・介護の分担等（1）家庭内の家事・育児・介護の分担について

家事・育児・介護の家庭内での分担について、「男女が共同して分担する方がよい」（76.2%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「主として女性が受け持つほうがよい」（10.6%）となっている。



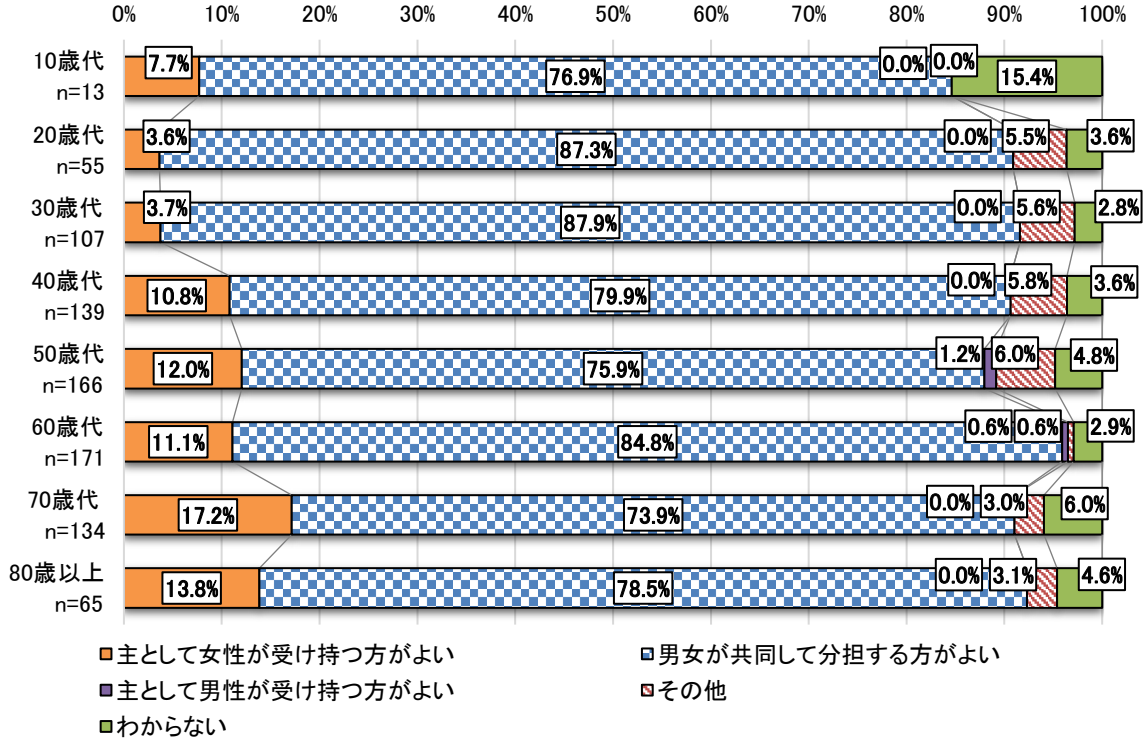
【性別】問 17　家事・育児・介護の分担等（1）家庭内の家事・育児・介護の分担について

性別にみると、「主として女性が受け持つほうがよい」と回答した者の割合は 5.4 ポイント（男性 14.2%、女性 8.8%）、男性の方が女性より高くなっている。「男女が共同して分担する方がよい」と回答した者の割合は 14.3 ポイント（女性 85.9%、男性 71.6%）、女性の方が男性より高くなっている。



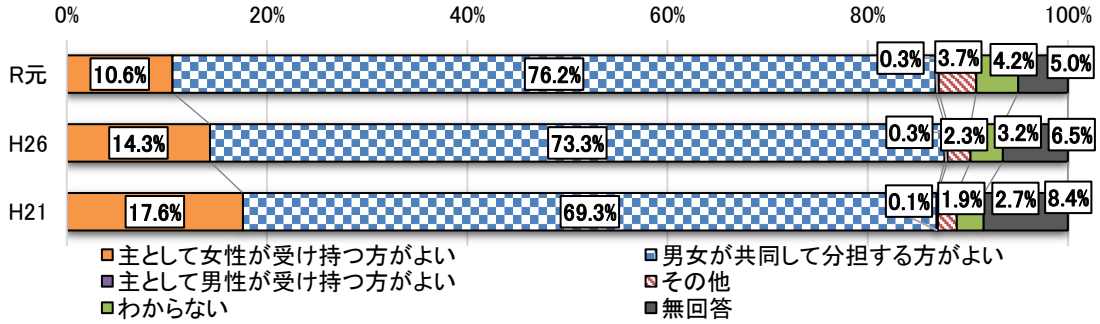
【年齢別】問 17　家事・育児・介護の分担等（1）家庭内の家事・育児・介護の分担について

年齢別にみると、「主として女性が受け持つほうがよい」と回答した者の割合は、「40 歳代」以上になると 1 割を超えている。



【過去との比較】問 17　家事・育児・介護の分担等（1）家庭内の家事・育児・介護の分担について

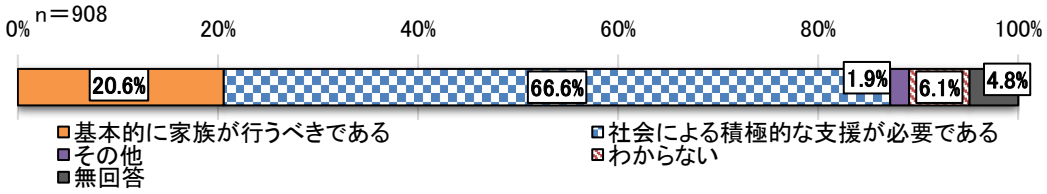
過去の調査と比較すると、「主として女性が受け持つほうがよい」と回答した者の割合は減少傾向になっている。



（2）育児・介護に対する社会支援

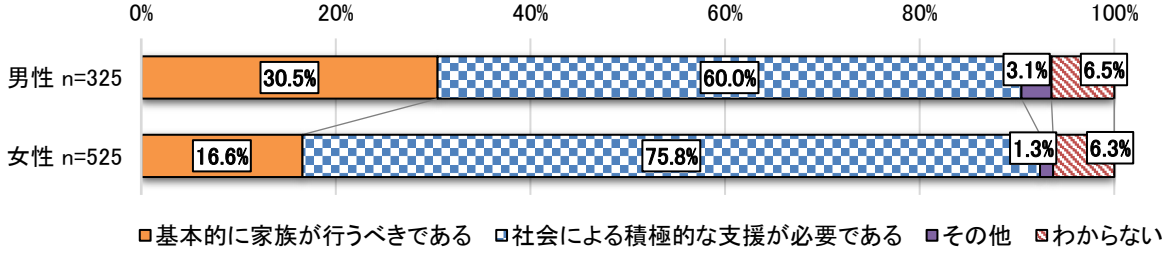
【全体】問 17　家事・育児・介護の分担等（2）育児・介護に対する社会支援について

育児・介護に対する社会支援について、「女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である（以下「社会による積極的な支援が必要である」とする）」（66.6%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「基本的に家族が行うべきである」（20.6%）となっている。



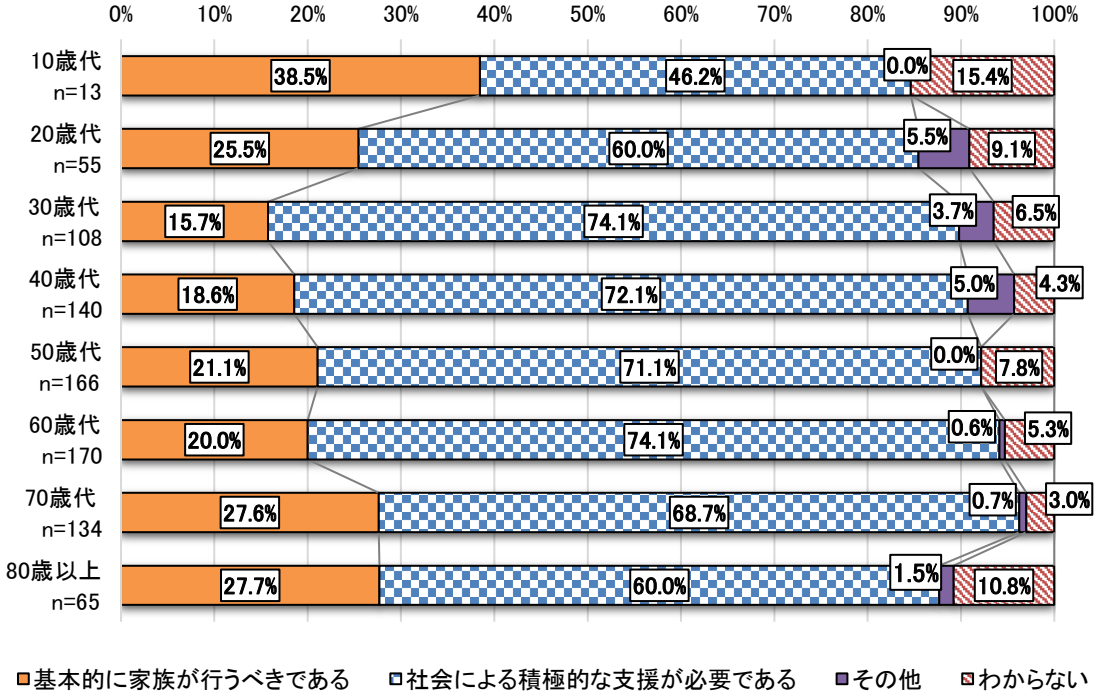
【性別】問 17　家事・育児・介護の分担等（2）育児・介護に対する社会支援について

性別にみると、「社会による積極的な支援が必要である」と回答した者の割合は 15.8 ポイント（女性 75.8%、男性 60.0%）、女性の方が男性より高くなっている。「基本的に家族が行うべきである」と回答した者の割合は 13.9 ポイント（男性 30.5%、女性 16.6%）、男性の方が女性より高くなっている。



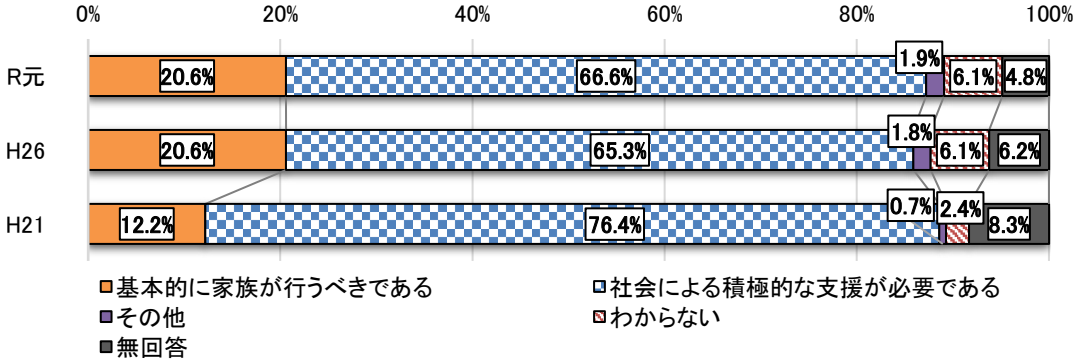
【年齢別】問 17　家事・育児・介護の分担等（2）育児・介護に対する社会支援について

年齢別にみると、「社会による積極的な支援が必要である」と回答した者の割合は、「30 歳代～60 歳代」が 7 割を超えている。



【過去との比較】問 17　家事・育児・介護の分担等（2）育児・介護に対する社会支援について

過去の調査と比較すると、H26 調査とあまり変化は見られない。



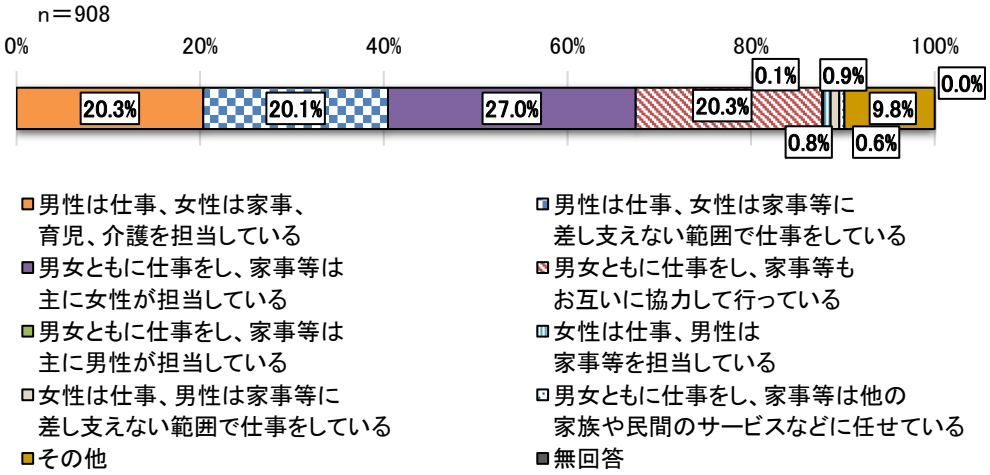
問 18　家庭での役割分担の現状

実際のあなたの御家族の生活として一番近い姿はどれですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	男性は仕事、女性は家事、育児、介護(以下家事等と表現する)を担当している	20.3%
2	男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている	20.1%
3	男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している	27.0%
4	男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている	20.3%
5	男女ともに仕事をし、家事等は主に男性が担当している	0.1%
6	女性は仕事、男性は家事等を担当している	0.8%
7	女性は仕事、男性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている	0.9%
8	男女ともに仕事をし、家事等は他の家族や民間のサービスなどに任せている	0.6%
9	その他	9.8%
	無回答	0.0%

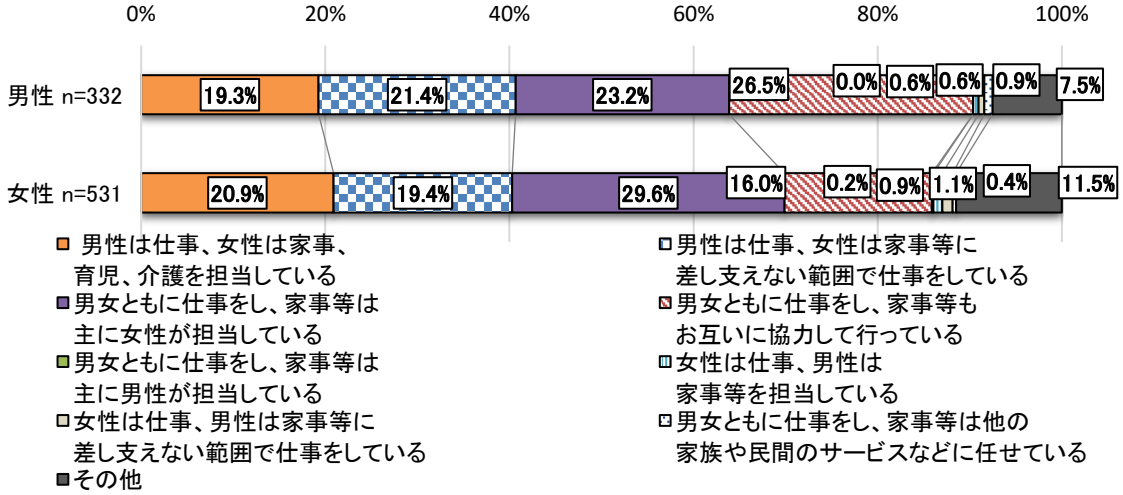
【全体】問 18　家庭での役割分担の現状

家庭での役割分担の現状については、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」（27.0%）と回答した者の割合がもっとも高くなっており、次いで「男性は仕事、女性は家事、育児、介護（以下家事等と表現する）を担当している」（20.3%）と「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」（20.3%）の割合が同じで、次いで「男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている」（20.1%）の順になっている。



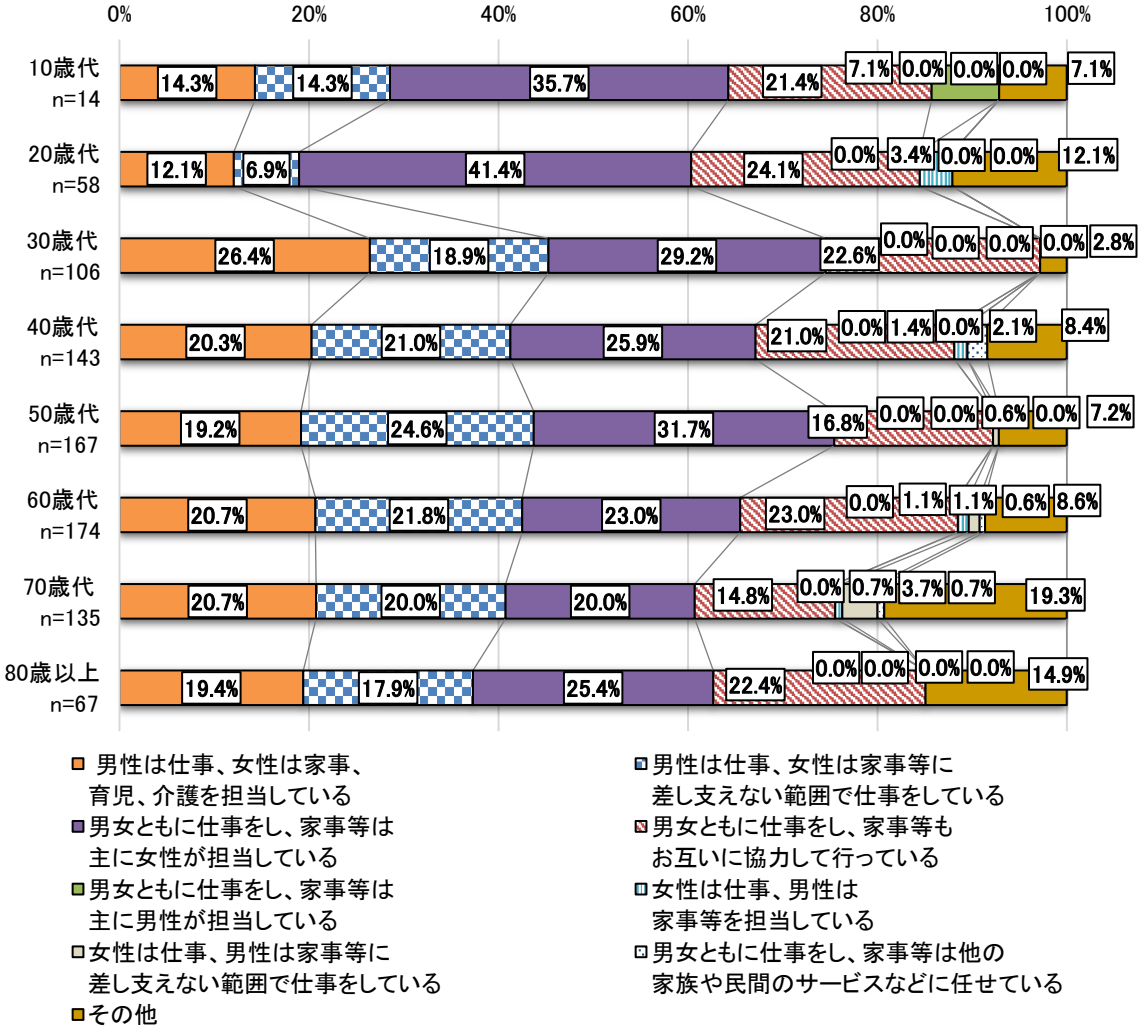
【性別】問 18　家庭での役割分担の現状

性別にみると、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」では 6.4 ポイント（女性 29.6%、男性 23.2%）、女性の方が男性より高くなっている。「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」では 10.5 ポイント（男性 26.5%、女性 16.0%）、男性の方が女性より高くなっている。



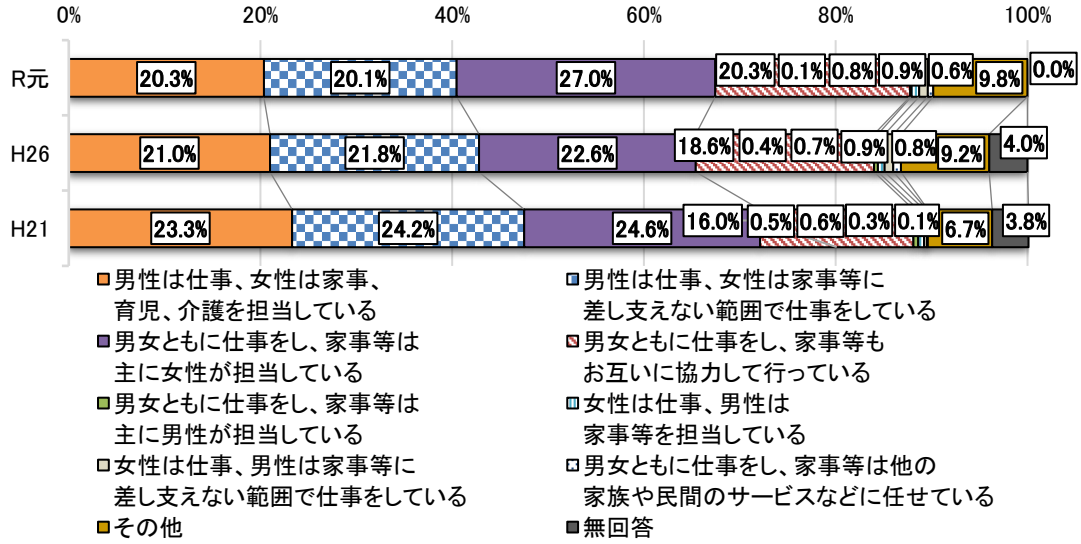
【年齢別】問 18　家庭での役割分担の現状

年齢別にみると、「男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している」と回答した者の割合は、全ての年代で高くなっている。中でも、「20 歳代」（41.4%）で一番高くなっている。



【過去との比較】問 18　家庭での役割分担の現状

過去の調査と比較すると、「男性は仕事、女性は家事、育児、介護(以下家事等と表現する)を担当している」と「男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている」は減少傾向になっている。



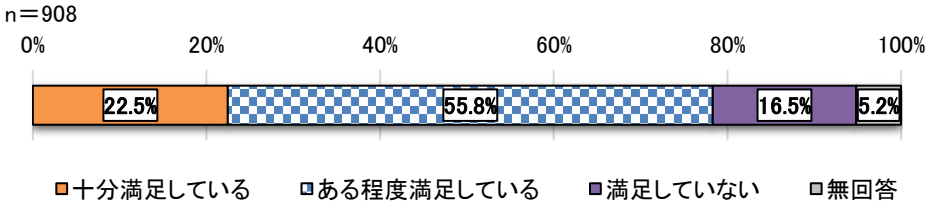
問 19　家庭での役割分担の現状に対する満足度

問１８でお答えいただいた実際の御家族の生活の姿について、あなたはどのように感じていますか。次の中から一つ選んで番号を〇で囲んでください。

1	十分満足している	22.5%
2	ある程度満足している	55.8%
3	満足していない	16.5%
	無回答	5.2%

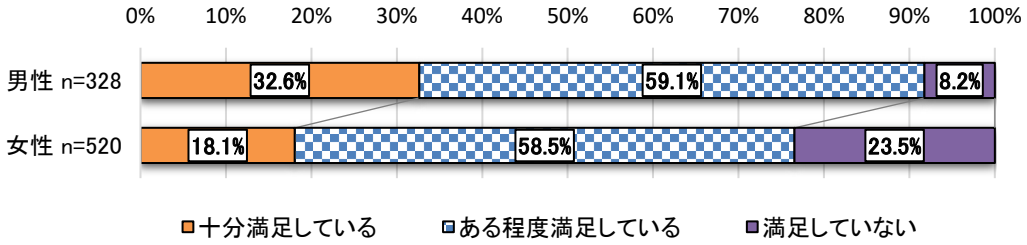
【全体】問 19　家庭での役割分担の現状に対する満足度

家庭での役割分担の現状に対する満足度については、「満足している」（78.3%）と回答した者（「十分満足している」（22.5%）と「ある程度満足している」（55.8%）の合計（以下同じ））の割合が、「満足していない」（16.5%）と回答した者の割合を上回っている。



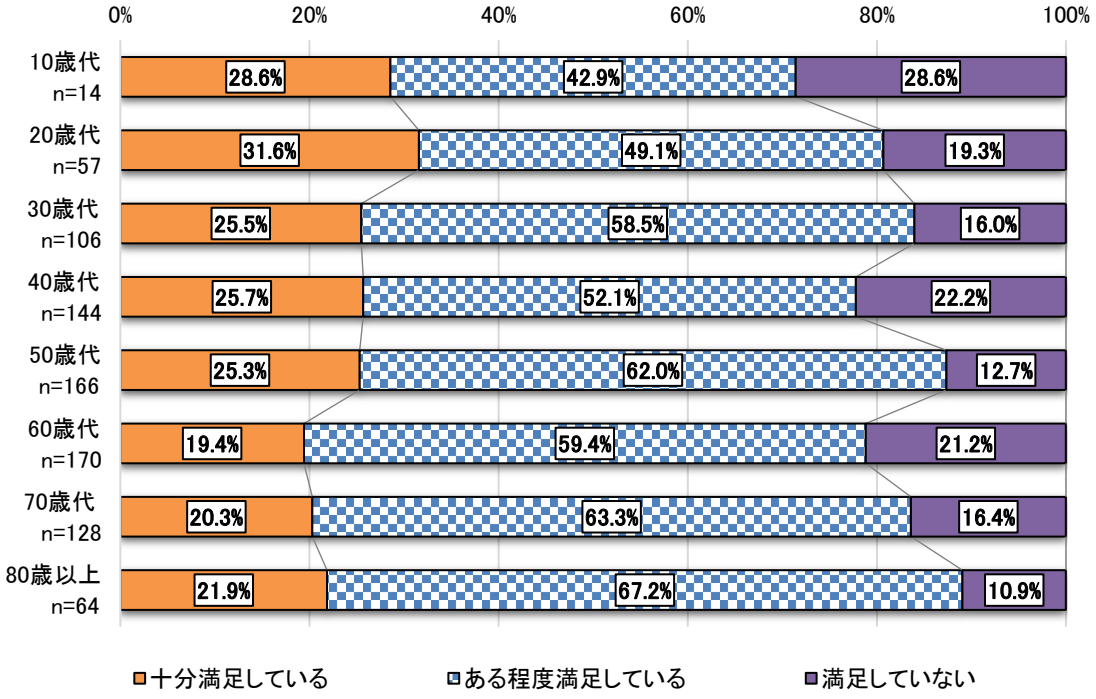
【性別】問 19　家庭での役割分担の現状に対する満足度

性別にみると、「満足している」は 15.1 ポイント（男性 91.7%、女性 76.6%）、男性の方が女性より高くなっている。「満足していない」は 15.3 ポイント（女性 23.5%、男性 8.2%）、女性の方が男性より高くなっている。



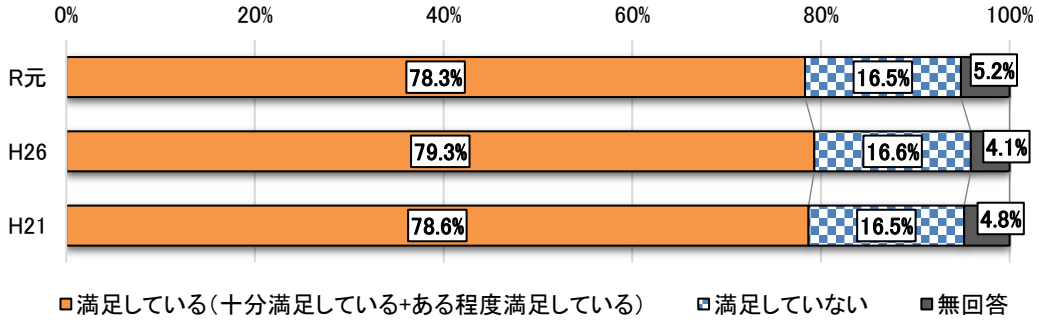
【年齢別】問 19　家庭での役割分担の現状に対する満足度

年齢別にみると、「十分満足している」と回答した者の割合は、「20 歳代」が最も高くなっている。



【過去との比較】問 19　家庭での役割分担の現状に対する満足度

過去の調査と比較すると、あまり変化は見られない。



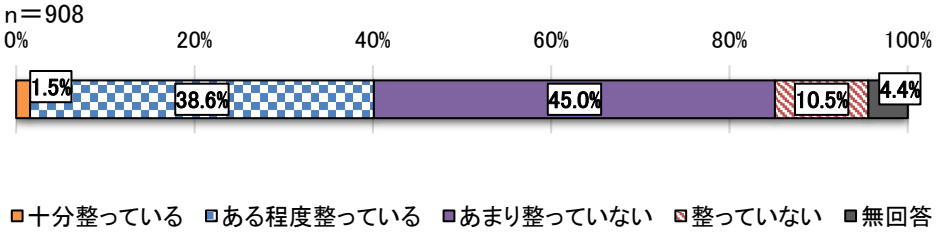
問 20　本県における女性の労働条件

本県では、女性が職業を持ち、続けていくために必要な条件が整っていると思いますか。次の中から一つ選んで番号を〇で囲んでください

1	十分整っている	1.5%
2	ある程度整っている	38.6%
3	あまり整っていない	45.0%
4	整っていない	10.5%
	無回答	4.4%

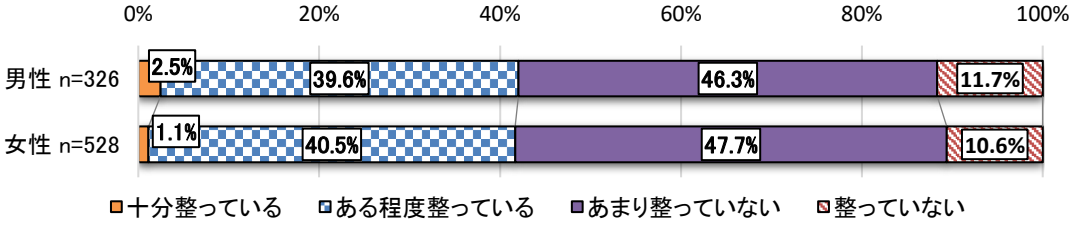
【全体】問 20　本県における女性の労働条件

本県における女性の労働条件の整備状況については､｢整っていない｣(55.5%)と回答した者(｢整っていない｣(10.5%)と「あまり整っていない」（45.0%）の合計（以下同じ））の割合が、「整っている」（40.1%）と回答した者（｢十分整っている」（1.5%）と「ある程度整っている」（38.6%）の合計（以下同じ））の割合を上回っている。



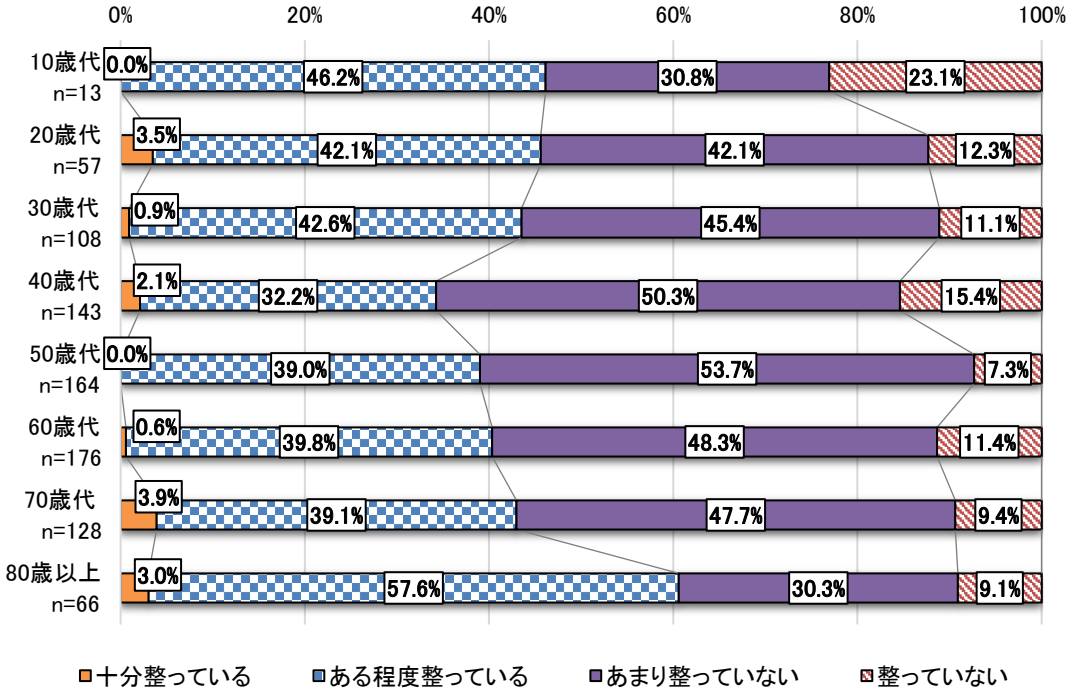
【性別】問 20　本県における女性の労働条件

性別では、あまり変化は見られない。



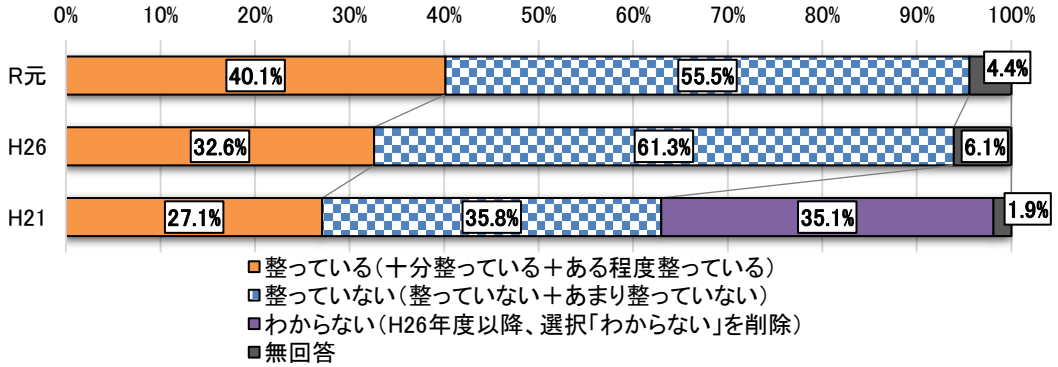
【年齢別】問 20　本県における女性の労働条件

年齢別にみると、「整っていない」と回答した者の割合は、「40 歳代」が最も高くなっている。



【過去との比較】問 20　本県における女性の労働条件

過去の調査と比較すると、「整っている」は増加傾向になっている。



（注）「整っている」は、「十分整っている」と「ある程度整っている」の合計。R 元、H26 年度の「整っていない」は、「整っていない」と「あまり整っていない」の合計。H26 年度以降、「わからない」を削除。

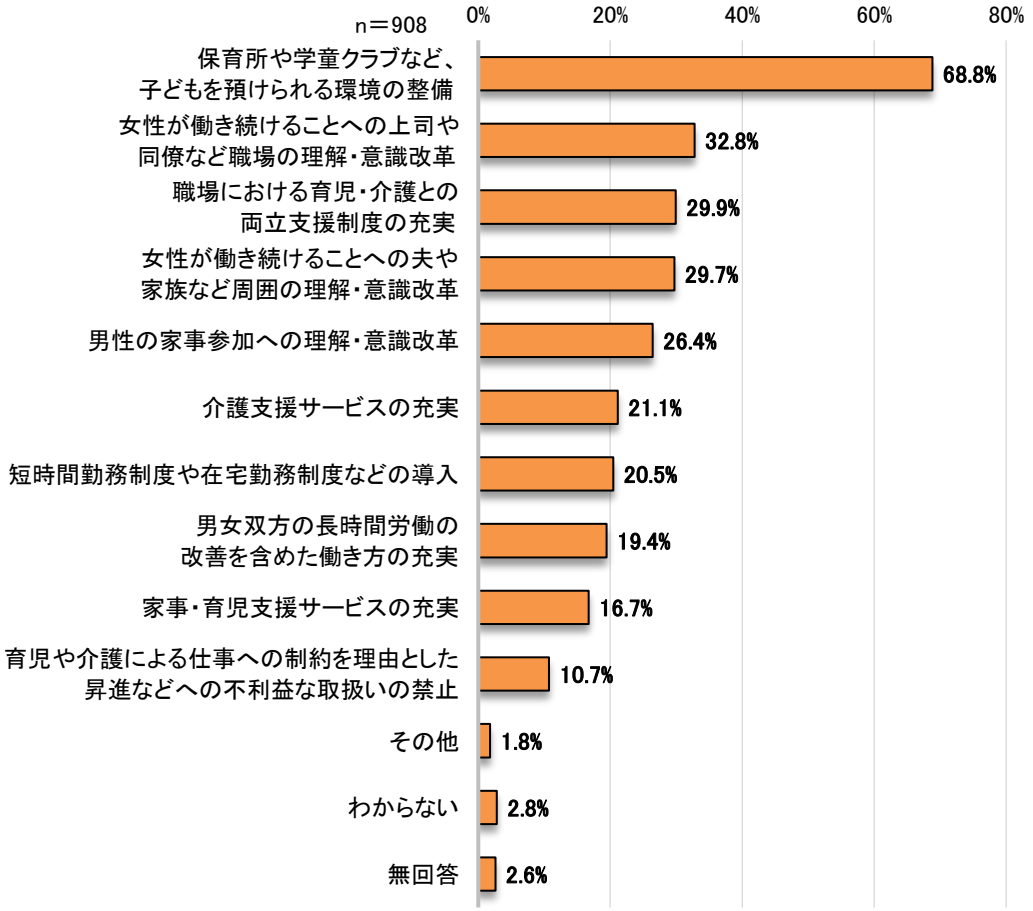
問２１　出産後働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこと

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	68.8%
2	介護支援サービスの充実	21.1%
3	家事・育児支援サービスの充実	16.7%
4	男性の家事参加への理解・意識改革	26.4%
5	女性が働き続けることへの夫や家族など周囲の理解・意識改革	29.7%
6	女性が働き続けることへの上司や同僚など職場の理解・意識改革	32.8%
7	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の充実	19.4%
8	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	29.9%
9	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	20.5%
10	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	10.7%
11	その他	1.8%
12	わからない	2.8%
	無回答	2.6%

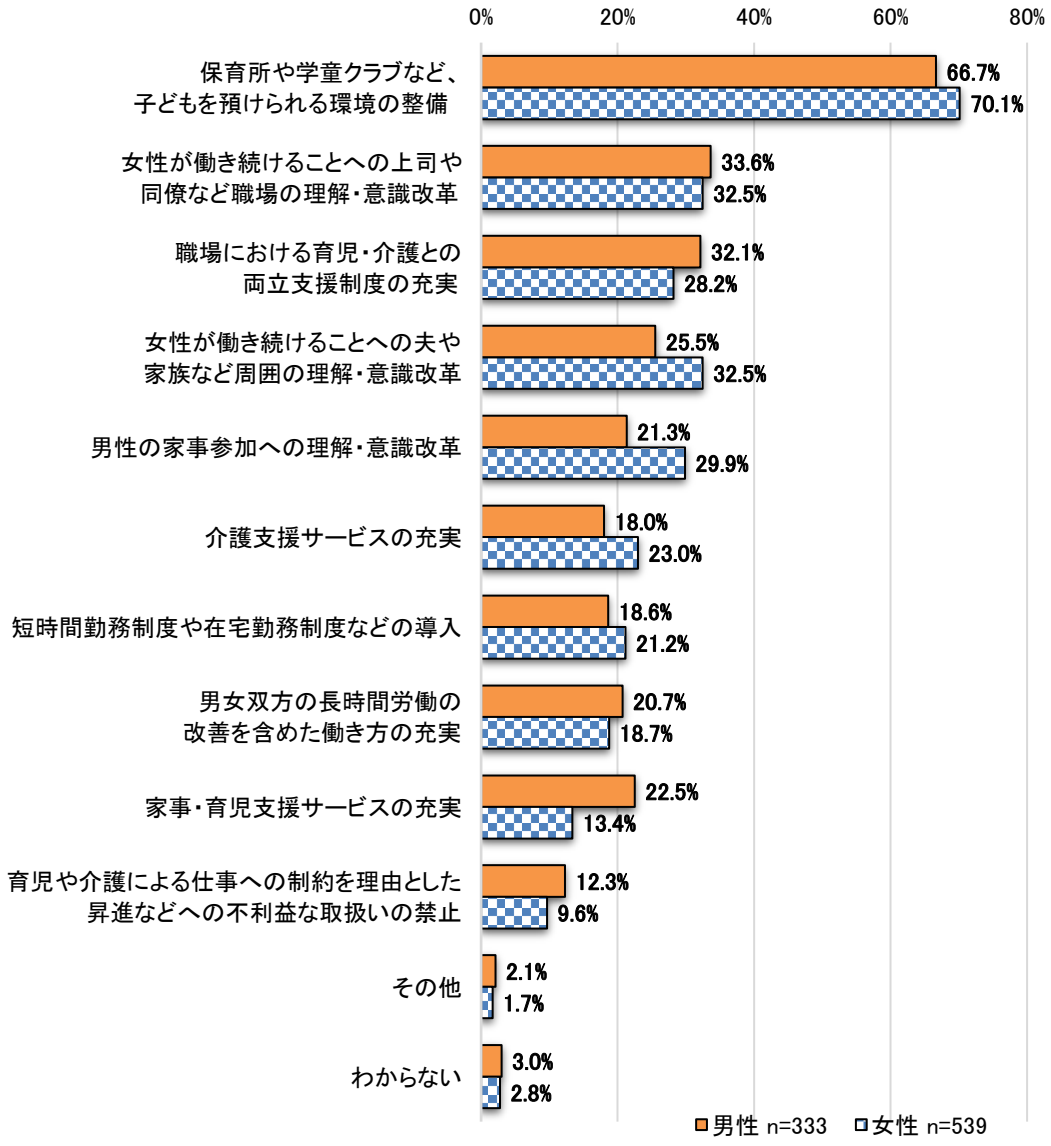
【全体】問２１　出産後働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこと

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」（68.8%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「女性が働き続けることへの上司や同僚など職場の理解・意識改革」（32.8%）、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」（29.9%）、「女性が働き続けることへの夫や家族など周囲の理解・意識改革」（29.7%）の順になっている。



【性別】問 21　出産後働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこと

性別にみると、回答の差が 5.0 ポイントを超えるもののうち、女性の方が男性より高くなっているのは「男性の家事参加への理解・意識改革」8.6 ポイント（女性 29.9%、男性 21.3%）、「女性が働き続けることへの夫や家族など周囲の理解・意識改革」7.0 ポイント（女性 32.5%、男性 25.5%）。一方で、男性の方が女性より高くなっているのは「家事・育児支援サービスの充実」は 9.1 ポイント（男性 22.5%、女性 13.4%）となっている。



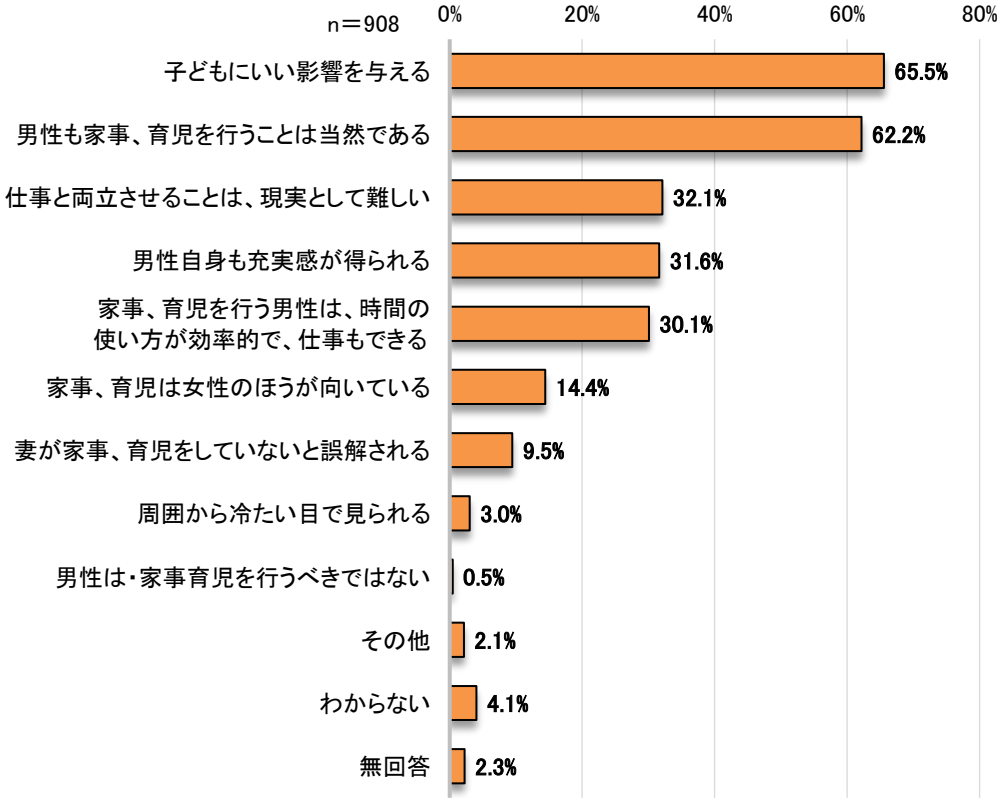
問 22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ

あなたは、男性が家事、育児を行うことについて、どのようなイメージを持っていますか。次の中から三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	男性も家事、育児を行うことは当然である	62.2%
2	家事、育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	30.1%
3	男性自身も充実感が得られる	31.6%
4	子どもにいい影響を与える	65.5%
5	仕事と両立させることは、現実として難しい	32.1%
6	家事、育児は女性のほうが向いている	14.4%
7	妻が家事、育児をしていないと誤解される	9.5%
8	周囲から冷たい目で見られる	3.0%
9	男性は・家事育児を行うべきではない	0.5%
10	その他	2.1%
11	わからない	4.1%
	無回答	2.3%

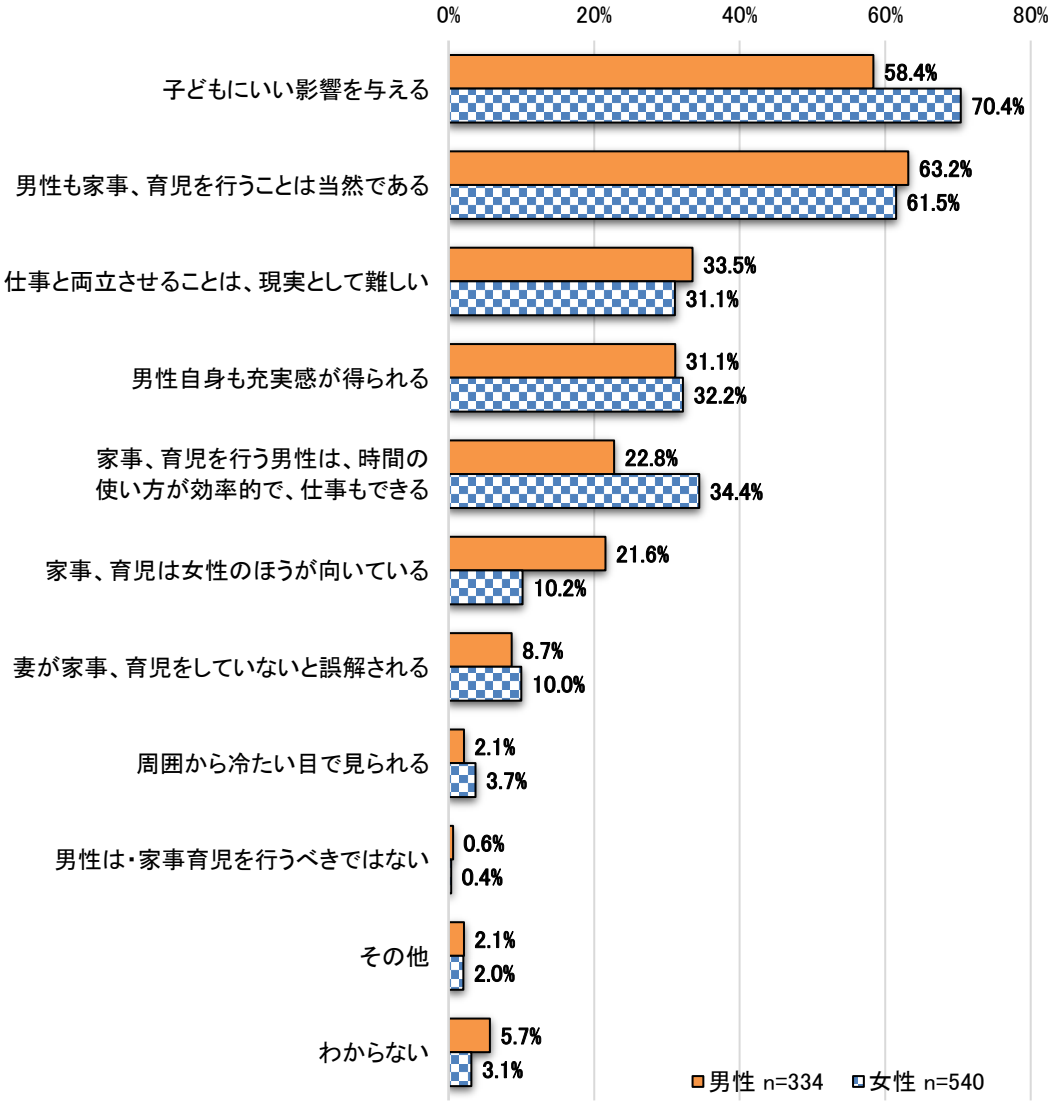
【全体】問 22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ

男性が家事・育児を行うことへのイメージは、「子どもにいい影響を与える」（65.5%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「男性も家事、育児を行うことは当然である」（62.2%）、「仕事と両立させることは、現実として難しい」（32.1%）、「男性自身も充実感が得られる」（31.6%）、「家事、育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」（30.1%）の順になっている。



【性別】問 22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ

性別にみると、「子どもにいい影響を与える」12.0 ポイント（女性 70.4%、男性 58.4%）、「家事、育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」11.6 ポイント（女性 34.4%、男性 22.8%）、女性の方が男性より高くなっている。「家事、育児は女性のほうが向いている」は 11.4 ポイント（男性 21.6%、女性 10.2%）、男性の方が女性より高くなっている。



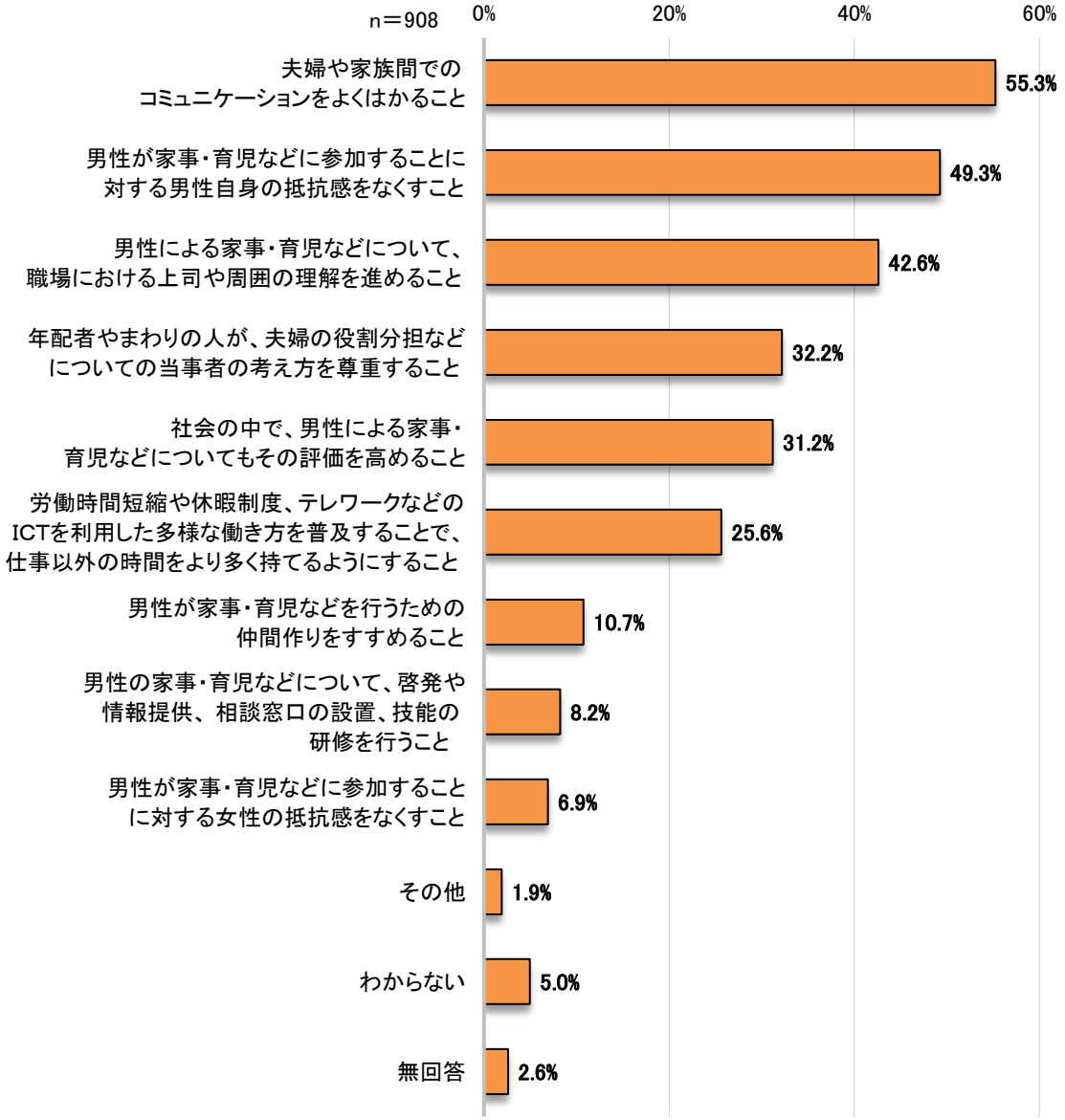
問 23　男性の家事等への参加に必要な条件

今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	49.3%
2	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	6.9%
3	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	55.3%
4	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	32.2%
5	社会の中で、男性による家事・育児などについてもその評価を高めること	31.2%
6	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	42.6%
7	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	25.6%
8	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	8.2%
9	男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	10.7%
10	その他	1.9%
11	わからない	5.0%
	無回答	2.6%

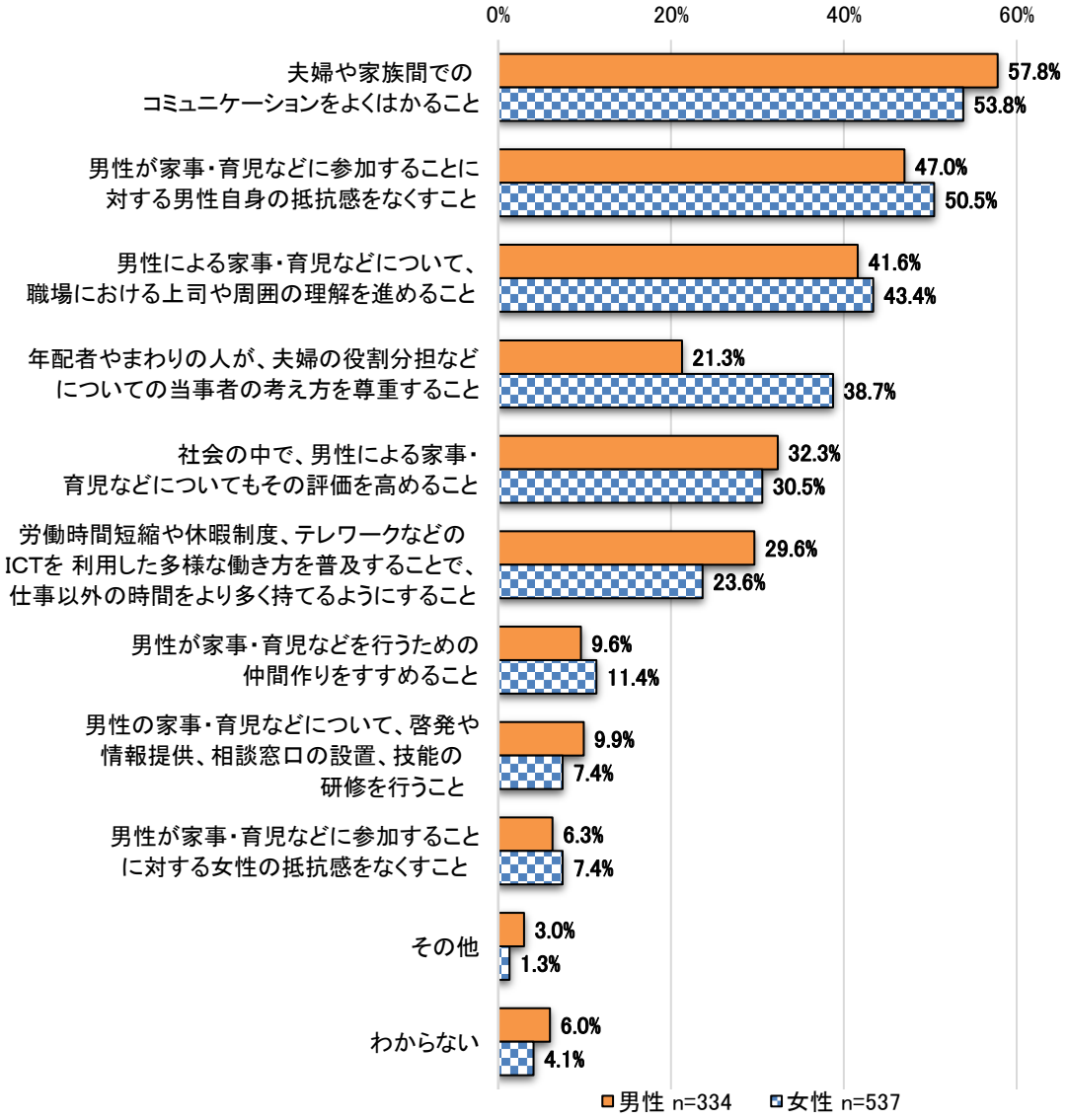
【全体】問 23　男性の家事等への参加に必要な条件

男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要な条件は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（55.3%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（49.3%）、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（42.6%）の順になっている。



【性別】問 23　男性の家事等への参加に必要な条件

性別にみると、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」と回答した者の割合は 17.4 ポイント（女性 38.7%、男性 21.3%）、女性の方が男性より高くなっている。



問 24　生活の中での優先順

生活の中での「仕事」「家庭生活」地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先順についてお伺いします。(１)、(２)について、それぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

（１）あなたの希望に最も近いものについて

1	「仕事」を優先したい	4.1%
2	「家庭生活」を優先したい	20.3%
3	「地域・個人の生活」を優先したい	5.4%
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	38.4%
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	5.1%
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	12.2%
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて優先している	8.6%
8	わからない	3.6%
	無回答	2.3%

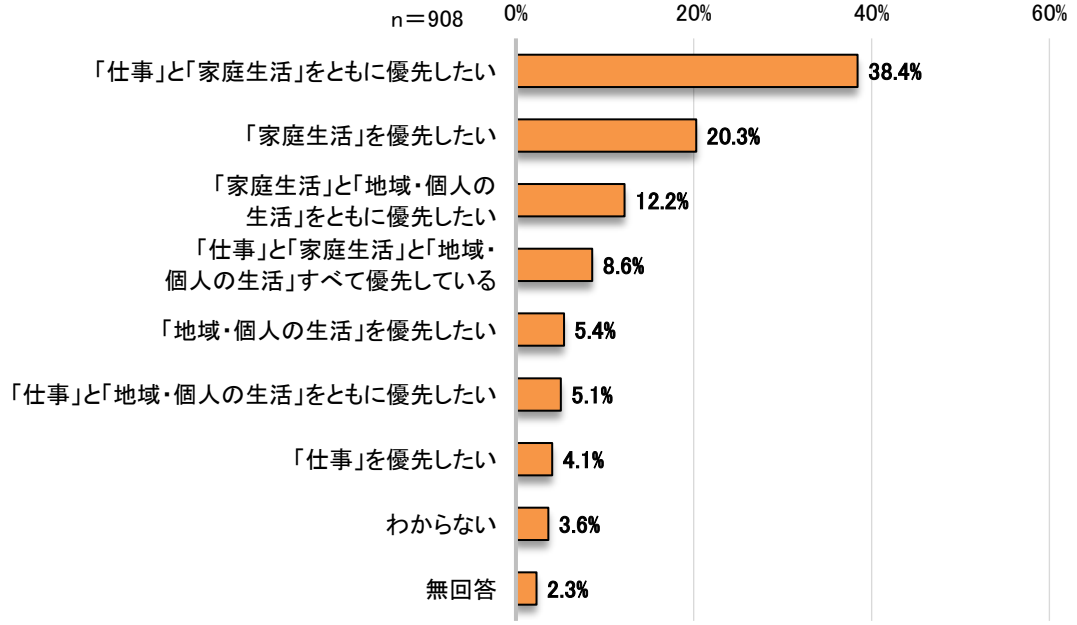
（２）あなたの現実・現状に最も近いものについて

1	「仕事」を優先したい	17.1%
2	「家庭生活」を優先したい	20.3%
3	「地域・個人の生活」を優先したい	4.0%
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	27.9%
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	5.0%
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	8.7%
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて優先している	6.6%
8	わからない	7.8%
	無回答	2.8%

（１）希望に最も近いもの

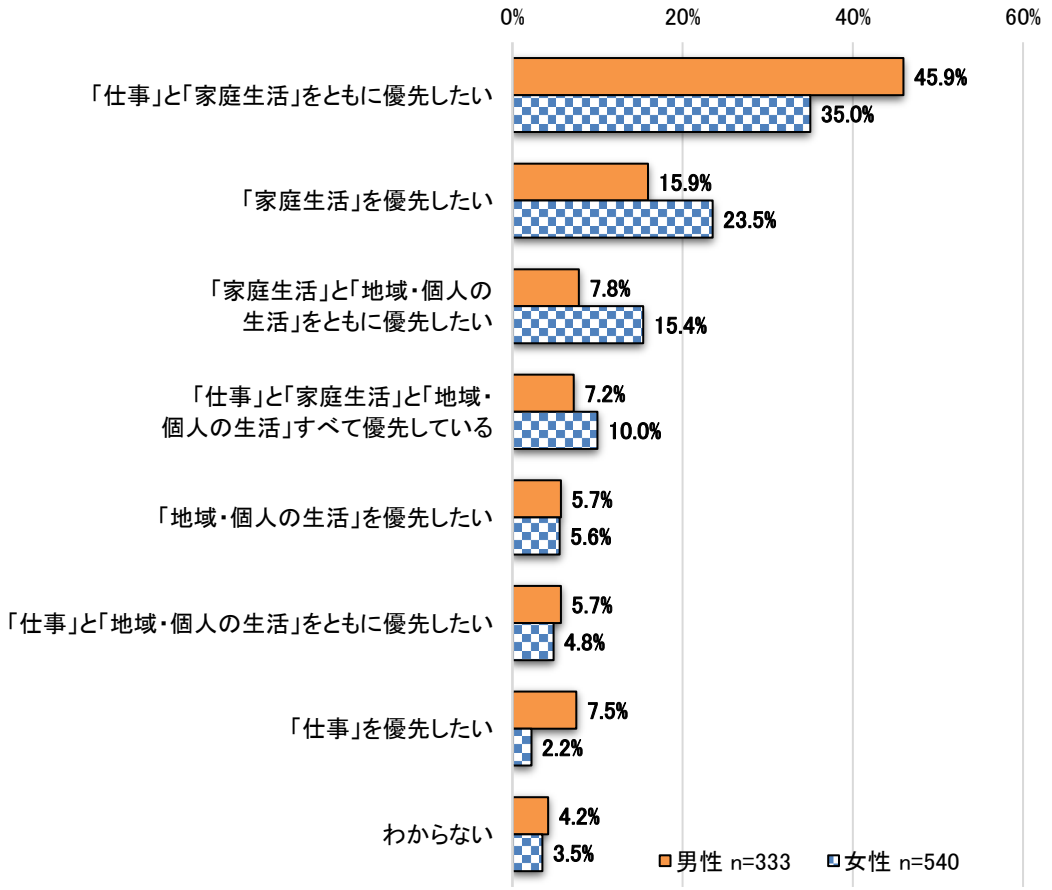
【全体】問 24　生活の中での優先順（１）あなたの希望に最も近いものについて

希望として生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先順は、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」(38.4%) と回答した者の割合が最も高くなっている。次いで「「家庭生活」を優先したい」(20.3%)、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」(12.2%) の順になっている。



【性別】問 24　生活の中での優先順（1）あなたの希望に最も近いものについて

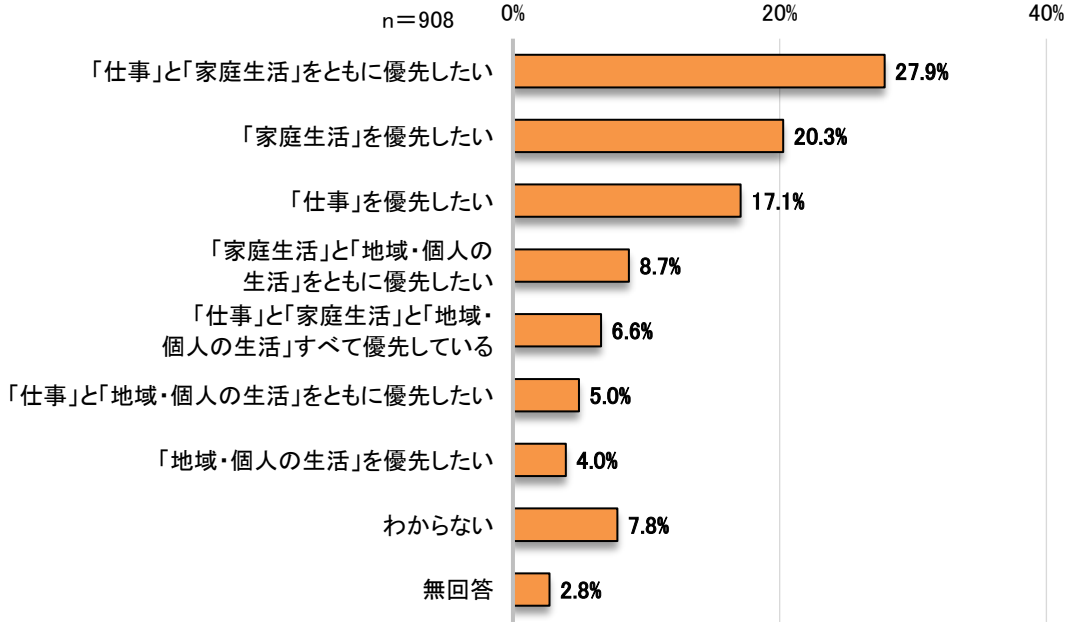
性別にみると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」は 10.9 ポイント（男性 45.9%、女性 35.0%）、男性の方が女性より高くなっている。「「家庭生活」を優先したい」7.6 ポイント（女性 23.5%、男性 15.9%）、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」7.6 ポイント（女性 15.4%、男性 7.8%）、女性の方が男性より高くなっている。



（２）現実・現状に最も近いもの

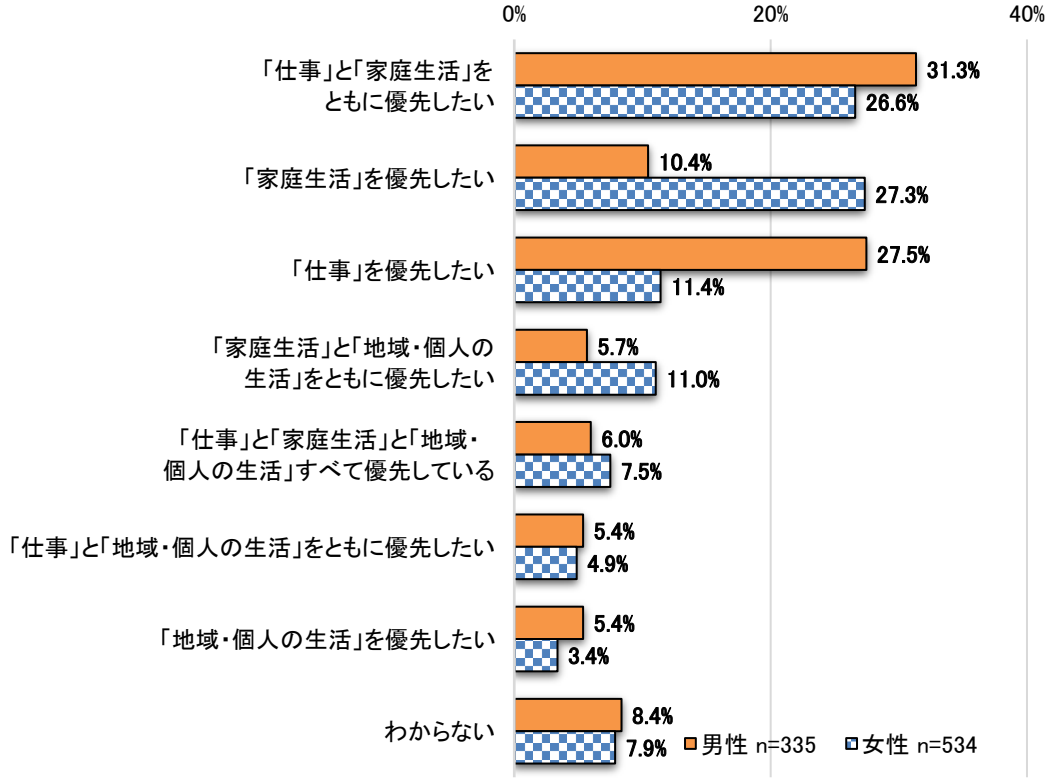
【全体】問 24　生活の中での優先順（２）あなたの現実・現状に最も近いものについて

現実として生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先順は、希望と同じく、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」(27.9%)と回答した者の割合が最も高くなっている。次いで「「家庭生活」を優先したい」(20.3%)、「「仕事」を優先したい」（17.1%）の順になっている。



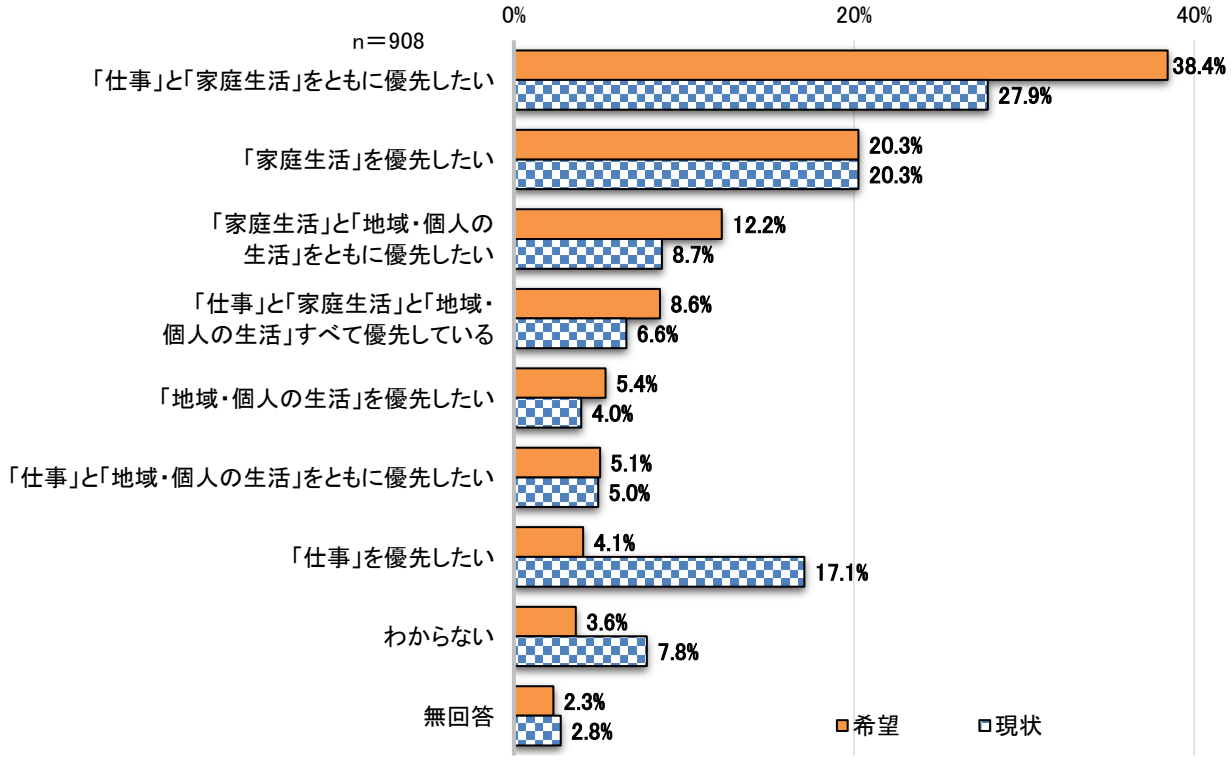
【性別】問 24　生活の中での優先順（２）あなたの現実・現状に最も近いものについて

性別にみると、「「仕事」を優先したい」は 16.1 ポイント（男性 27.5%、女性 11.4%）、男性の方が女性より高くなっている。「「家庭生活」を優先したい」は 16.9 ポイント（女性 27.3%、男性 10.4%）、女性の方が男性より高くなっている。



【希望と現状の比較】問 24　生活の中での優先順

希望と現状を比較すると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と回答した者の割合で、希望より現状が10.5 ポイント下回っている。「「仕事」を優先したい」と回答した者の割合で、希望より現状が 13.0 ポイント上回っている。



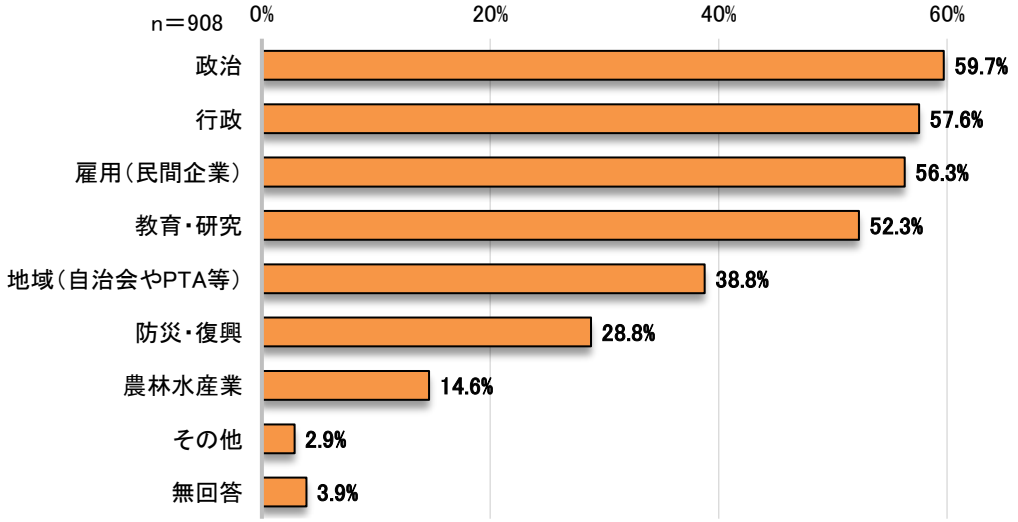
問 25　今後女性の活躍が重要となる分野

今後、どの分野での女性活躍が重要だと感じますか。当てはまるものすべてに〇をつけてください。（複数回答）

1	政治	59.7%
2	行政	57.6%
3	雇用（民間企業）	56.3%
4	農林水産業	14.6%
5	教育・研究	52.3%
6	地域（自治会や PTA 等）	38.8%
7	防災・復興	28.8%
8	その他	2.9%
	無回答	3.9%

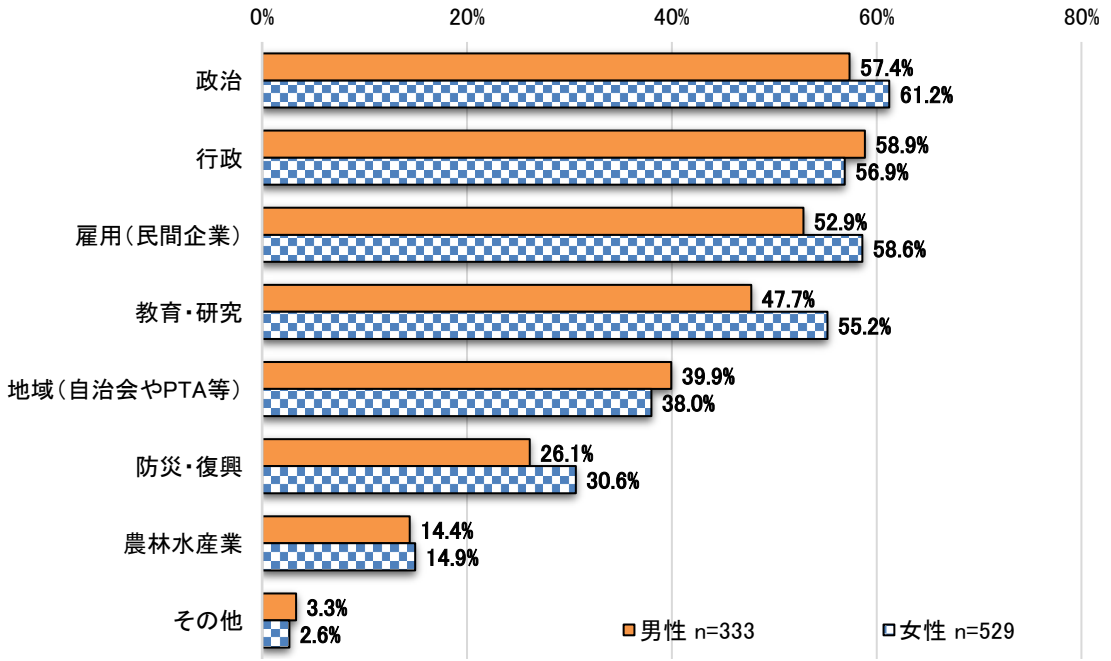
【全体】問 25　今後女性の活躍が重要となる分野

今後の女性活躍が重要な分野では、「政治」（59.7%）と回答した者の割合が最も高く、次いで「行政」（57.6%）、「雇用（民間企業）」（56.3%）、「教育・研究」（52.3%）の順になっている。



【性別】問 25　今後女性の活躍が重要となる分野

性別にみると、「教育・研究」は 7.5 ポイント（女性 55.2%、男性 47.7%）、女性の方が男性より高くなっている。



問 26　男女共同参画社会の実現に向け、県が実施すべき事業

男女共同参画社会の実現のため、県はどのような事業を実施すればいいと思いますか。御自由にお書きください。

主な意見

男性・10 代
・男女ともに平等なことを目指す取り組み。

女性・10 代
・素直な小学生のうちに、育児や家事についてよく学ぶべき。学ぶ場を増やすべき。大人になってから、父親になってからでは遅い。父親にする子どもの抱き方などの研修を子どもや結婚する前の人でもみんなにするべき。

男性・20 代
・男性が一方的に主張する世論をなくし、女性が政権をとることで男女格差問題や女性に対する政策を執り行うことが出来ると思う。 ・保育園を増やす、保育士を増やす待遇の改善。 ・一人一人が女性らしさにこだわりすぎないようにする意識が必要だと思う。そのためには、多種多様な生き方に、相応した制度の見直しが不可欠だと感じる。

女性・20 代
・子育てや介護中でも働きやすく。 ・男性の育児休暇取得をしやすくするための企業向けのセミナー等の充実。 ・仕事と両立できるよう保育サービス等の充実。子育てが落ち着き、出産前と同じ会社に復職しやすい環境にする←（復職雇用制度のある会社が優遇される等） ・みんなが働きたい環境作り。能力のある社員を増やすために休みを多く、短期間集中型の会社作り。 ・時短勤務、在宅勤務制度の充実、介護サービスの料金の改定、サービス内容の見直し。(介護職員の増員) ・職場で役割がつくのは男性ばかりで、有能な人がいても女性ではという理由で上にはいけない職場なので、法を新しくつくったり、立ち入り検査などしてほしい。 ・子どもを預けられる施設づくり。 ・女性管理職についての意見等をアンケートして、企業が女性に求める能力を理解し、セミナーなどを実施してみるのがいいと思います。 ・結局は、個々、社会の意識改革が大切になってくると思うので、互いの理解を深めたり、コミュニケーションがとれる場を用意すると良いのでは。

男性・30 代
・所得格差をなくし、所得を増やす取組を行ってもらいたい。夫婦が共働きするのは、片方だけでは生活がやっていけないから。片方が働き、もう片方が家事・育児を行う。どちらも両方するのは、負担感が増すだけである。現状どちらも中途半端な家庭が多いと感じる。 ・各種サービスの充実（特に保育） ・無能な管理職が誕生し、組織が停滞する。管理職の数値目標は不要。 ・情報の発信。 ・議員に男性が多いので、男 2、女 2 のように人数配分をするべき。定員割れしたらその分、男・女で補欠当選させるなど。 ・子どもがいても働きやすいように制度を充実させる。

・男も女も意識改革できる事案。考えが変わらなければ、男も女も年寄も子どもも、何も続かない。
・女性による DV（暴言が主）、男性による DV（暴力）が多いことを認識してほしい。男性が悪いと思われがちだが、耐えきれず暴力による行動を起こす男性も多い。男女共に原因があり、その原因を取り除かないと減らすことも、なくすこともできない。子どもの教育の段階から理解者を育てる事業に尽力してほしい。
・イクメンという言葉を浸透してほしい。
・セミナー及び勉強会。
・男女双方の長時間労働の改善を推進する事業。男性が育児に積極的に参加しやすくなる啓発活動を推進する事業。
・実現のための予算確保。

女性・30 代

・正規職員から離れてしまった女性が、再び正規職員に就くことは少なく、子どもを持つと「お子さんが熱を出された場合はどうされますか！」と面接者に必ず言われ、子どもを優先すると言えば、冷たい表情。他の制度を利用するといえば「時間は何時まで働けるか！」としばしば追い込ませる心理戦。女性ばかりに負担がある前提での面接の現状。民間企業への働きかけをお願いしたい。
・保育や児童クラブ等の子どもが安心していられる場所を充実させてほしい。
・男性の育休取得率が圧倒的に低い(日本全体の問題でもある)現状、取りたくても取れない人もいると思うので、会社側から半強制的に 1 週間～でも取らせる制度を実施する。少しでも育児を体験することで大変さを理解できると思う。
・女性の役職と賃金の整備。
・女性が社会に出やすい環境づくり、家族や子どもに負担をなるべくかけず短時間労働ができる場、家事能力や前職で得たものを発揮出来る場の提供。
・保育園などの時間外(夜間)の保育の充実を。(残業ができる環境を整備してほしい。)
・働きたい女性たちを集めることで、何らかの講演会や、女性の今後の活躍の場を増やしていくようなキッカケを作っていくことができれば、もっと共感できる人が出てくると思う。
・問題共有・解決のための啓発事業。(男性や年少者、若年世代へ向けて)
・「小学校に入るときに学童保育に入れない」という話をよく聞く。保育園は充実してきたので、小学生の預かりにも力を入れてほしい。また、制度はあっても利用が進まない育休などについても、中小企業にも取り組みやすいように、取得率が上がればインセンティブが出るなど、男性に何かしらのメリットのある方法を考えてほしい。
・企業に、働きかけて欲しい。
・正規雇用の充実と残業時間の減少及び賃金の上昇。それを可能にするための景気対策。
・保育士や介護士の給与が安すぎるので、なり手がいない。
・まず、現実的に女性は仕事に出るにあたり、子どもに教育機関やその他保育所等に行ってもらう必要があり、男性はそういう"何か"をしないと仕事が出来ないということがないと思います。共働き時代に女性が子どもがいるから仕事に出にくいという現状が、最終的に良くないと思っている。

男性・40 代

・人口を増やすこと。
・セクハラ・パワハラ等に対する加罰的取扱い、常勤講師の教諭化、非正規職員の正規化、臨時職員の無期雇用化、外国人の通訳や行政への起用。
・PR。県条例の制定。
・保育園、小学校、中学校、高校の無償化及び医療費の無償化。とにかく子どもの教育や医療を充実してほしい。
・県から変えていく。
・いろいろな発言をできる場を増やしていけばいいと思う。

・親の介護で復職する方は５０代となるので再就職支援を行う。採用した企業へ行政が給付金を出す。出産・子育てから早く復職するため保育料も無償化する。※特に複数の児童がいる世代に限る等。教員増員を行い児童クラブの時間延長。（１８：００～２０：００等）
・議員定数について女性人数の最低人数を設定する。
・働き方改革を充実するための工夫した事業。
・本音の話をすること。女性自身が本当に上を目指す人がどの程度いるのだろうか。結婚したら仕事を辞めたい女性の割合とか、子育て中は働きたくない割合とか、地域活動なんかしたくない女性の割合とかの話が最初にあるべき。
・啓発セミナー事業で団体の長とかでなく、個々に向けて情報発信する。
・具体的な方法の周知。
・女性が職場で働きやすくするための企業等への勉強会の開催や支援など。
・男女が共に働きやすい環境にする。育児休暇を取りやすい環境にする。結婚後やめなくてもいい環境にする。
・公衆トイレを増やす。
・考え方をフラットにする。今までにとらわれない。知事の具体的なアピール。
・保育支援。
・男性と(親子)子どものワークショップ(料理教室などのイベント、キャンプ)。子育て女性の就職支援。(企業への助成など)
・保育施設や介護施設の充実とそれらを利用しやすくする制度の充実。
・集会等のサポート。
・県民の生活水準を上げる。フルで働かないと生活が苦しい。教育費は全国水準が必要なので、子どもを育てるのが難しい。
・三世代同居への支援。伝統を伝え「男らしさ」「女らしさ」を教える事業。
・まず、県民に意見を聞いてみては。普段声をあげない方々の意見をひき出すことが重要。
・ICT やテレワークをどこでもできる通信網の整備。

女性・40 代

・「男女共同参画社会」についてもっと分かりやすく、だれでも知っている状態にする必要がある。
・一番偏見を持っている世代やグループ層に向けて、参加しやすいワークショップを行い家事や育児、介護を体験してもらったりすること。これらを続けていく中で、その良さや辛さを相談したりおしゃべりし合ったりできる、いわゆるはき出し口のような場所を作り、平日でも利用しやすくすること。小さい子どもの頃から男女関係なく、家事のお手伝いをし、育児にも介護にも役立てられるように習慣づける取り組みをすること。又はそれを支援すること。
・中高年男性の家庭での自立。個々人の意識改革なので具体的に県が事業の実施をして効果があるのか不明。
・女性が出産すると仕事をやめなければいけない現実。今は共働きでないと生活していけない現実。子どもを預かってもらえる保育園が少ないので、その施設の充実を。
・男女の役割の垣根をなくす活動や事業を実施。女性は体力的な面では多少男性に及ばないかもしれないが男性と同等にできるところは多くあるし、特に仕事をしていると女性の方が有能なことも多い。違いを理解し、企業や（年配のお客さんなどで）世の中での垣根をとっていける何かを行ってほしい。仕事上、偏見を感じることが多いので。
・現状のままでいいと思う。
・長時間労働（残業・持ち帰り仕事を含む）の是正。
・男性が家庭での役割を高められることをしてほしい。
・長時間労働、休日出勤、サービス残業等是正する働き方改革。（形ではなく実質的改善）
・男女共同参画について、個人の考えの差がまだ大きいので、学校や地域での啓蒙活動を行う等して、男女格差があることが異常であるという認識を持たせる活動をして欲しい。
・税金の軽減。

・活動内容等周知する。（イベントや参加型の交流会）年齢に関係なく興味をもてるイベント。愛媛マラソンのボランティアも中島のトライアスロンのように前夜祭等をし、お互いを知る。
・育児休暇の積極的な取得を支援する事業。
・子ども達への教育。未来を作るのは、大人ではないから。
・男性が育児休暇等をとりやすい環境をつくる。
・収入を得るための仕事を続けられない何らかのイベント(例えば介護、子育てなど)があるときに、職場以外の中立な相談窓口。経験者の話を聞ける交流の場。
・もっと生活に身近な所などでの講演、講習や中学生、高校生などにも、わかりやすく接して下さる機会があるといいと思います。
・働き方の改革。保育・介護の充実。教育。
・結婚して仕事を辞め、子育ても落ち着いた世代の女性に、もう一度社会や、コミュニティに参加できる場を作っていただき、その情報を積極的に広めていただきたいです。
・介護支援サービスの充実、介護が必要な家族がいる場合、働きたくても十分に働けない、限られたサービスしかなく、結局は家族内の女性が背負わされてしまう。
・あまり変化を求めない県民性。どんな策でも時間はかかる。個人での責任について、意識改革からできる場があればいいと思う。
・法律や環境を整えても人間自身が変わらなければ、何も変わらない。学校等の教育の現場から人間を教育してほしい。
・事業企画を行う立場の女性を増やす。
・働きやすい職場づくり。
・地域、部落での行事を充実させるようなこと。昔は山登りとかキャンプなどした。
・福祉従事者、保育、障がい者支援者への給与、待遇の充実を図って欲しい。老人介護施設での自己負担の軽減など。家庭における男女の家事や生活、介護の負担格差をなくすよう。うちでは全て女がするものだと思っているよう。夫は「男はしなくて（家事、育児、介護）よい」と育てられてきている。啓発運動を行って家庭内格差がなくなるよう、働きかけて欲しい。
・具体的には思いつかないが、男女ともに子育てや介護をしながら仕事をしている人達を支援する事業に力を入れるべきではないか。

男性・50 代

・犯罪を社会から根絶すること。
・自治体として住民の声に耳を傾ける。
・出産で休む女性へのフォロー。
・幼児の頃から男女差別をなくす教育をする。
・県民への広報活動。
・政治家にも勉強してもらう。
・家計を支えている者が介護理由で離職をした時の、減税及び補助制度を他県より先に行う。
・具体的にはわからない。そもそも愛媛県は他県に比べてどうなのか。不足しているものは何かを分析、評価し、良いものは導入する。
・愛媛が現在どのような事業を展開しているのかよくわかってないので何とも。
・育児と介護を支援する制度を充実して欲しい。

女性・50 代

・共働きの家庭は仕事と家事を担っており、税負担も男女格差はない。しかし、専業主婦（夫）やパートの家庭は税の軽減があるため、働けるのに働こうとしない。県単独でできる共働き世帯の助成等ができればよい。
・場所が職場でも地域でも、女性の意見を尊重して行動にしていく（してみる）ことが大事だと思う。行動しなければ結果が出ないため。結果が出てからでも改善策は見つかるものだと思う。

・国に対して、配偶者控除などの税制面における抜本的改革を行う。働き方の一つの形態として、子どもを連れて仕事ができる機会を増やす。
・基本的には参画するかしないかは個人及び個々の家庭事情もあるので自由であるべき。ただ今後、世帯数が激減していくと予想されるので、参画しようと思った時に実現できるよう社会の意識の改革と子育てや介護サービスの更なる支援（設備と金銭的）が望ましいと思う。
・男性は女性に対して、又は女性は男性に対して尊重できるよう相手を認めることが大事。上手く男女共同参画社会が実現している自治体や企業を紹介する広報誌などを発刊。人の意識を変えられる何かを行う。（定期的に開催）
・有給休暇があっても使えなく、勝手に会社が有給休暇扱いにする時もあり、必要な時に有給休暇を使えるようにしっかりとした法律を作ってほしい。
・職場、学校などで勉強会実施。（DVD や講師派遣）
・男女共同参画についてテーマを決めて研修を行う事業の実施。例えば、男女一般の方の話し合いがもてるように研修等をいろいろな企業や町内などで行う事業の実施。県の方が中心となって行ってくださるとよい。
・高齢社会の中、介護することも多くなる。介護をしなくてすむ、健康を保つことのできる公園、運動指導又子どもなら児童クラブ、子ども食堂など充実。女性や高齢者に働く場所を提供する。
・私たち（５０代）の年代と、少し下の世代（３０代）はもはや考え方がすごく違うと日々感じています。（旗当番は今はお父さんの姿もあるし、子どもをだっこして買い物など）家事、育児に参加している男の方は抵抗なく増加していると思います。こういう男の子を育てるために、子どもの頃からの教育はすごく大事かなと思います。
・女性起業家への支援。
・これからの子育て支援、働く女性支援、保育園の充実、働きやすい場所を。
・学校、自治会、行政への男女共同参画社会についての教育推進。
・色々なサークル活動を増やしてほしい。
・男女参加型のイベント推進事業を希望します。
・実施していることをわかりやすく県民全員に伝わるようにしてほしい。
・男女共同参画をもっと PR すべき。家庭でも社会でも男性上位をなくすための事業。
・女性が活躍するための能力の研修会。
・生活応援。
・双子出産後、３年間休んで仕事に復帰した際、１時間時短勤務を希望しましたが、結局(もちろん賞与もなくなります）パート扱いになり通勤手当もなくなり、その他、福利厚生の面でも、悪くなりました。(仕事量、内容は変わらないため、以前より忙しくなりました)これが今の企業の現状です。働きやすいと感じていません。時短での正社員制度ができるように県が働きかけてくだされば、助かる女性は多いです。
・男女間の格差改善として数字の上だけで％(率)を上げる努力をしても有能でない(中身のない)女性を選んでいては本末転倒ではないか。愛媛県には有能な女性がまだ少なすぎると思う。名ばかりの役職のポストを与えて勘違いさせてはいけない。
・男女ともに育児休暇、介護休暇の充実。有休を積極的にとれる体制。(社会的にも、会社的にも)メディアでどんどん広報する。
・私は、男女は平等だが、男女は対等ではないと考えます。（今のところ出産は女性しかできません）
・子どもの長期休暇(夏休み、冬休み、春休み)時の時短勤務。
・家事や育児サービスを気軽に利用できるようなシステム。
・男女間での給料の差をなくす。扶養家族について考えていく。

男性・60 代

・育児環境整備。
・民間企業で働く労働者に対し、職場の現状を聞き、企業経営者の経営理念の根本的な見直し、指導する。公務員と比較すると民間人の格差は大きい。
・誰でも参加できる専門の部署を作ってほしいです。

・啓発活動も大切であるが、補助金や給付金等お金を使った施策を考える。
・勤務地（会社内）すぐ近くに子どもの施設を提供する。（安く）
・まずは地域から始めよ。地域の町内会長等の役職は、半分は女性とするようにする。これを義務化すれば、そのうちに議員等まで波及していくことになる。
・子どもを預けられる環境を、また介護支援も。
・性差を大切にする教育が必要です。
・第三セクターでの事業等から具体的実施を。
・県職員の各部署のコミュニケーションを多く行なう。
・各分野で男女不平等、格差をなくしていく。
・女性の家事・育児で立派な社会人を育てることは、パートに出ることより高く評価されるべきであり、子どもが２２歳になるまでの配偶者控除を増額する。
・社会福祉については根本的に男性より女性の方が向いていると感じるので、(事業主も含めて)女性中心の職場環境が望ましいと思う。
・なるべく税金を使わないようにして下さい。
・生涯学習に参加しているが、もっと実践的学習を実施してほしい。また訓練校などの枠を拡大し、職業人を増やし、県の財政を豊かにさせる。
・男女共同参画社会実現のために多く発信すること。
・まずは、実情を知るため、より多くの分野の県民の声を集めること。意見を聞く。次に、分析→一般人の各々の代表者と会合し→理念論を知り現実とのギャップを話し合うこと、→トップダウンをやめて、実現可能なことから、始める→次々とステップアップすべきと思う。
・何よりも男女が結婚をして、次代を担う子ども達が必要である。日本の国が成り立たなくなる。そういった事業を実施していただきたい。
・男女共に本当の仕事に対する平等性。
・男女差別をなくすこと。仕事年齢も６０才６５才とか指定しないで、個人個人の働けるまでにしてほしい。
・女性がパートやアルバイトをしている比率が高い。正規雇用や最低賃金 up などで、豊かな生活ができるようにしてほしい。

女性・60 代

・子育てしやすい環境を作ってほしい。
・男性も女性も双方の意見を平等に聞いて反映させる。（さまざまな年代の）
・行政に女性を増やす。
・家事、育児、介護について、学校教育の家庭科授業の課題を多くする。
・働き方や休暇の選択肢を増やす。
・子ども達が学校、部活、塾と忙しく、家族とのコミュニケーション不足のようなので、親の仕事時間（残業）などをなくし、家で過ごす時間を多くとれるようになればいい。
・事業ではないのですが、将来を担ってくれる子どもたち(小学生～大学生)にこのようなアンケートで意見をもらうのもいいのではと思います。
・定年退職・子育て終了の高齢者が地域の中で若い世代の人の手伝いができる、講習やネットワークづくり。
・私が現在働いている小さな工場では男女の差はありません。まず人数が最小限で働いています、出来る人がしています。男も女もほとんど関係ありません。
・男女平等といっても外で働きたくない人、外で働きたい人いろいろです。外で働く場合やはり女性はいろいろ制約があり、諦めている人も多いと思います。特に若い人は子どもが小さいとかの制約があり、才能のある人が埋もれています。そういう人が活躍の出来る場があればいいと思います。
・若者が地元で働ける場所、企業誘致を。
・会社や事業所へ出向き、特に男性への理解を促し、アピールしているのでしょうか。
・男性が仕事をやめ、介護をしていますが、国民年金なので毎月赤字です。家にいて、何か収入につながるような、仕事はないものかと。
・これからますます女性が社会に出て働いていかなければならない時代ですが、子どもをもつ若い人からは

なかなか保育園に入れないということを聞きます。幼稚園の保育時間を延長するなど、保育園に入りやすくするなど、出来ないものでしょうか。
・男性の育児休暇取得への理解。保育所の待機児童をなくすこと。
・現在、私達の地域では、秋に、三世代交流というのがあります。誰もが、気軽に、楽しく参加できる行事です。私も、女性団体の一員として、子守の役目のお手伝いをしています。次回も、参加したい、という気持ちになれば成功だと思います。お菓子・お茶が、もらえます。
・保育、介護の利便性を良くして頂きたい。公的年金の充実。
・力のある男性にはそれに合った仕事。優しい女性には子育て・育児。協力して住み良い国、町、をお願いします。
・男性の意識改革(特に 50 才以上の人)→地域の活動で特に感じる女性も積極的に参加する。参加できるようなサポート。
・人生１００年時代と言ってますが雇用も延長（意欲のある人）する。
・はっきり具体的な行政であって欲しい。
・保育園や幼稚園の休みの時（夏休み、冬休み等)、また学校が終わり親が職場から帰宅するまでの時間、幼児期の子どもや小学校低学年の子どもを安心して預かってもらえる公の施設が増えるよう希望します。

男性・70 代以上

・有能な女性の発掘、教育。
・真の男女平等にするために法的、社会習慣の変革へリーダーシップをとる。
・「民主主義」とは何か、今一度原点に戻って考え、教育する必要がある。「民主主義」と日本社会の現状についての討論会を開催して欲しい。
・よくやっていると思いますが、男でも女でも適材適所の仕事が出来る社会になればと思います。
・問題点が分からないと対策は立てられない。「男女共同参画」について実態はどうなのか。意識は、目標は、実態を深く分析・検討して対策を考え実行するべきと考えます。事業先行では税金のムダ使いと思います。
・もっと PR して意識の高揚を行うべき。
・子育て環境の充実。
・県民への意識を高める、宣伝・教育など。女性が働きやすいように保育・学童保育など施設を増やす。
・安心して子どもを預けることの出来る施設や介護施設の充実が必要と思われる。
・女性が活躍できる職場の充実を図ること。
・共同作業意識の徹底を図るセミナー。モデル自治体やモデル企業の育成。
・地域への行政指導の徹底指導。
・男女共同参画実現のための法令や受皿としてのセンターなどの整備はされているのであるから、あとは女性へのインセンティブを待つしかないのではないか。(男性の理解は進んでいる)
・県としては、総合的な立場で市町をトップダウンではなく、ボトムアップに仕向ける必要がある。
・女性が活躍する場は、地域社会の中でも確実に広まっている。地域行政の中でも更なる支援をお願いしたい。
・行事での協力依頼を女性に積極的に行う。
・行政(特に防災、復興)の事業の実施をしていただきたい。
・立案と実行が円滑になるよう、事業を細かく分担出来るようにすれば良いかと思う。

女性・70 代以上

・防災区長等地域活動に積極的に女性の参画を推進すること。女性だからと言う考え方をなくすこと。
・お父さんの参加が少ないと思います。
・定年過ぎても、元気であれば職場に出るのが健康にも生活にも良いこと。経験を若者のために使ってみてはどうかと思う。
・男女共に定時で帰宅できる状況をつくっていく。

・働き方改革。
・男性の家事・育児に対する意識改革は力をもって進めてほしい。
・今はまだ男女平等とは言えない現状なので、スーパーの店長とか福祉など家庭生活に関わる仕事に、女性をもっと活躍させて欲しい。
・保守性がどちらかというと強い県民性だと思うので、県民の意識改革を促すような場を設ける。(例えば講演会等)
・私は高齢者です。子どもの学費の負担がなかったらお母さんたちも働くのが緩やかになると思うのです。今の世の中です。時間ある分どんどん社会に出て仕事、イベント、エトセトラ参加して知識を広めてほしい。
・女性が結婚して子育て、介護に安心できるようにしてほしい。今の働くお母さんは大変。
・海外の視察。
・この件あまり知らない人が多いような気がします。もっと広く知られるようにすれば良いと思います。
・“男女共同参画社会„アピールしすぎ。現在でも、優れている人はそれなりに男女の差なく活躍出来ていると思う。
・女性のサークルを教育などの機会を多く催してほしい。
・片寄った職種からの人材登用ではなく、広く情報収集した上での人選等に努めてほしい。教職者≠人材ではないことを知るべき。
・各分野でリーダーとなる方々の研修会といったものを企画して、名前だけでないその方なら、安心して任せられるといったような、リーダーを養成してほしい。
・地域での社会教育、コミュニケーション。
・自治会等も新しい役員は？ここに住んで６０年、世の中ずいぶん変わりましたが・・・

性別・年齢無回答
・まだまだ満足ではないかもしれませんが、母子家庭に対する支援はたくさん聞きますが、母子家庭以上に父子家庭を不憫に思うことがあります。母子同様父子家庭も生活しやすい愛媛県になることを望んでいます。 ・女性が働き続けられるように、子育て支援・介護支援を充実してほしい。

問 27　行政への要望事項

男女共同参画社会の実現のため、県や市町に対しての御要望や御意見などがありましたら、御自由にお書きください。

主な意見

男性・10 代　※なし

女性・10 代
・県が何をしているか知らない。小・中学校のうちは興味があった。小・中学校のうちに知れる環境づくりを。

男性・20 代
・待遇を良くしたりと、安心して死ぬまで生活できる愛媛県にしてほしい。

女性・20 代
・人は人。我は我。みんな自由に生きてほしい。 ・子育てをするうえでもう少し手当てがほしい。０才児の保育料が仕事をある程度しないとまかなえない。

男性・30 代
・保育園等託児施設を夜間９：００前後まで延長できるような制度にして欲しい。病児保育も拡充して欲しい。 ・男女は平等であって、どちらかを優遇するような政策を行うのは絶対にやめてほしい。 ・サービスの充実のみに努めてほしい。無駄な数値目標を民間企業に押しつけないでほしい。 ・男性の育児休暇が取りにくいので取れるように。女性は簡単に取れるのに。 ・労働時間の短縮。女性の所定内給与額のアップ。優秀な女性の管理職への登用。地域社会の活性化、育児・介護サービスの向上。 ・実現して良くなることはどんどんやってもらいたい。 ・イクメンを社会的に実行してほしい。 ・分野毎、企業毎の労働時間格差の実態把握とこれを是正するための社会としての取り組みを推進すれば女性をサポートすることができる男性も増えるのではないかと思います。

女性・30 代
・表舞台に女性が出るだけが平等とは思えず、向き・不向きがあると思うが、女性が一つのレールから外れた場合に再び同じくらいのレールに乗り直すことは皆無に等しい。レールから外れた者（入院してしまった・離婚した・子どもが小さい etc）、男女関係なくフォローされ自由に働ける環境が欲しい。「働きたい」前提があり前向きにもかかわらず民間企業からは「年齢が・入院で体が弱いか」などのレッテルが貼られ、男女平等以前に悩んでいる人のフォローアップを必要ではないか。 ・私の周りでは働きたいのに働けないという人はあまりいません。保育園にも割と希望通りに入れていると思います。勤務先では女性の上司が課長で頑張っています。ひと昔前に比べると確実に女性の社会進出は増えていると思います。個人的には現状に不満はありません。 ・大企業の誘致。 ・そんなことよりお金ばかり使わず税金などきちんと考えて欲しい。他に考えないといけない問題沢山あると思う。 ・父と子のふれあいイベントや企業で父親向けの子育てセミナーをする等、育児にどう関わっていけばよいか、男性たちが考え話し合える場。 ・男性トイレに赤ちゃんのオムツ替えシート（ベット）を置いてほしい。

・小学校の出席番号が男子から始まり次に女子になるのは時代遅れだと思う。他県から引っ越しきてびっくりした。体操服も、男女違うものでなぜ分ける必要があるのかなと思った。（同じ学校もあるのかもしれませんが）
・子育てサロンなどは育休中の人や専業主婦などが行ける場所。働く母が利用できる場所をつくって欲しい。
・女性の正社員を増やし、男性の育休を取りやすくしてください。家政婦やベビーシッター(男女共)を増やして、生活に取り入れることに対しての抵抗を減らしていったらどうでしょうか。
・仕事に復帰するために保育園を探していたが０歳児の受入が少なく、しかも年度途中だったのでなかなか決まらなかった。運良く新設の保育園に受け入れてもらえたが、もっと０歳児の受け入れを増やしてほしい。
・乳児等を預ける施設環境の充実、及び介護施設。金銭面も含め、乳児、要介護者を預けられる環境づくりを望む。
・地域、地区によるが、自治会と総代の二重構造の廃止が必要だと思う。特に男性のみで構成されている総代は自治会がある現在では必要ないのではないかと思う。性暴力を含む暴力やＤＶについて、女性から男性に対するものや、男性から男性に対するものがあると思うので、その点にも目を向けて事業や条例、法などを決定していく必要があると思う。
・私も働きたいのですが、０歳児がいるので働けません。預けようと思っても、土日はどうするかとか、子どもが病気になったら休まないといけないし…と思うと、まだしばらくは働けないかなと思います。それで主人が仕事を２つかけもちで朝から晩まで働いているので、家事、育児は全部私の仕事になります。正直、男女共同参画社会なんて、女性が絶対子どもを産まなければならない(男は産めないから)、時点で永遠に訪れない未来だと思います。
・人件費の削減を理由に正社員で勤めていた職場をパワハラ・モラハラの果てに不当解雇されましたが、該当の窓口に話をしても「次はいい所が見つかるといいですね」と言われただけでした。私が一家を支える男性だったら反応は違ったのでしょうか。いくら法律等を整備しても、市民の窓口がこれでは意味は無いかと思います。
・今の６０代位の男性は未だ女性が下というように思っているのではないのかと感じる言動を見受ける。

男性・40 代

・民間企業が融資を受けやすくすること。副業の勧め。企業間交流をやってみること。
・男女だけではなく、家庭の中で声があげられない方々、企業等の内で声が出せない状況にある方々全体に向けて支援を立ててほしい。
・実現のため行政自体が実施できているのか。
・出産・育児・介護で離職する方が多いと思うので、復職しやすい社会づくりと支援を引き続きお願いします。
・子育て、介護充実すること。(サポートの充実)
・マンネリ化していると思う、仕事をするための仕事になっている役所の限界だと思う、社会を変えたいと本当に思う人は公務員にはならないので、公務員では無理です。
・世間の考え方もいろいろなので、どれが正しいか分からないが、女性進出について啓発すべき。
・もっと周知活動をするのと企業や社会に対して男女共同参画社会の意義を徹底する。
・アピール上手な知事ですから、実務の部分で(具体的に)上手にアピールしていけたらいいと思います。
・古い考えの老人の意識を変える。
・金額的負担の軽減。
・塾などの教育費を含めた総実態を把握しているようには感じられない。お役所仕事な対策ならやるだけ無駄だと思う。
・「伝統文化」の継承。「3/3 は女の子、5/5 は男の子」では無く、それぞれの「役割」を教えて欲しい。
・特にありません。無理にすることではない。
・個々人で考え方も異なり、単に男女比で平等か否かを判断すべきではないのではないか。比率を上げることが良いとも思わない。

・今回のアンケートも本人の意図を反映できない選択肢となっている。民間での改革は現状限界があるので、法規制などで強制力を持たせないと変わらないのではと思う。

女性・40 代

・仕事をしている男性が家庭への協力をしたくても、職場環境が全く理解をしていない。地域柄なのかそういう取組が、とても多くこのままでは何も変わっていかないと思う。
・男性用トイレにもオムツ換えのスペースができるとよい。現在、授乳室とオムツ換えスペースが一緒の箇所が多いので男性はなかなか入りにくいと思う。
・県内の高校でもお弁当をやめて、すべて給食または配食サービスの利用ができるようにし、毎日のお弁当を作る手間から解放と睡眠時間の確保ができるようにしてほしい。
・女性の仕事とされていた子育ては、母親が愛情をもって十分力を注いでやるのが理想だと思う。民間や地域の力を使って育児されても、いい子が育つとは思えない。
・現在子どもが通っている小中学校では、出席番号は男子が先、女子が後です。これまで、県外の学校を何カ所か転校しましたが、これまでの学校は全て男女混合でした。愛媛県に引っ越してきて子どもたちの人間関係は県外にいたときと比べて男女がくっきり別れているように思いました。小さい時から男女の分け隔てなく学校生活を送れているともっとお互いが抵抗なく仲良くできるのではないかと思いました。今は、男女別の出席番号が少なくなってきていること認識していただけたらと思います。
・社会進出やリーダーを出すことだけが男女共同参画ではないと思う。企画を担当している人は、自身の家庭、地域における、女性は男性の、男性は女性の役割や働きを見つめ直し、自身の家庭、地域に積極的に参加してほしい。
・政治家に女性を増やして形だけの平等にするのではなく、女性もしっかりと意見が言え、男女関係なく仕事できる環境をつくってほしい。特にご年配の方の差別は強いと思う。
・広報活動を周知する。知らないことがたくさんある。
・中学・高校生のインフルエンザ予防接種料の負担軽減。
・男女平等、同権利というのは、すべてにおいて正しいとは思わない。性差や個人差をもっと大きく見て物事をすすめるべき。大切なのは、性別ではなく、すべて個人である。個人をみて個人に必要な支援をとどけることが大切。又、少しは、地域性や国民性を残すと良い。でないと文化がすたれてしまうと思う。文化も立派な人間の財産であると思う。
・児童クラブの時間が短すぎるので改善してほしい。
・男女共同参画という言葉を普段の生活の中であまり耳にしないので、この言葉の意味も含め、もっと広く認識するべきだと思います。特に男性の方に知ってほしいと思いました。
・議員の方々の差別的発言・行動を黙認している。
・期待していない。あまり変わっていないので、学校教育にもっと力を入れて欲しい。
・老人介護施設の充実。介護度が軽くても年金で賄えるような施設をつくって欲しい。個人負担の軽減。

男性・50 代

・“男女共同参画社会”という言葉の意味がわかりにくい。わかりやすい言葉に変えられないのだろうか。
・何をしているかわからない。
・男とか女とか執着しないことだと思う。男女共に一部の問題では、寛容も必要ではないかと思いますが。
・子育て支援制度の充実。学校教育での男女共同参画社会実現の必要性の説明と PR 活動。
・男女平等の理念で経営をしている優良企業を多く誘致して雇用を増やし、何事にも男女共同参画のしやすい土壌をつくる。
・2,000 人程度の調査が妥当であるか疑問である。
・「性差」を無視し、何でもかんでも「平等」という風潮になると、社会はいびつに変わってしまうと思う。マルチタスクのできる、できないという脳科学に基づいた議論もあって、然るべきだと思う。男女、それぞれの「良さ」を前面に押し出せる社会をつくっていけたらいいと思う。
・国が積極的に動かないといけないと思います。

女性・50 代
・男女の脳の作りが違うので性格も考え方も違うから歩み寄るのは厳しいこともあるのでしょうが、やはり双方が意見を話し合い、歩み寄り協力することだと思う。固定観念を払しょくしていくことも時には大事でしょう。 ・組織内で管理職登用を形骸化するのではなく、入社してからしっかりと人材育成を計画的に行い女性の能力を最大限に発揮し、市民に還元できる県、市であってほしい。 ・夜（仕事が終る）までの、保育が可能な施設と介護が可能な施設の充実。他県他市からの転入希望者が増える位のサービス（幼児～高校まで無料など） ・本当に困った時（勤務中に子どもが体調不良になっても仕事をぬけられない時など）例えば夜とか夜中とかすみやかに対応してくれる所や子どもをむかえにいき、何時間か面倒をみてくれるとかあればよいと思います。 ・男女平等というが、女性のみ得意の料理・子育てとかそれを仕事として活かしたり、新しい事業を育ててほしい。 ・長寿になってきたので５０代、６０代での社会進出を応援してほしい。 ・いつまでも古い考え方でこんなアンケートをしても何もかわらないのにこんな手間をかけさせるのにイラッとくる。これはやってますアピールのためでしょうか。ムダなアンケートは本当にムダと思います。・町議、市議、県議の教育が必要。 ・子どもの虐待死は早く行政が動くことを、お願いしたいです。 ・男性（特に 50 歳後半以降）の意識改革が心配に感じます。まだまだ男が仕事して、女を食べさせていると思いこんでいる。 ・女性への子育て・家事のサポートがなければ無理だと思います。家庭に入りたい女性もおられるとは思いますが男性の収入だけで生活出来るのはごく一部だと思います。 ・相談窓口の拡充。 ・企業に対するセミナーや働きかけをしない限り、何も変わらないので、企業の考え方をかえるアプローチをしてほしい。 ・県や市町というと融通がきかないとか堅苦しいイメージがある。親しみやすさ、柔軟さがほしい。 ・中小企業や末端の庶民の意見や現実を理解し、行政が行おうとする色々なことの矛盾点に気づいて欲しい。 ・子どもの数が多いほど、地域や幼稚園、学校で、役員を引き受けなければならず、結局、仕事したくても、パートしかできなかった。子どもが各々大学生・高校生になった時、経済的にどん底を味わった。今の愛媛県に住んで子育てするなら、子どもは一人でないと、正社員は難しい、とつくづく思ったものです。 ・何事にも男女平等をうたわないでそれぞれ適切な仕事があるので、柔軟に対応すればよい。ただ出産直後の女性の役割は大きいと思うので、社会が子育て支援を強化してもらいたい。そして、働くか働かないかは個人（各家庭）の自由なので、専業主婦（夫）が安心して家庭で子育てが出来るのが一番いい環境作りだと思う。 ・関係機関が連携強化し、県民・市民の意見を本当に心から聞いて下さい。

男性・60 代
・民間企業の労働者の現況を調査し、経営者に対し、男女共同参画社会が容易に実現出来るよう、指導を図る。 ・県・市から結婚祝金や出産祝金を支給し、人口の減少や流出を防ぐための対策を講じる。 ・共働き家族への夕食サービス施設。（予約制可） ・特に民間企業においては、女性は男性に比べ給料が安いから、その差額を税金から補てんすれば。 ・とにかく、強制的に女性進出を進めないと進展は困難である。一時的に抵抗があっても強制的に進めるべきである。 ・モデル推進事業者の公表(ネットや広報誌)県や市町の組織内で具体的に取り組んでいる事例を公表し、公務員の組織内での比較をオープンに。

・政策を実現するため財源は、所得税の累進課税率を高め、企業の社内保留金を本来支払うべき社員や下請企業に還流すべきである。還流させれば所得税・年金支払い額も上昇するはずである。
・もっと思いやりや気配りをみせてほしい。
・財政力を上げる。それが無ければ何も出来ない。老若男女一団となって財政力を上げよう。
・広く多くのことを現実、実情を現場主義で物事を決めて行くことだと思います。最終的には、見識者をまじえて、行政と県民で行って下さい。
・病気等の仕事の理解、経済的な補助をもっと充実して欲しい。

女性・60 代

・愛媛県では基本給が低い、しかし女性が家庭に入ってしまうのは、仕事がないのか、働くよりも家庭で育児をすることが楽しいのか、それとも預けられないのか気になります。
・女性の県議会議員、市町村議会議員を議員数の半数にする。
・やはりまだ女性が活躍する場が少ないのではないかと感じています。若い方がこれから充分働ける職場と会社の理解があればよくなると思う。・子育てや介護を女性だけにさせないようにできるだけしてもらいたいです。
・県が男女平等、子育てで何らかの形で会社と連結し給料にプラスするようにすればもっと家庭が安定するのでは。
・北欧などのように県や市などの議員の男女比も同数と決めれば、それに向けて準備せざるを得なくなるのではと思います。
・こんなに長い間働くとは思っていませんでした。従業員全員年配です。パワハラもセクハラもありません。この年になってもフルタイムで働いていることが元気の秘訣だと思っています。まず健康だと思っております。心も体も。
・人口減少に歯止め、老後の生活の不安をなくし安定を願います。
・身近な市の職員の言葉づかいや態度が、理解出来ないことがあります。まずはそこから考え直してほしいです。
・不妊治療の助成金の額の見直し。
・地域に行事がある場合、いつも決まった女性団体の役員がお手伝いをすることとなり、負担が大きくなっている気がします。役員の引き受け手がなく、ジリ貧となりつつあります。若い人の役員のなり手がなく、いい案がありましたら、一緒に考えて頂きたいです。
・県、市などの役員の男女の比率(の目標）を提案するなどしてもらえたら、考え直すように感じる。男女の平等な活動という考え方を持っていない方がまだって活動している間は実現が難しい。→地域活動の男女のバランス、意見の発表など。
・個人情報保護法のため、町内会でもつっこんで仕事（役）がしにくい。
・男女共同参画社会の実現といっても、大変だと思いますが、実現できることから、小さなことでも進めていってほしいと思います。
・男性の育児に県は協力的だとお聞きしていますが、まだまだ職場での同僚の言動が冷たいようです。ご指導よろしくお願い致します。
・講習会（勉強会）を度々実施してほしい。

男性・70 代以上

・女性の課長、部長、局長を多くすること。
・色々な面でもっとこのことについて PR し、参画意識の高揚が必要である。
・まず県、市職員が地域生活で見本を示してほしい。
・住民に言われたらシッカリと実行すること。
・職員採用の男女比率を大幅に平等にする。
・自治会の活動を女性に依頼する。
・男女の労働条件を統一し、パートをなくし全員正社員にすることにより男女平等に近づくと思う。

・女性の共同参画意欲を高めるには、草の根レベルの啓豪が必要であるから各市町村の町内会レベルでの、女性対象の動機づけとしての講習会を開催するなどの工夫も必要と思われる。（男性の理解は進んでいる）
・自治会役員、婦人会役員、ＰＴＡの話す会を市等がまず始める。
・未来を見すえて、立案されるよう願う。

女性・70 代以上

・リタイアしたら働きたく無いという方と、使っていただけるならまだやれると喜ぶ方とあると思う。人手が少なく、困っている企業沢山あるけど、年齢が…とは言ってはいけないと思います。働きたい人々がたくさんいます。
・「男女共同参画について」内容を市報に載せて下さい。
・男女共同は、少しずつ良くなってはいますが、特に、出産した女性は正規雇用が少なく、夫と離別して途方にくれる位辛い思いをしています。そんな女性を優遇できる制度が欲しい。まわりに苦しい人がいっぱいいます。これがないと、平等とは言えないと思います。
・みんな一人一人が主役、その場でいきいきと思うとおりの仕事が出来たら楽しいと思います。
・働く女性が結婚しても安心して、子どもを産むことができる病院が近くにあるように子育てが出来る社会になることを希望します。
・男の人が、家事をするようになった、方法とかをコントマンガでもいいから、作ってください。
・元気な内は働きたいのでそういう場所があれば。
・強調しないこと。
・市報などで、チラシでしっかり広報してほしい。
・意義や活動等、もっと多く知ることができたらよい。
・人としてあたり前のことを説く機会を増やし、見直す工夫等を考えていけばと思う。
・家の近くに特別養護老人ホームをお願いします。
・男性が少し優位の方が願望です。そうでないと日本古来の姿(良さ)が失われます。男性の方が体力もあり、知的な能力も女性より優れていると思います。
・若い母親が子育て中でも再就職早急にできますように念じます。

性別・年齢無回答

・まだまだ男性社会と感じますが、女性に活躍していただきたい反面、女性は気持ちのムラが多い気がします。（ホルモンのバランス上）私自身も、何でもない時イライラしてしまったりします。パイロットに女性が居ないのが良い例だと思います。男性でも女性でも感情私情に流されない方に、代表になっていただきたいです。

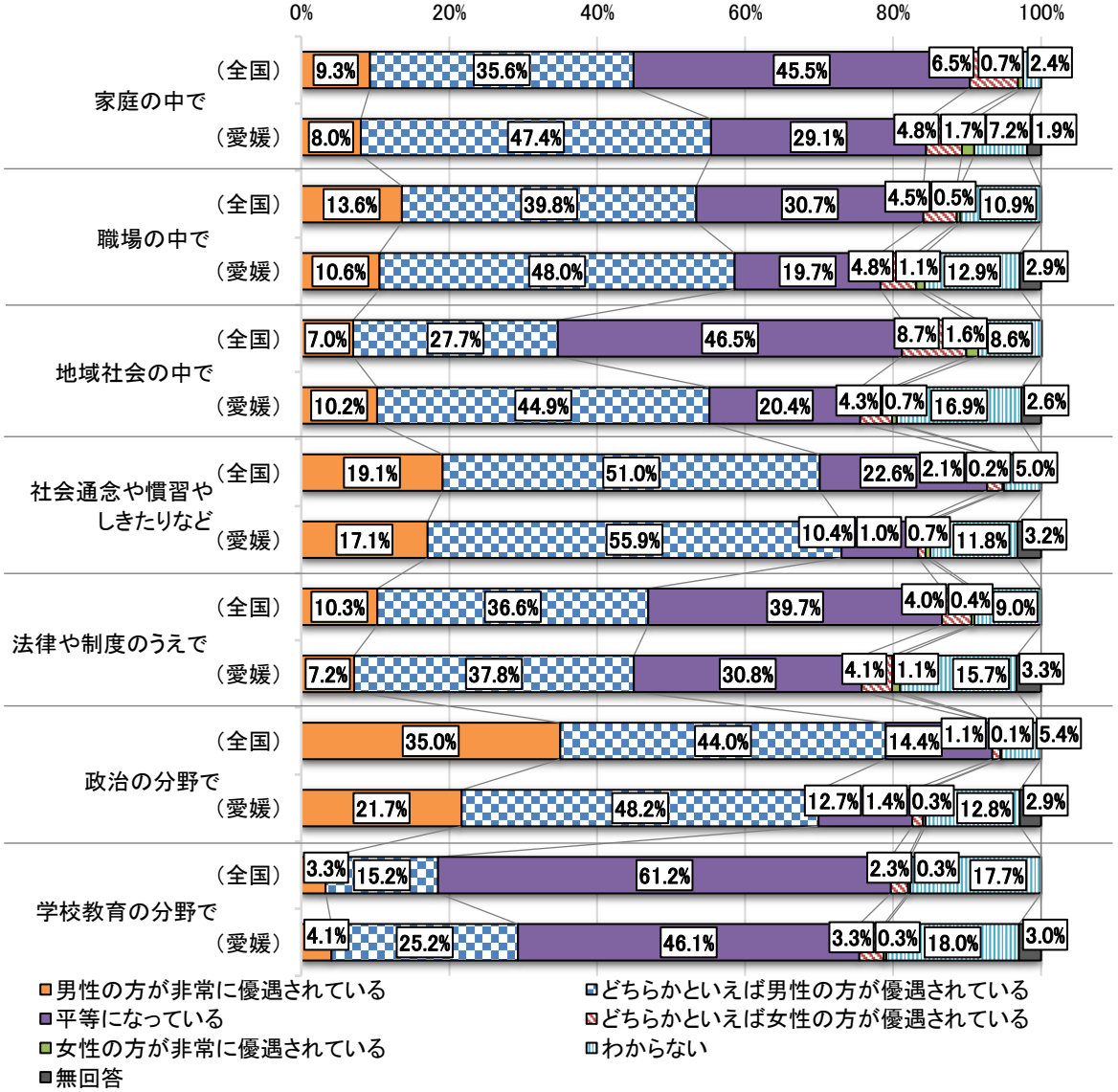
Ⅳ 国の調査との比較

問２　男女の地位の平等感

あなたは、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。アからキのそれぞれの分野について、該当するものを一つ選んで番号を〇で囲んでください。

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年９月）」で全国調査の数値と比較すると、「平等になっている」と回答した者の割合は、全ての分野で全国調査より下回っている。

また、「男性の方が優遇されている」と回答した者（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の割合は、「法律や制度」、「政治」を除き、全国調査より上回っている。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年９月）より。（「地域社会の中で」は、内閣府調査では、「自治会やＰＴＡなど地域活動の場」。）

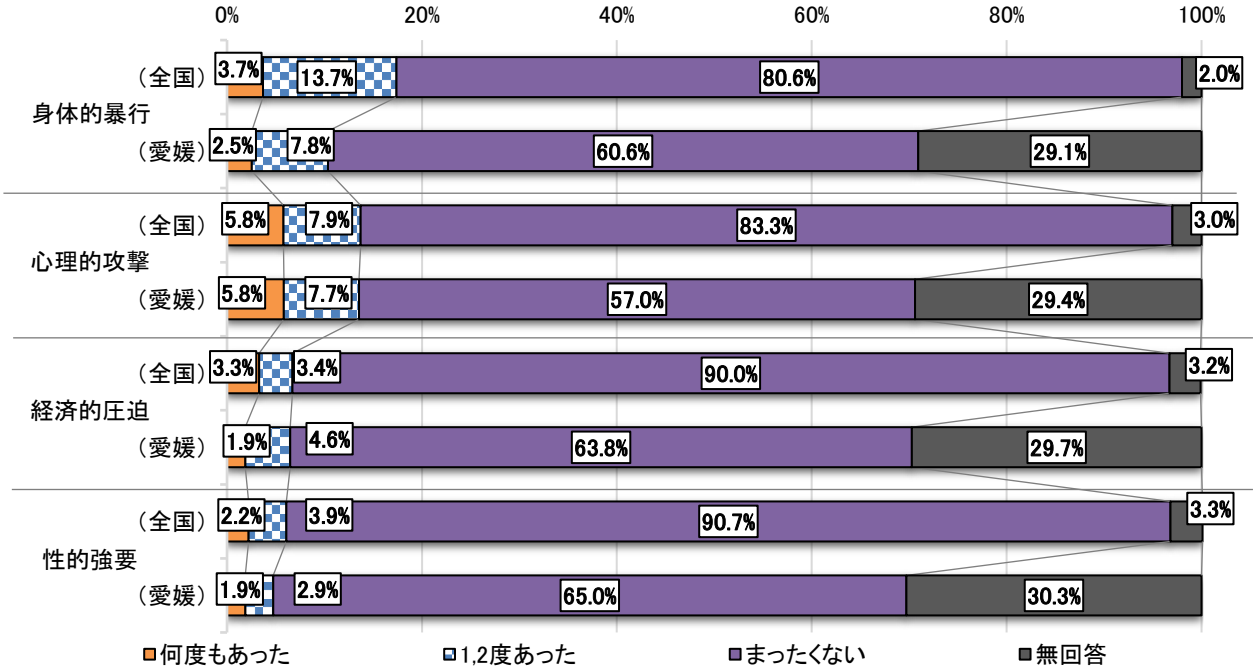
問５　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

（現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方へ）

あなたはこれまでに、あなたの夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手から、次のような行為をうけたり、されたことがありますか。次のアからエのそれぞれについて、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

（「無回答」には、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む）

内閣府「男女間における暴力に関する調査票（平成 29 年 12 月）」で全国調査の数値と比較すると、「身体的暴行」の経験がある」と回答した者（「何度もあった」と「１、２度あった」の合計）の割合は、全国調査より 7.1 ポイント下回っている。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査票」（平成 29 年 12 月）より

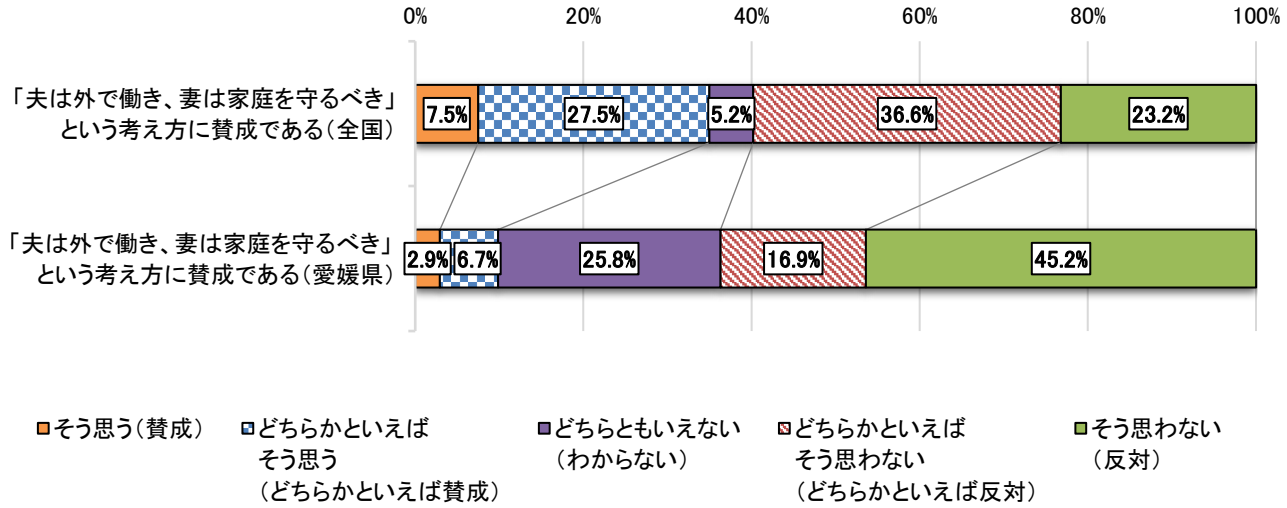
※　全国調査の調査対象は「全国 20 歳以上の男女」、愛媛県調査の調査対象は「18 歳以上の県内在住者」となっている。

※　全国調査ではこれまで結婚をしたことのある人に聞いており、愛媛県調査では、「現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる人」という条件を付し、「無回答」には、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む。

問９　結婚、家庭、離婚についての意見

結婚、家庭、離婚について、あなたの御意見をお伺いします。アからオまでの各項目ごとに「そう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」など五つの選択肢の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年９月）」で全国調査の数値と比較すると、「そう思わない（反対）」と回答した者（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）の割合は、全国調査より 2.3 ポイント上回っている。



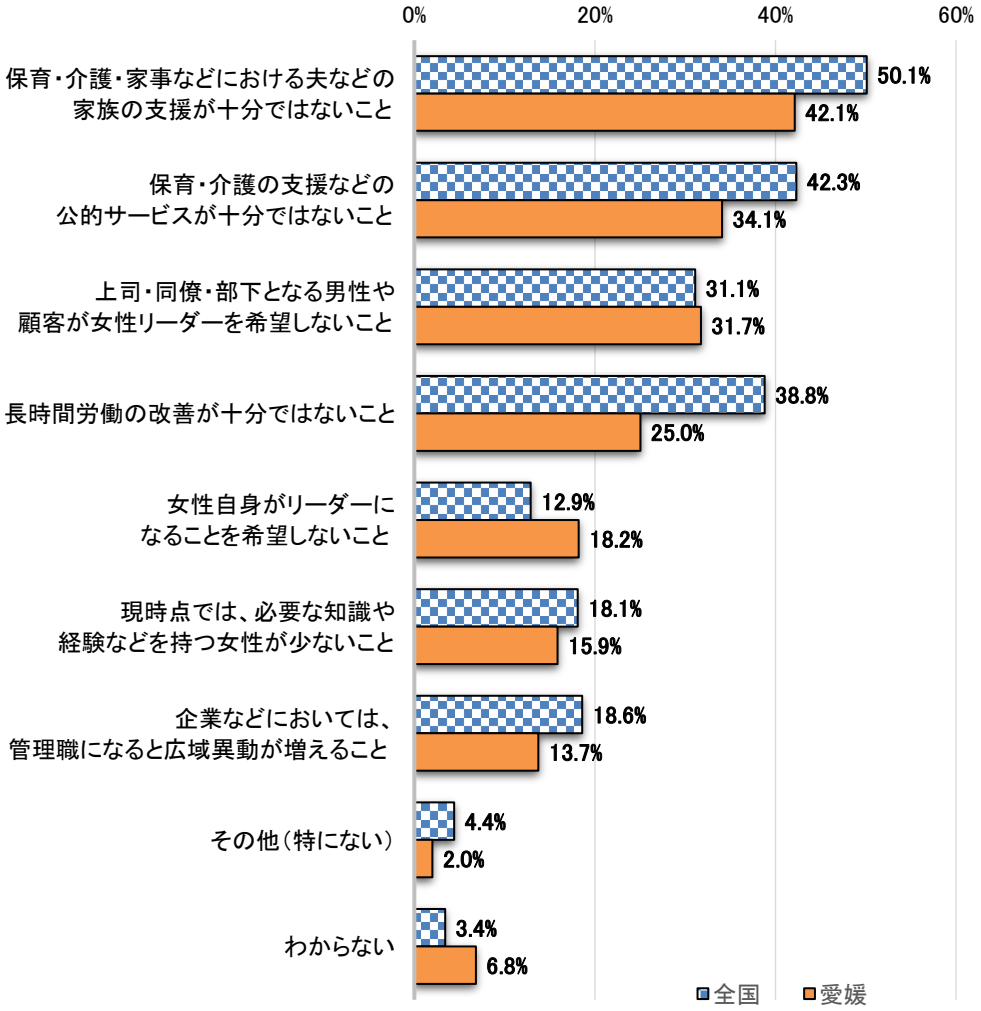
※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年９月）より。

※　全国調査の選択肢は、「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「反対」、「わからない」となっている。愛媛県調査の選択肢は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらともいえない」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」となっている。

問 13　女性リーダーを増やすときの障がい

政治・経済・地域・家庭などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障がいになるものは何だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを二つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

内閣府「女性活躍推進に関する世論調査（平成 26 年 8 月）」で全国調査の数値と比較すると、回答の差が 5.0 ポイントを超えるもののうち、全国調査の方が高くなっているものは、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」となっている。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「女性活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年 8 月）より

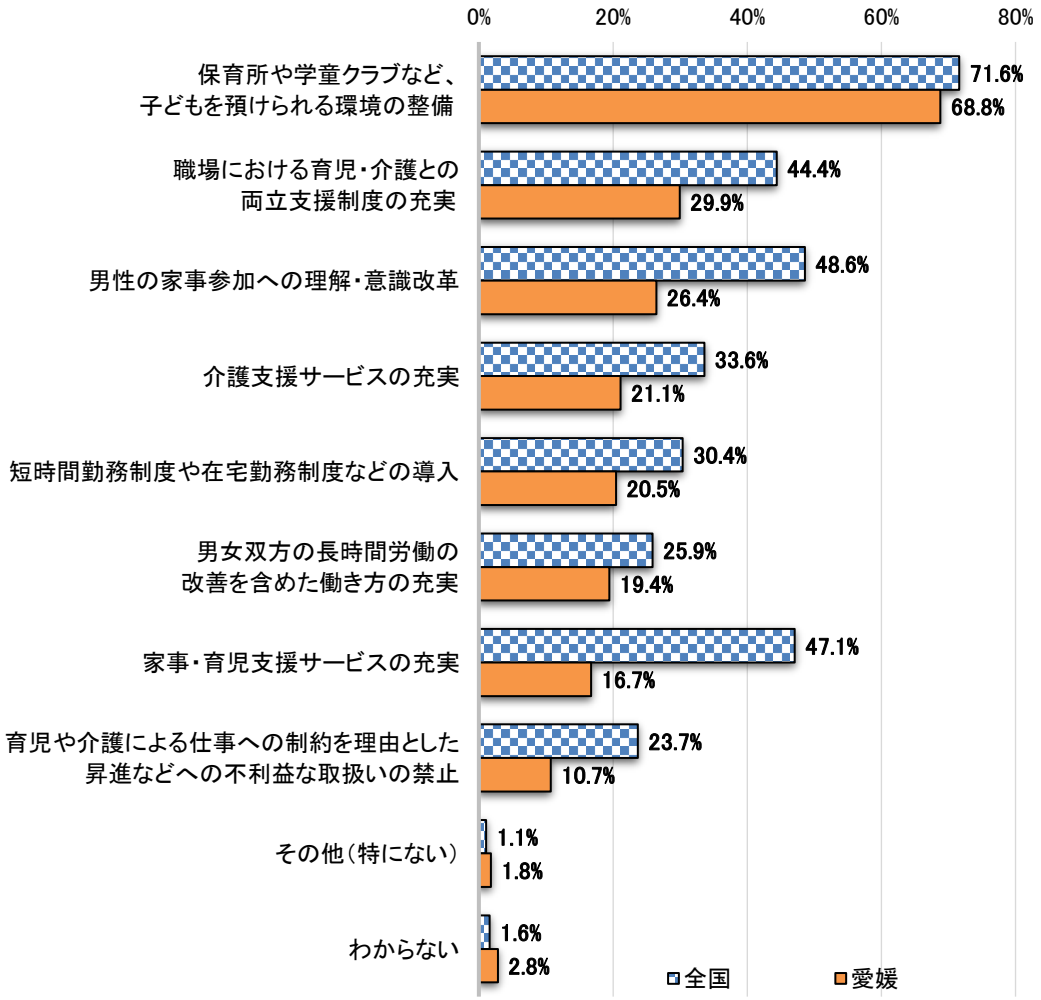
※　全国調査の回答は「いくつでも」、愛媛県調査の回答は「2 つまで」となっている。

※　全国調査の調査対象は「全国 20 歳以上の日本国籍を有する者」、愛媛県調査の調査対象は「18 歳以上の県内在住者」となっている。

問21　出産後働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこと

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

内閣府「女性活躍推進に関する世論調査（平成 26 年 8 月）」で全国調査の数値と比較すると、全ての項目で全国調査より下回っている。中でも、「家事・育児支援サービスの充実」（30.4 ポイント）、「男性の家事参加への理解・意識改革」（22.2 ポイント）は全国調査との差が大きい。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「女性活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年 8 月）より

※　全国調査の回答は「いくつでも」、愛媛県調査の回答は「3 つまで」となっている。

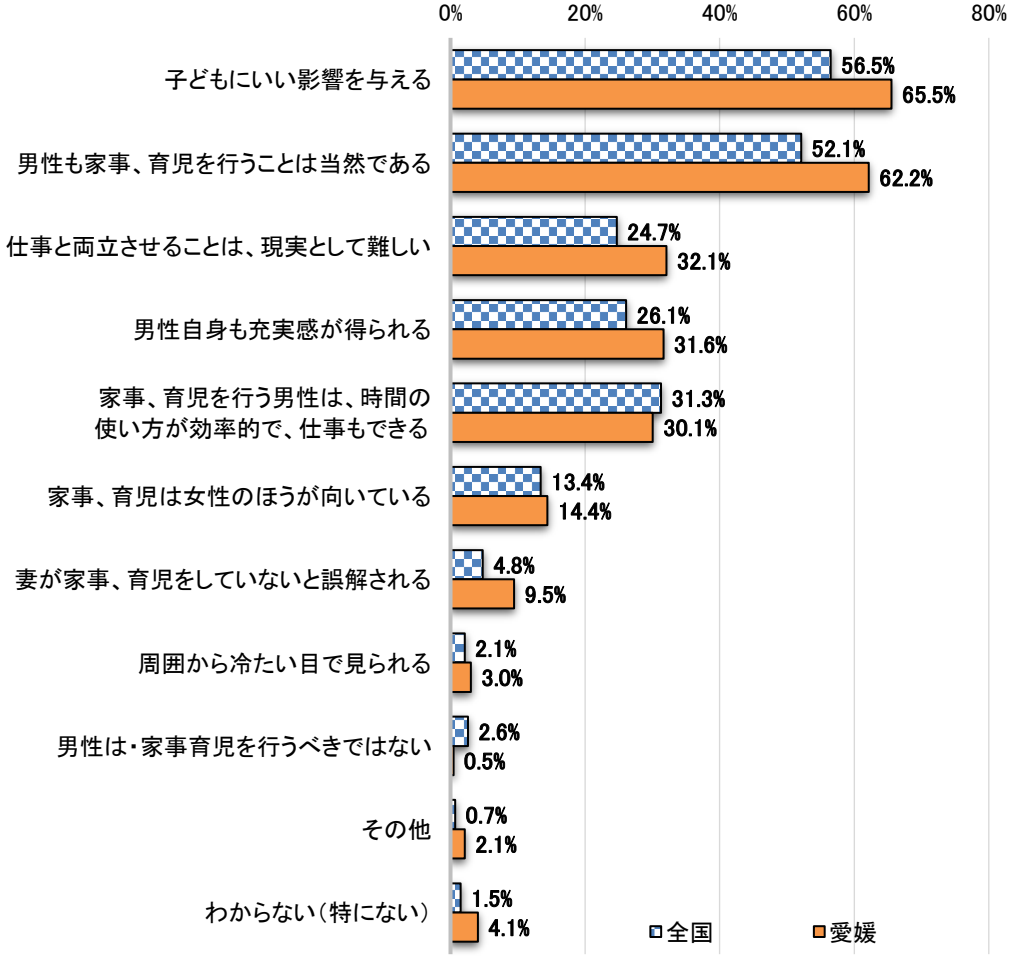
※　全国調査の調査対象は「全国 20 歳以上の日本国籍を有する者」、愛媛県調査の調査対象は「18 歳以上の県内在住者」となっている。

問 22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ

あなたは、男性が家事、育児を行うことについて、どのようなイメージを持っていますか。次の中から三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

【全国との比較】問 22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ

内閣府「女性活躍推進に関する世論調査（平成 26 年 8 月）」で全国調査の数値と比較すると、「家事、育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」を除き、全国調査との差が大きい。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「女性活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年 8 月）より

※　全国調査の回答は「いくつでも」、愛媛県調査の回答は「3 つまで」となっている。

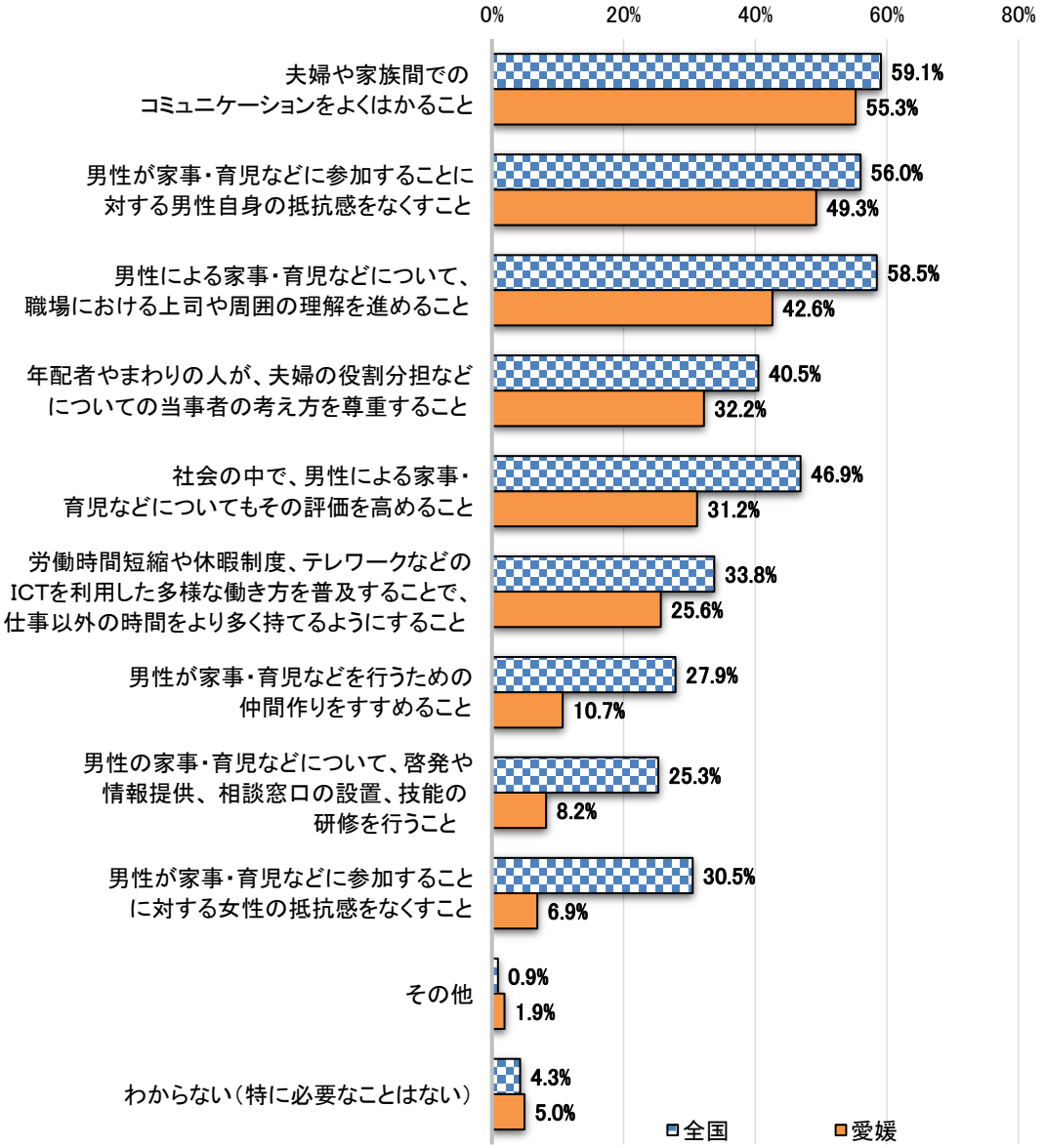
※　全国調査の調査対象は「全国 20 歳以上の日本国籍を有する者」、愛媛県調査の調査対象は「18 歳以上の県内在住者」となっている。

問 23　男性の家事等への参加に必要な条件

今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

【全国との比較】問 23　男性の家事等への参加に必要な条件

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年９月）」で全国調査の数値と比較すると、全ての項目で全国調査より下回っている。「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」（23.6 ポイント）が最も全国調査との差が大きい。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年９月）より

※　全国調査の回答は「いくつでも」、愛媛県調査の回答は「３つまで」となっている。

問 24　生活の中での優先順

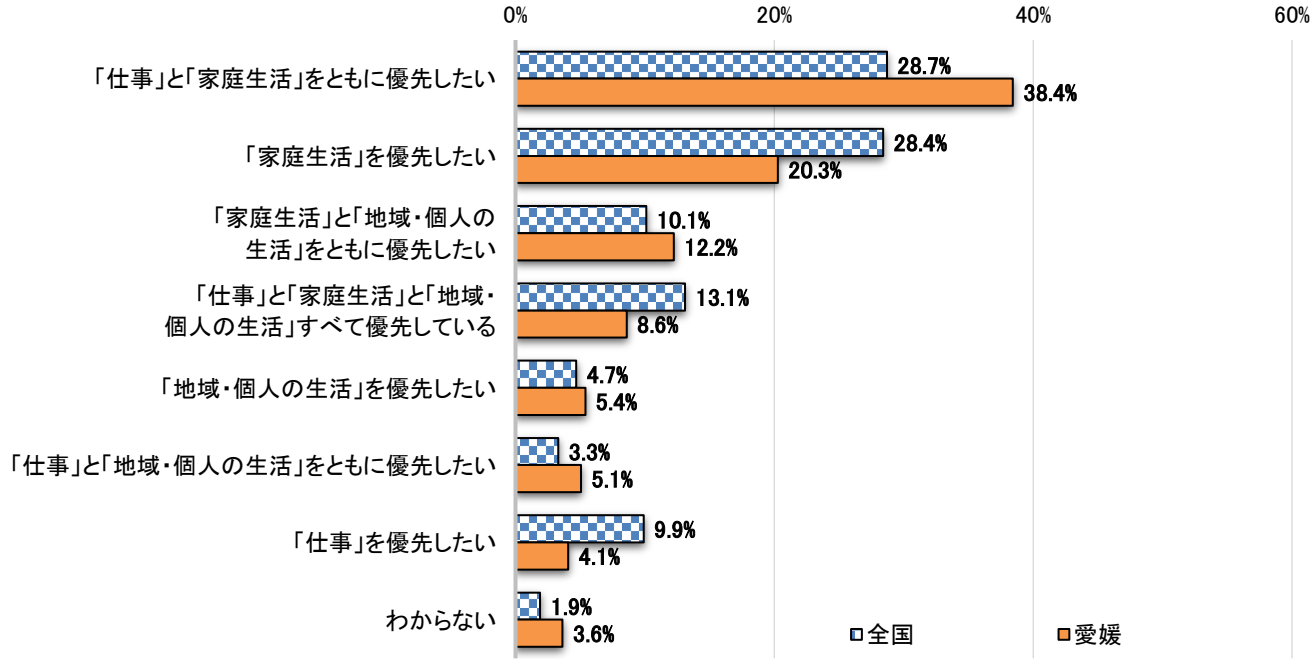
生活の中での「仕事」「家庭生活」地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先順についてお伺いします。(１)、(２)について、それぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

（１）あなたの希望に最も近いものについて

（２）あなたの現実・現状に最も近いものについて

（１）あなたの希望に最も近いものについて

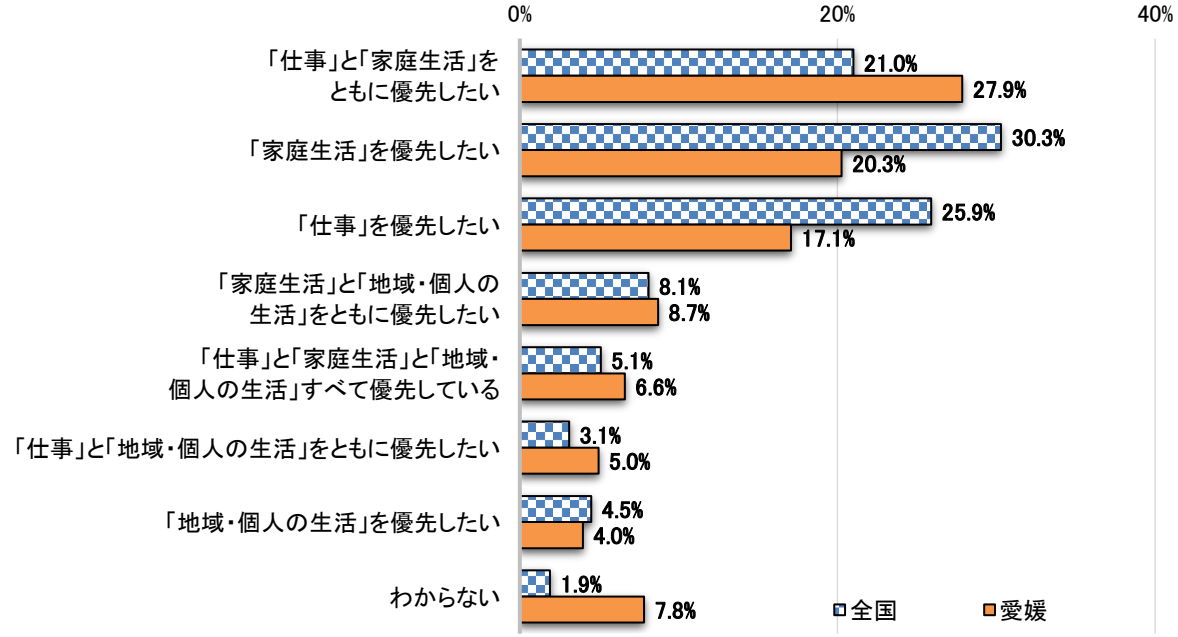
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年９月）」で全国調査の数値と比較すると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と回答した者の割合で、全国調査より 9.7 ポイント上回っており、「「家庭生活」を優先したい」と回答した者の割合では、全国調査より 8.1 ポイント下回っている。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年９月）より

（２）あなたの現実・現状に最も近いものについて

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年９月）」で全国調査の数値と比較すると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と回答した者の割合で、全国調査より 6.9 ポイント上回っており、「「家庭生活」を優先したい」と回答した者の割合では、全国調査より 10.0 ポイント下回っている。



※　全国調査の数値は、内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年９月）より

調査票

問１　男女共同参画に関する認知度

あなたは、これらの言葉を御存知ですか。アからコのそれぞれの言葉について、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

言　葉	よく知っている	知っている	言葉くらいは聞いたことがある	知らない	無回答
ア　男女共同参画社会	6.9%	34.0%	34.1%	23.9%	1.0%
イ　女性活躍推進法	2.1%	15.9%	38.1%	41.4%	2.5%
ウ　愛媛県男女共同参画推進条例	0.9%	7.4%	28.6%	60.6%	2.5%
エ　愛媛県男女共同参画推進委員制度・苦情処理機関	0.8%	4.1%	19.8%	72.9%	2.4%
オ　愛媛県男女共同参画センター	2.5%	15.2%	29.0%	50.9%	2.4%
カ　配偶者暴力相談支援センター	2.1%	17.0%	35.7%	42.7%	2.5%
キ　えひめ性暴力被害者支援センター	1.5%	14.0%	34.0%	47.7%	2.8%
ク　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	7.9%	22.4%	26.9%	39.8%	3.1%
ケ　ドメスティック・バイオレンス（DV）	22.9%	57.3%	11.3%	6.4%	2.1%
コ　デート DV（交際相手からの DV）	14.3%	42.8%	20.6%	19.7%	2.5%

問２　男女の地位の平等感

あなたは、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。アからキのそれぞれの分野について、該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
ア　家庭の中で	8.0%	47.4%	29.1%	4.8%	1.7%	7.2%	1.9%
イ　職場の中で	10.6%	48.0%	19.7%	4.8%	1.1%	12.9%	2.9%
ウ　地域社会の中で（町内会、自治会など）	10.2%	44.9%	20.4%	4.3%	0.7%	16.9%	2.6%
エ　社会通念や慣習やしきたりなど	17.1%	55.9%	10.4%	1.0%	0.7%	11.8%	3.2%
オ　法律や制度のうえで	7.2%	37.8%	30.8%	4.1%	1.1%	15.7%	3.3%
カ　政治の分野で	21.7%	48.2%	12.7%	1.4%	0.3%	12.8%	2.9%
キ　学校教育の分野で	4.1%	25.2%	46.1%	3.3%	0.3%	18.0%	3.0%

問３　性別を理由に人権が守られていないと思う事項

性別を理由に人権が守られていないと思うのは、どのような場合だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から、三つまで選んで番号を○で囲んでください。（複数回答）

1	就職先の制限や職場での待遇の違い(賃金などの労働条件で男女格差がある等)	51.8%
2	職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	32.6%
3	ドメスティック・バイオレンス(配偶者間、共同生活中の交際相手からの暴力など)	26.6%
4	男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」など)を他の人に押しつけること	51.5%
5	ヌード写真など、「性」を商品化した雑誌や広告などが使われる	18.3%
6	売春、買春	18.0%
7	「女子アナ」「女医」といった女性にだけ用いられる表現が存在する	13.7%
8	ミス・コンテストなど外見や若さのみで評価される	14.1%
9	その他	1.9%
10	特にない	9.2%
11	わからない	10.9%
	無回答	1.8%

問４　女性に対する暴力をなくすための方策

女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。あなたのお考えに近いものを三つまで選んで番号を○で囲んでください。（複数回答）

1	法律・制度の制定や見直しを行う	39.5%
2	犯罪の取締りを強化する	37.4%
3	捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害女性が届けやすいようにする	36.6%
4	被害女性を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	5.7%
5	被害女性のための相談所や保護施設を整備する	37.1%
6	家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	16.6%
7	学校における男女平等や性についての教育を充実させる	31.8%
8	新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアが倫理規定を強化する	14.2%
9	過激な内容のDVD、ゲームソフト、インターネット映像等の販売、貸出や配信を制限する	21.9%
10	ドメスティック・バイオレンス（DV）被害者に対する支援体制を強化する	20.0%
11	その他	2.6%
12	特に対策の必要はない	0.8%
13	わからない	6.9%
	無回答	1.6%

問５　夫婦間、生活の本拠を共にする交際相手の暴力の有無

（現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方へ）

あなたはこれまでに、あなたの夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手から、次のような行為をうけたり、されたことがありますか。次のアからエのそれぞれについて、該当するものを一つ選んで番号を〇で囲んでください。

	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
ア　身体的暴行 （例:なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）	2.5%	7.8%	60.6%	29.1%
イ　心理的攻撃 （例:人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないか恐怖を感じるような脅迫）	5.8%	7.7%	57.0%	29.4%
ウ　経済的圧迫 （例:給料や貯金を勝手に使われる、生活費を渡さない、デート代や生活費を無理やり払わされるなど）	1.9%	4.6%	63.8%	29.7%
エ　性的強要 （例:嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ画像を見せられる、避妊に協力しないなど）	1.9%	2.9%	65.0%	30.3%

（「無回答」には、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む）

問６　暴力を受けた場合の相談先

(問５のうち、一つでも１、２とお答えになった方に)

あなたは、これまでに、問５であげたような夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。当てはまるものすべてに〇をつけてください。（複数回答）

1	警察に連絡・相談した	2.2%
2	人権擁護委員に相談した(法務局、地方法務局の人権相談窓口を含む)	0.6%
3	配偶者暴力相談支援センター(県男女共同参画センター、県福祉総合支援センター、新居浜市配偶者暴力相談支援センター)に相談した	1.7%
4	えひめ性暴力被害者支援センターに相談した	0.0%
5	その他の公的な機関に相談した	2.8%
6	民間の機関(弁護士会、NPOなど)に相談した	1.7%
7	医師に相談した	1.1%
8	家族に相談した	28.1%
9	友人・知人に相談した	39.3%
10	どこ(だれ)にも相談しなかった	45.5%
11	その他	4.5%
	無回答	2.8%

問７　メディアにおける性や暴力の表現

新聞、ラジオ、テレビやインターネット等のメディアにおける性や暴力の表現について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを次の中から二つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	25.6%
2	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	32.9%
3	女性に対する犯罪を助長するおそれがある	17.8%
4	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	37.2%
5	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	20.5%
6	その他	1.6%
7	特に問題はない	12.4%
8	わからない	15.7%
	無回答	2.7%

問８　行政が力を入れるべき事項

男女共同参画社会を形成していくために、今後行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	27.7%
2	女性を政策決定の場に積極的に登用する	20.2%
3	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する	17.4%
4	地域の組織や団体の女性リーダーの育成を支援する	12.9%
5	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	12.0%
6	従来、女性が少なかった分野（研究職、防災関係など）への女性の進出を支援する	10.2%
7	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	30.9%
8	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	26.8%
9	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	24.4%
10	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	38.0%
11	子育てや介護中などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	28.1%
12	男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	9.0%
13	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	7.1%
14	その他	1.5%
15	わからない	6.3%
	無回答	1.9%

問９　結婚、家庭、離婚についての意見

結婚、家庭、離婚について、あなたの御意見をお伺いします。アからオまでの各項目ごとに「そう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」など五つの選択肢の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
ア　結婚は個人の自由であるから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい	45.6%	21.0%	17.4%	8.0%	5.9%	2.0%
イ　夫婦が別姓を名乗るのを認めた方がよい	15.2%	15.7%	35.5%	12.4%	18.2%	3.0%
ウ「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成である	2.9%	6.7%	25.8%	16.9%	45.2%	2.6%
エ　仕事を持っている場合でも、家事・育児は女性がする方がよい	2.8%	9.4%	20.8%	18.1%	46.4%	2.6%
オ　一般に今の社会では離婚すると女性の方が不利である	26.4%	28.7%	25.8%	6.5%	10.1%	2.4%

問１０　子どもに受けさせたい教育

あなたは自分の子どもに対して、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。自分の子どもが男の子の場合と女の子の場合ごとに、それぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

(子どものいない方や既に子どもが社会人になっている方は、仮に、これから教育を受ける子どもがいるとしてお考えください。)

	高校まで	専門学校まで	短大・高等専門学校まで	四年制大学まで（六年制を含む）	大学院まで	子ども次第	その他・わからない	無回答
ア　男の子の場合	2.5%	1.2%	2.1%	40.9%	3.2%	45.7%	1.8%	2.6%
イ　女の子の場合	3.0%	2.6%	6.7%	33.6%	2.0%	46.8%	1.8%	3.5%

問１１　教育に対する意識

教育について、次のような考え方をどう思われますか。アからオのそれぞれの項目について該当するものをそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
ア　男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけるのがよい	15.1%	29.4%	27.1%	10.6%	15.2%	2.6%
イ　性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい	59.0%	30.8%	5.7%	1.3%	0.9%	2.3%
ウ　学校で出席簿の順番など「男子が先」という習慣をなくした方がよい	23.0%	12.9%	43.8%	6.6%	9.9%	3.7%
エ　女性は文系、男性は理系の分野が向いている	0.6%	3.3%	31.9%	9.5%	51.2%	3.5%
オ　知的な能力は、性別による差よりも個人差の方が大きい	60.1%	22.0%	9.5%	1.3%	3.1%	4.0%

問 12　女性がもっとついた方がよい役職や公職

あなたは、次にあげるような役職や公職に女性が「もっとついた方がよい」と思いますか。アからカの項目ごとに、次の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	そう思う	そう思わない	わからない	無回答
ア　町内会長、自治会長	42.0%	22.6%	32.0%	3.4%
イ　PTA会長	45.9%	20.0%	30.0%	4.1%
ウ　職場の管理職	59.3%	15.0%	21.5%	4.3%
エ　県や市町の審議会委員	59.3%	11.7%	25.4%	3.6%
オ　知事や市町長	55.2%	15.6%	25.3%	3.9%
カ　国、県、市町の議会議員	63.2%	11.8%	21.8%	3.2%

問 13　女性リーダーを増やすときの障がい

政治・経済・地域・家庭などの各分野で、女性のリーダーを増やすときに障がいになるものは何だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを二つまで選んで番号を○で囲んでください。（複数回答）

1	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	31.7%
2	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	15.9%
3	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	18.2%
4	長時間労働の改善が十分ではないこと	25.0%
5	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	13.7%
6	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	42.1%
7	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	34.1%
8	その他	2.0%
9	わからない	6.8%
	無回答	1.5%

問 14　ポジティブ・アクションに対する考え方

「意思決定の場等における男女間の格差を改善するため、有能な女性を積極的に役職等に登用するなど、特別な措置を講じる必要がある。」という考え方（ポジティブ・アクション）がありますが、あなたはこのことについてどうお考えでしょうか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	そう思う	30.1%
2	どちらかといえばそう思う	37.6%
3	どちらともいえない	24.1%
4	どちらかといえばそう思わない	2.8%
5	そう思わない	3.6%
	無回答	1.9%

問 15　地域の防災活動における男女の活動

自治会、町内会など地域の防災活動における男女の活動について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。（複数回答）

1	男性の参加が少ない	13.4%
2	女性の参加が少ない	24.8%
3	男性の意見が反映される場が少ない	1.8%
4	女性の意見が反映される場が少ない	17.7%
5	男女の仕事の分担が偏っている	29.4%
6	現状で特に問題はない	18.1%
7	その他	2.7%
8	わからない	37.4%
	無回答	1.5%

問 16　家庭での役割分担

（現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいらっしゃる方へ）

あなたの家庭では、今、どのような役割分担になっていますか。アからクの項目ごとに、次の中からそれぞれ一つ選んで番号を○で囲んでください。

	主に女性の役割	男女とも同程度	主に男性の役割	どちらともいえない	無回答
ア　掃除をする	43.4%	17.8%	3.3%	3.0%	32.5%
イ　洗濯をする	51.9%	11.7%	2.1%	1.8%	32.6%
ウ　食事の支度をする	57.9%	7.4%	1.2%	1.4%	32.0%
エ　食事の後片付けをする	43.5%	16.3%	5.3%	2.4%	32.5%
オ　日常の家計の管理をする	47.6%	11.9%	5.5%	2.6%	32.4%
カ　育児をする	40.6%	15.3%	0.3%	7.9%	35.8%
キ　地域活動(町内会、PTA、ボランティア等)をする	23.2%	16.6%	17.0%	10.2%	32.9%
ク　介護をする	25.2%	16.0%	1.9%	22.2%	34.7%

（「無回答」には、現在、夫や妻（事実婚や単身赴任など別居中を含む）、生活の本拠を共にする交際相手のいない方も含む）

問 17　家事・育児・介護の分担等

家事・育児・介護の家庭内での分担や保育や介護サービスなどの積極的な社会支援について、あなたはどうお考えでしょうか。（１)、（２)について、それぞれ一つずつ選んで番号を○で囲んでください。

（１）家庭内の家事・育児・介護の分担について

1	主として女性が受け持つ方がよい	10.6%
2	男女が共同して分担する方がよい	76.2%
3	主として男性が受け持つ方がよい	0.3%
4	その他	3.7%
5	わからない	4.2%
	無回答	5.0%

（２）育児・介護に対する社会支援について

1	基本的に家族が行うべきである	20.6%
2	女性の活躍を促進する観点からも社会による保育や介護サービスなどの積極的な支援が必要である	66.6%
3	その他	1.9%
4	わからない	6.1%
	無回答	4.8%

問 18　家庭での役割分担の現状

実際のあなたの御家族の生活として一番近い姿はどれですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	男性は仕事、女性は家事、育児、介護(以下家事等と表現する)を担当している	20.3%
2	男性は仕事、女性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている	20.1%
3	男女ともに仕事をし、家事等は主に女性が担当している	27.0%
4	男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている	20.3%
5	男女ともに仕事をし、家事等は主に男性が担当している	0.1%
6	女性は仕事、男性は家事等を担当している	0.8%
7	女性は仕事、男性は家事等に差し支えない範囲で仕事をしている	0.9%
8	男女ともに仕事をし、家事等は他の家族や民間のサービスなどに任せている	0.6%
9	その他	9.8%
	無回答	0.0%

問 19　家庭での役割分担の現状に対する満足度

問１８でお答えいただいた実際の御家族の生活の姿について、あなたはどのように感じていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	十分満足している	22.5%
2	ある程度満足している	55.8%
3	満足していない	16.5%
	無回答	5.2%

問 20　本県における女性の労働条件

本県では、女性が職業を持ち、続けていくために必要な条件が整っていると思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください

1	十分整っている	1.5%
2	ある程度整っている	38.6%
3	あまり整っていない	45.0%
4	整っていない	10.5%
	無回答	4.4%

問 21　出産後働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこと

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。（複数回答）

1	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	68.8%
2	介護支援サービスの充実	21.1%
3	家事・育児支援サービスの充実	16.7%
4	男性の家事参加への理解・意識改革	26.4%
5	女性が働き続けることへの夫や家族など周囲の理解・意識改革	29.7%
6	女性が働き続けることへの上司や同僚など職場の理解・意識改革	32.8%
7	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の充実	19.4%
8	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	29.9%
9	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	20.5%
10	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	10.7%
11	その他	1.8%
12	わからない	2.8%
	無回答	2.6%

問 22　男性が家事・育児を行うことへのイメージ

あなたは、男性が家事、育児を行うことについて、どのようなイメージを持っていますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。（複数回答）

1	男性も家事、育児を行うことは当然である	62.2%
2	家事、育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	30.1%
3	男性自身も充実感が得られる	31.6%
4	子どもにいい影響を与える	65.5%
5	仕事と両立させることは、現実として難しい	32.1%
6	家事、育児は女性のほうが向いている	14.4%
7	妻が家事、育児をしていないと誤解される	9.5%
8	周囲から冷たい目で見られる	3.0%
9	男性は・家事育児を行うべきではない	0.5%
10	その他	2.1%
11	わからない	4.1%
	無回答	2.3%

問 23　男性の家事等への参加に必要な条件

今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を〇で囲んでください。（複数回答）

1	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	49.3%
2	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	6.9%
3	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	55.3%
4	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	32.2%
5	社会の中で、男性による家事・育児などについてもその評価を高めること	31.2%
6	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	42.6%
7	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	25.6%
8	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	8.2%
9	男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	10.7%
10	その他	1.9%
11	わからない	5.0%
	無回答	2.6%

問 24　生活の中での優先順

生活の中での「仕事」「家庭生活」地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先順についてお伺いします。（１）、（２）について、それぞれ一つ選んで番号を〇で囲んでください。

（１）あなたの希望に最も近いものについて

1	「仕事」を優先したい	4.1%
2	「家庭生活」を優先したい	20.3%
3	「地域・個人の生活」を優先したい	5.4%
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	38.4%
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	5.1%
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	12.2%
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて優先している	8.6%
8	わからない	3.6%
	無回答	2.3%

（２）あなたの現実・現状に最も近いものについて

1	「仕事」を優先したい	17.1%
2	「家庭生活」を優先したい	20.3%
3	「地域・個人の生活」を優先したい	4.0%
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	27.9%
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	5.0%
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	8.7%
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」すべて優先している	6.6%
8	わからない	7.8%
	無回答	2.8%

問 25　今後女性の活躍が重要となる分野

今後、どの分野での女性活躍が重要だと感じますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。（複数回答）

1	政治	59.7%
2	行政	57.6%
3	雇用（民間企業）	56.3%
4	農林水産業	14.6%
5	教育・研究	52.3%
6	地域（自治会や PTA 等）	38.8%
7	防災・復興	28.8%
8	その他	2.9%
	無回答	3.9%

問 26　男女共同参画社会の実現に向け、県が実施すべき事業

男女共同参画社会の実現のため、県はどのような事業を実施すればいいと思いますか。御自由にお書きください。

問 27　行政への要望事項

男女共同参画社会の実現のため、県や市町に対しての御要望や御意見などがありましたら、御自由にお書きください。

男女共同参画に関する世論調査
―令和元年度―
令和２年３月

愛媛県 県民環境部 県民生活局 男女参画・県民協働課
〒790-8570 松山市一番町四丁目４－２
TEL（089）912－2332